第六十三號　明治三十年七月五日　郵便報知新聞第一種　明治廿一年六月廿一日　東京小間物商組合可認

東京小間物商組合報

第五

謹告

向暑之砌に御座候得共各位愈御清適御繁榮之段奉大賀候陳者各位も兼て御了知の如く近時何品の原料原材も概ね拂底騰貴致候得共本組合員は夫是に拘はらず一同に特約を結び各店の製賣品は勿論從來東京の特色製品として各位の御賞賛を博しつゝある新形物流行品を始め其他何品にても總て非常の勉强と薄利を旨とし專ら着實懇切に御取引可仕殊に季節に適する新意匠の粧飾化粧品等も數多出來致居候間不相變陸續御注文之程奉願候敬白

追伸　出荷之都合も御座候間全く御品切に不相成候前御注文書御差廻可被下候

東京小間物
御商組合　一同

全國同業者各位御中

雜報

奉公人をして旅籠屋を廻らしむるの利害

骨皮道人

旅籠屋廻りと云ふ何ぞや曰く各地方の同業者が商品仕入の爲めに出京し各自の定宿若しくは他の適當の旅籠屋に投宿するに當つて平素其人と取引ある各問屋が小僧又は大番等をして凡て其客の買ひさうな商品の見本を持參し或ひは何ぞ御用は御坐りませぬかと其注文品を聞きに行かしむるを旅籠屋廻りと云ふなり抑も此事たる何時の頃より始りしか知らざれど要するに其客の未だ能店より買入れざる以前已に其先輩を着んとの目的と一へ遠來の客をして足を擂子木にするの勞を執らしめざるやう好便宜を與へて以て其歡心を買はんとの意より出しに外ならざるべく猶は之を當世風に約言すれば即ち平和的商戰場裏の競爭なるべければ其目的や頗る宜し然れども一利あれば又一害を生ずるは蓋し天下百般の事物上到底免かるゝからざるの通弊にして此旅籠屋廻りに於ても亦種々の弊害あるを如何せん請ふ各問屋の御主人方よ道人をして茲に遠慮會釋なく是が弊害を厭舌の自由を有せしめよ

回顧すれば昨年の六七月頃なりし道人は各地同業者の出京滯在せる人々を探らしめ我商報の發行毎に其旅籠屋と滯在者の人名とを詳記して之を各問屋及び滯在者の便に供し然るに最初の程へ誠に評判もよく各旅店に於て毎號の紙上に家名の出る事に喜び居りしが之を遂行するに從つて段々と奇妙奇天烈なる障碍を發見し結局旅籠屋からお斷りを喰つてオヨヤンと爲れ而して其障碍とは如何なる事實かと云ふに例へば茲に小松田紋太と云へる人あり此人は甲と乙との間に對して當に仕拂ふべき商ひ取引上の負債あり依て此甲乙に小松田紋太なる人が甲の宿に至つてコツソリ出京し今度は丙丁の店に至つてコツソリ仕入てコツソリ帰らんとの心組にて出京せしに豈に圖らんや商報の紙上之を公けに記するの甲乙の債權者ハソレ小松田紋太さんが御坐ったぞ直ちに根ッ子をギウと取ッ締る、と云ふ程の嚴談は爲さずも兎に角出京を幸ひふ拂ひを願ひまうと督促さるゝの苦しみ殆れに出ざるを得ず從て他の旅店に宿泊するに至れば姓名報告の爲めに折角の定客を失ふと云ふ是れ其一例なり而して今一つには何ぞ他の問屋衆が滯在して居ると知れば店を舗皆先を爭ふてドシ〳〵道を來るが故に旅籠屋店頭は殆んど各問屋の小僧大番を以て充滿し其混雜を極むること斯の如し場の時期に於ては何のみならず中に隨分公云ふに忍びざるの横着を飾くるものあり遂に我が商報に出京者の人名記載を謝絶すると同時に却つて商人宿申合會規則なるものを協議確定し以て嚴重に之を取締るに至れり是即ち昨年の十月下旬なり其全文の左の如し

商人宿申合會店則

一出入の各商人は滯在の旅客へ面會を求むるとき其戸主と屋人に拘らず書面は其店の名刺夜間は必ず其店の標章を付けたる提燈を携ふ

一各商人の出入時間は左の如く限る
午前七時より午后十時限り

一帳場に於ては商會人の氏名を予め店主の承諾を得て可らず且旅客の承諾を得ずして猥りに室内に入る

一客室に於ては商談の外空談に時間を消費し左に列記せる諸項を犯すべからず

一旅客の妨害をなすべからず

一旅客他出中の空室に出入をべからず

一客室の内外に於て放歌空談喧騒に渉る可からず

一旅客の雷のたりとも賭博り勝負に類似の戯をなす可からず

一旅客の需めたりとも遊里に同行且勝引すべからず

一旅客の承諾なくして他品又は見本品等を室内に差證べべからず

一旅客に面會を求むるものは出入を差本會を同旅客に通知し且店内へ其氏名を掲示すべし

一此店則を犯したるものは出入を差本會を同旅客に通知し且店内へ其氏名を掲示すべし

明治十九年十月

東京旅人宿組合
商人宿申合會

（以下次號）

東京日本橋區蠣殼町廿番地
東京小間物卸商組合事務所
發行所
郵便料　五號活字廿二字詰一行三回迄一回金拾錢　同回以上六回迄拾壹錢同七回以上拾錢

雜報

◎第二回水產博覽會の準備　第二回水產博覽會は來る九月一日より神戸に開會する筈に付去る會事務局は既報の如く東京市麻布區三聯隊跡に同所に於て之が準備を進め居るが今回の出品者は下條勇一、岡田文次郎、山田爲太郎、山田爲太郎三氏外十三名出張して設備中なるが今同會に付開得たる所を記さんに出品物は之を六部に大別し第一部を漁業、第二部を製造、第三部を養殖、第四部を教育學藝、第五部を機械器具、第六部を水族となし出品物は總て內國產とし內外國覽會共進會品評會等に出品して既に審査を受けたるもの明治二十八年十二月以前の採取又は製造に係るもの、明治廿九年一月以後のものと雖も死亡したるものゝ採取又は製造に係るものの發火及び爆裂性のもの他の出品物に傷害を與ふるもの衛生に害あるもの汚穢醜體のもの等は出品を許さゞる規定にして其內第六部に屬する水族室は目下兵庫和田岬和樂園內に新築中なるが本月末迄でに竣工事を終すると得べし而して陳列品は總て實約を要する故に離れて開會中は場外に持出すを許さず閉會の後引取るものとして去る二十七日迄でに出品目錄を事務局に屆け出でたるものは概數五萬以上なり又出品の務査は開會當日より始め十月二十五日に終る筈にして褒賞は出品人と製產人とを異にすべしと雖も一人にて兼部類に出品し其出品各優等なるべし而して一人にて數部類に出品し其出品各優等なるべし同種の褒賞數箇を受くる場合に當りては一箇を與ふる筈なり又水產產品に限り會場前に賣店を出すを許る筈にて其場所は事務局より無料にて貸與すべしとい

◎帝國技藝員意見提出　本邦美術は其純正と應用とに論なく封建時代の思想其儘にて各派皆其所長と異に其正を進歩發達を沮害するの弊多し加之歐洲各國に於ては却て我長所を採用して逆に我短所を採用するの傾向を有し加之すれば左の如し但し上は本會議（商業會議所委員

謝辞

左に列記する諸氏の孰れも當時の實業界中に於て其名聲最も錄々たるの人となるが其熱誠の溢る處又我商報の同業者を益する掛からざる事を賞賛加ふるに印刷費助として各金若干の寄贈を添へられしのみならず殊に北海道後志國美國郡船越村渡邊藤吉氏の如き頗る敏腹有力の人にまで此賞賛を受る等の弊組合一同及商報の名譽とする所なり依て茲に貴名を列載して聊か其厚意を深謝す

（記名順序不同御海容）

佐久間　信太郎　君
長谷川新右衛門　君
野州李藤郡葛生町　鶴見貞吉君
大州吾妻郡中之條町　皇月義吉君
北海道後志國美國郡船澗村渡邊藤吉君
陸州大宮町　池谷政次郎君

にあらざる有志者をも加へて決議したるもの）に決議したるものにて下は各商業會議所委員にて再調査を修正したるもの即ち確定意見なり

種別	稅率	稅率
物品販賣業	賣上金額	萬分の七
建築業	請負金額	萬分の七
倉庫業	倉敷料	千分の六
金貸業	貸付金額	萬分の七
料理店業	總金額	千分の六
旅人宿業	宿賃	萬分の七
質屋業	貸付金額	千分の十
媒介業	收入金額	千分の十
代理店業	收入金額	千分の六
問屋業	取扱金額	千分の二
仲買業	買入金額	千分の二
仲介業	收入金額	千分の二
勞力請負業	請負金額	萬分の十
印刷業	製本金額	萬分の十
製本業	製本金額	千分の八
製版業	製版金額	千分の八
製圖業	製圖金額	千分の八
製網業	製網金額	千分の八
製造業	製造金額	千分の八
織物業	織物金額	千分の八
染物業	染物金額	千分の八
仲買業	仲買金額	千分の八
問屋業	問屋金額	千分の八
運送業	運賃	千分の八
倉庫業	倉敷料	千分の八
銀行業	利益金	千分の八
信託業	報償金額	千分の八
保險業	保險金額	千分の八

（一）本邦の美術は其純正と應用とに論なく封建時代の思想其儘にて各派皆其所長と異に其正を進歩發達を沮害するの弊多し加之歐洲各國に於ては却て我長所を採用して逆に我短所を採用するの傾向を有し加之すれば左の如し但し上は本會議（商業會議所委員

（二）各專門調査員を選任し時々全國に就き調査する事

（三）專門技藝家及學識家を美術評議員に任命し公平なる評議を爲す事

（四）特殊の製作品出るある時は　帝室に奏請し相當の待遇を賜はらん事を希望

（五）美術の模範品ともなるべき品あれば之を買收し永遠保存せられ度き事

（六）美術大學を創設せられん事

（七）美術博物館を創設せられん事

（八）奈良御寶庫を始め古社寺及各博物館等の保存品を美術家に限り拜觀の殊典を與へられん事を希望す

（九）美術奬勵上其功績顯著なる諸協會には展覽會に際し相當の手當を下賜せられん事を希望す

◎巴里大博覽會出品勵　大隈農商務大臣は去廿八日午後二時より藤村雲田桂尾等の實業家十數名を官邸に招き來る三十三年佛蘭巴里に開く萬國大博覽會はゴ博覽會の比にあらず戰後の日本は殊に各國の視線を惹と故特に美術工藝品の國に於て出品目錄を事務局に屆け出光を發揚するに足るべきものを成るべく多く出品されたしと之奬勵の出品者の數力に在りとの意を以て政府の出品奬勵に關する方針を演說せられ實業家諸氏も之を承諾して奬勵を勉むることを約したりと云へり

◎東北商業會議所聯合部會確定意見　東北商業會議所聯合部會に去る十五協議會に於て本會議にて決定したるものを左に各商業會議所委員のみにて調査を爲すと雖も確定意見なりとして次の如し

（一）帝國技藝員意見提出

（二）各專門調査員を選任し時々全國に就き調査する事

（三）專門技藝家及學識家を美術評議員に任命し公平なる評議を爲す事

（四）特殊の製作品出るある時は　帝室に奏請し相當の待遇を賜はらん事を希望

（五）美術の模範品ともなるべき品あれば之を買收し永遠保存せられ度き事

（六）美術大學を創設せられん事

（七）美術博物館を創設せられん事

（八）奈良御寶庫を始め古社寺及各博物館等の保存品を美術家に限り拜觀の殊典を與へられん事を希望す

（九）美術奬勵上其功績顯著なる諸協會には展覽會に際し相當の手當を下賜せられん事を希望す

●東京の機業界は年以來一般に概して不振の景況なり即ち王子の東京製絹織物試驗所の知き大名木川の絹布會社に於て多少の發達を遂ぐるのみにて其他の近來物價騰貴の影響として職工の賃錢を引上げたるのみならず職工缺乏の爲めに困難を感じつゝある有樣にて其他小規模の機業家は甚だ面白からず近來東京に於て稍々郡部に於ては土木工事の計畫中なりと云へ又同行定款に依り來る八月後二時より日本橋倶樂部に於て通常總會を開き前期の計算及び利益金分配の件を協議し次で取締役拜任に關する件を議し次で日本橋區横山町二丁目の同行にて本月一日より貯蓄業を開始し一口十錢以上なれば何程にても預る由尤も十錢以下たりとも預け主の望によりて一錢と五錢との切符を以て之を預り置き其金額の十錢に滿る毎に通帳へ記するの方法を設けんと目下鋭りに

本組合録事

六月十二日役員會を開き重要輸出品組合法發布紀念大會の件に付協議したり次に本組合役員會に於て付議の件に付左の如し

同廿五日北海道廳令第廿二號貢業規則施行の件に付臨時役員會を開き種々協議の末同規則及明治廿二年二月廿三日發布第六號幷に同同指令寄を印刷組合員一般へ配布する事とし直に之を實行したり即ち左の如し

今般北海道廳令第廿二號ヲ以テ發布相成候貢業部外品營業規則ヲ施行セラレ候旨同地ヨリ通知有之候ニ付印刷配布申上候就テハ本組合員ノ製造又ハ發賣ニ係ル化粧品ノ內染料（ムラサキ色ノ粉かゐ其ノ他）類及ヒ毛生劑脫毛劑ノ類ハ同規則ニ據リ取扱ヲ要スル儀ニ有之候條此段爲念及御通知候也

明治三十年六月

組合員各位御中

東京小間物卸商組合
五二會東京小間物部
事務所

（北海道廳令第廿二號）

貢業部外品營業規則

第一條　貢業部外品トハ鼠取、鼠除、殺虫劑、毛生劑、脫毛劑、除虫劑、染髮料、湿面料、防臭劑、防腐劑等其他治病ノ目的ニアラザル製劑ヲ云フ

第二條　藥部外品ハ製造販賣セントスル者ハ劑名原料分量ノ製造法用法用料効能ヲ詳記シ第一號書式ノ願書ニ製劑ノ名稱及官廳長官ノ免許鑑札ヲ受クベシ其劑名原料分量効能ヲ變更シ又ハ廢業シタル時又同法用量効能ヲ變更シ欲スル時又同法用法用量効能ヲ變更シ欲スル時又同法用法用量効能ヲ變更シ欲スル時又同法用

十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五錢以上壹圓九十五錢以下ノ科料ニ處シ仍ホ無免許ノ製剤ニシテ有害ト認ムル者ハ製剤ヲ廢棄セシムルコトアルベシ

第十七條　本令ハ明治三十年五月一日ヨリ施行ス

第十八條　從來ノ製造者及請賣者幷ニ他府縣下及外國ノ製造ニ係ル製剤販賣者ニシテ引續キ製造販賣シテ欲スル者ハ明治三十年六月三十日迄ニ本則第二條第三條ノ手續ヲ爲スベシ

（第一號書式ノ一）

青藥部外品製造販賣願

一剤名

製造分量

右製造販賣仕度候間御檢査ノ上免許鑑札御下渡シ相成度製剤幷ニ原料相添ヘ此段願候也

何郡何村何番地住（寄留）

何府何郡何村何番地士族（平民）

何縣

氏　何年何月何日生㊞

年　月　日

北海道廳長官及氏名殿

（第一號書式ノ二）

青藥部外品剤名又ハ何々變更願

一剤名

原料分量

製法

効能

右何年何月何日御檢査濟鑑札御下渡シ營業仕候處今般何々ノ廉左ノ通ニ改正仕候間鑑札御書換ヘ被下度此段願候也

一改正ノ廉ヲ詳記スベシ

何郡何村何番地住（寄留）

何府何郡何村何番地士族（平民）

何縣

氏　何年何月何日生㊞

年　月　日

北海道廳長官及氏名殿

（備考）原料分量製法ヲ變更セントスル者ハ其製剤幷原料ヲ添ヘベキモノトス

（第二號書式）

青藥部外品請賣願

一剤名

製造者

郡

何區

何村

何番地氏名

右製剤今般請賣相添此段願候也

何郡何村何番地住（寄留）

何府何縣

氏　何年何月何日生㊞

年　月　日

北海道廳官

尾上菊五郎發明意匠 全世界無類懷中持水白粉

定價 壹瓶 十二錢

右懷中持水白粉之義は蹤て慥風造相成て右雖形之等有に付今般堂へ御注文之程本願上候敬白

意匠發明者 東京新橋 製造場主任 佐々木 江川支店 花王堂 横町二 丸見屋 横町三 柏屋

特約店 銀座一 横山町二 横町四 通旅町 馬喰町一 大和屋 麹町三 田部屋

尾上菊五郎 伊東鬼外堂 野田藥劑師

ライオン齒磨の特効

SANITARE DENTIFRICE LION TRADE MARK SUPERIOR QUALITY SANITARE DENTIFRICE LION

本品は化學作用により多年實驗して好成績を得たるに依り一層原料の良質を撰擇して精製したるものなれば從來世に行はゝ普通齒磨と異質を異にして香氣馥郁として口中の汚物と臭氣を去り齒質を雪白健全なる世界無比にして且該品を常らしもうると齒れ齒齲齒を治し總て口中一切の病を患ふると疑なし是れ本品の特効なり江湖の諸賢續々御試用の上御高評あらんことを乞

東京市神田區柳原川岸廿二號地 電話張花四九八番

東京特約店 横濱特約販賣 横濱市常盤町二丁目 小林富次郎

支店 中村商店

特約店 東京小間物卸商組合各店

○賣捌所ハ全國到ル所ノ小間物店ニアリ

製造本舗

東京 通旅町一丁目 橋町四丁目 大傳馬町二丁目 東南國横網町 柏屋 大和屋 丸見屋 善兵衛 汐見屋 盛榮堂 伊勢屋 吉次郎

愛知縣名古屋市本町通七丁目 鈴木正七製

美人水

此美人水白菊の露ハ其昔幽齋の祖先が京都に於て發明せし後累代家傳の精製品なり

此御化粧水を常に御用ひされば御顔肌へに特効を奏し肌の白らは白菊の露しく床しく自らに美しら飽を出すなり又御化粧の後御顔へ御引き成され候は香氣馥郁として一層の光澤を增すなり

此美人水を以て白粉を御とき成され御化粧遊ばされ候人も宜しく又御湯上りの節御用し成され候は殊に香氣能く不淨を除き邪氣を拂ふなり

定價 小壜舖金五錢中壜舖金七錢五厘大壜舖拾五錢

愛知縣名古屋市本町通七丁目 鈴木正七製

菊の花

廣告ねりおしろい

日本橋區馬喰町二丁目番地 製造元 東京粧園堂

宮内省御用

登錄商標

●無鉛毒白粉元祖

●右薔薇散 白粉ハ是迄●水製●粉製ノ二有之候處今回

●倍舊之御愛顧ヲ以テ

●煉白粉ヲ精製 發賣 仕候ニ付何卒本希上候

製造元寶丹散本舗 東京 東京横山町壹丁目 比留間民藏

肉色●煉製 特別瓶入 白色●水製 大瓶入 中瓶入 粉製 大曲入 小曲入

陸續御注文之程伏而

元發賣本舗 大坂市南久寶寺町三丁目 天野源七

關西特約一手大販賣 萩原吉兵衛

販賣店 東京小間物商組合中

○賣捌所ハ市内及各地有名ノ小間物店賣藥店等ニ於テ大勉强販賣仕候

純良香料 鹿射香薔薇（モスローズ）

登錄商標登錄意匠

純良香料 鹿射香薔薇

金拾錢 金廿錢 金三拾錢 金五拾錢 金壹圓

定價 高倘優美紙包壜入 高等彩色燒付壜入 鼻等彩色燒付壜入 高等彩色燒付壜入 高等彩色燒付壜入

日本特約一手發賣元 芳香藥種問屋 化粧品部 松澤常吉

東京市日本橋區本石町四丁目

東京小間物問屋各店

大販賣 特約販賣 關西代理店 大坂市本町久寶寺町二 小栗小三郎 飯田皆治堂

取次所全國到る所藥店及小間物店に有

登錄商標

歌舞伎岩鹽

各石鹽製造元 澤井栖蝦 東京市神田區江川町拾貳番地 東京市日本橋横山町壹丁目

特約大販賣 天野源七

色もよし 價もよし 評判も慶し 荒れもなし 生れ永し 壯快なる 濟み經減なる 共に術なる 此何處實に 不實實盧 のにも 全く 盧 ないの 保險品也

○遠山霞

一勇子稿

（第十九回）

用心嚴しき梶原が邸に非常門を右に見て一町餘り距りたる納屋の後の籠塚にヒラリと降り立つ右京之進は、脊負ひし太刀の紐を解き確かと腰に手挟みて裏と表の目釘を湿し卒と云へ扱ひ放し傍へに積める藁の如く死骸を積さんず心掛へ身づくろいさへ勇ましく黒白も分かぬ暗の中をぬき足さし足忍び出で納屋の周囲を一廻りして傍への木小屋の前に立ち耳をすまして誠がへば聾見り時より用心かたく表門裏門の両所とも篝火盛んに焚き列ねて固めの人数何十人今が交代の時と覺しく小手脛巻せし兵士ども右に行き左に馳せて見るから事々しき体たらく太刀物の具の響きさへ手に取る如く聞えしかば見咎められじと右京之進は傍へに森々と生茂れる大桐の下を縫ひ〳〵て左の方なる板塀に沿ひ大きなる建物の後に出れ此處へ馬の嘶塲と覺しく前を流れる小溝の側に今を盛の卯の花は咲にもしろく見ゆるにぞ若し腰の馬に見知られ嘶なき聲なぞ立られなイ大事をあやまつ恐れありと俄かに後ろに身を退ケ其上に方の森に分入り忍び〳〵に行く程に此處に一ツの橋りて右へ行けバ表門の左へ行けバ中庭より奥の間の方へ行き掛らる、樣子なれバ左の方へ行かんとする時傍へに戻れる小笹の影に張番をせし一人の兵士スワ曲者といふより早く後より組付きしに子仲業ハハッと驚ろきしが此處ぞと思へバ態と高笑ひ　曳コレサ何と慌てし抽者の顔を見知らぬか今日俄かに召寄せた所個の者と覺るよ抽者は當家の家の子邊見三平太の組の者若者那源太樣の家の子迯見三平太は唯今他所より歸つた者其樣な顔もれする暇で源太樣が何と云に御坐るか一寸教へてくれるがよいと早速の機轉ユ云黒もれ彼方へ飛だ度忽徐ら四方が暗いやも云曲者と見あやまり思へ無疑致して御坐る眞中〳〵底で源太樣の居さつしやいますい此處の築垣を墓手へ廻り露崎邸國の間を分けてダラ〳〵降から樣を渡ると向ふに見へる翁の屋へ了度今行かしやつた那處へ其處許も承知の通り例の姫御が御坐るから迂濶に内へ這入らうものなら源太樣のお眼玉怖いぞや案内頼んで這入らつしやれと云捨て行かんとす仲業は呑じけないと襟を逃べ二三歩前へ出てたゞ俄かに躍を廻らして今行かんとする兵士の後より一刀引ぬき横歟打に着る飛べよと切拂ひしかバ不意を打れてなにかは堪らん武士は胴首二ツに分れてキャッとも云はず倒れたり仲業血刀押拭ひ死骸を傍への藪に押込み「生して置いて〻事の破れ不便ながらも手に掛けた追て吊らムて取らすアと云置き其儘築垣の裏手より那の翁の屋の陣へ行きしに誰ッ火影戸を潜れて内に〻繊弱き女聲聞えた

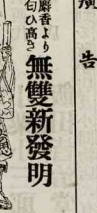
眺付くるを綾衣ハ見向もせず　鱈ッ浮ふ傳坐んす夫程念を押さずとも變がへる心は持ちませぬ夫を貴方が不承知なら斬るとも殺すとも存分になされまゝ行かしやつた那處へ其處許も承知の通り例の姫御が御坐るから迂濶に内へ這入らうものなら源太樣のお眼玉怖いぞや案内頼んで這入らつしやれと云捨て行かんとす仲業は呑じけないと襟を逃べ二三歩前へ出てたゞ俄かに躍を廻らして今行かんとする兵士の後より一刀引ぬき横歟打に着る飛べよと切拂ひしかバ不意を打れてなにかは堪らん武士は胴首二ツに分れてキャッとも云はず倒れたり仲業血刀押拭ひ死骸を傍への藪に押込み「生して置いて〻事の破れ不便ながらも手に掛けた追て吊らムて取らすアと云置き其儘築垣の裏手より那の翁の屋の陣へ行きしに誰ッ火影戸を潜れて内に〻繊弱き女聲聞えた

れば初め此處なりけりと獨り歓頭き雨戸に耳を押付て内の樣子を窺かんとも知らず内には源太樣が枝衣の氣強きに打腹立ち　曳綾衣殿イヤサ女せどいつかな動かぬ鐵石心見るに季平立上り「ヨシ夫ならバ望み通りスッパリと斬てやると腰なる太刀をぬき放し綾衣が前へ突付れド綾衣も少しも驚ろかず季平が前に首さし延べて銀念の眼を閉ぢ芋居たる季平は見て　曳ム〻能い覺悟だ此方の愛しがる仲業も追付此儘り冥土へ差して送つて遣るから那の世へ行つて夫婦になれとあはや電光一閃の下に綾衣の命消えなんとする折仲業の身も世もあられず矢庭に内へ飛入らんとする時季平が郎爲慌だ〻しく走り來り　曳源太樣唯今組の者一名何者にか斬殺され中庭に倒れて御坐ります必定曲者の業と存る故早く越を廻ひますと云捨て立去りもしにぞ源太ハ怖く仰天し傍へに居合す番卒に向ひ　曳コリャ曲者がなるとナすぜ皆の者も來い〻と綾衣を其儘に捨置きて急ぎ彼方へ走り出でぬ

○廣告

●普通麝香よりも甘倍匂ひ高き

無雙新發明



定價
一鍋　金十錢

御直段	
一箱一打入	
一打以上	七十二錢
十打以上	六十六錢
卅打以上	六十三錢

●招客數の註文に對して は特別の御相談可仕候

○**煉麝香**ハ　未だ天下に類なき新發明の佳品ふ〻麝香と高尚優美ならし匂光も夏季あれハ芳香馥郁自ら高尚優美ならし匂光も夏季衾上欠く可からざる良品なり

○**煉麝香**ハ　異中幷の臭ひ而已なら手種々御交際廣き諸君ハ時々少量宛御使用あれバ自身勿論賓客に對し爽快を感ぜしむる佳品也

○**煉麝香**ハ　男女共身体適宜の塲所に塗擦すれ取付香性の惡流行の際などに尤も著しき効驗を有する必要品なり

製造元　本文舗凱　清水清香堂
發賣元　日本橋區横山町二丁目　化粧品問屋　田中花王堂
關西代理店　大阪佐野屋橋通谷角　脇田盛眞堂

●其他東京小間物問屋及び全國到ル所ニアリ

最近登錄商標摘要

●品名、紅、白粉、其他顔料染料數種　一線を以て縦長方形の欄を割し欄内に種々の草花を集め文字又は欄内に角の形の盤上に寶冠の下部に布片を附し其面上中央に周囲を曲線形に刻りたる楯形を置き其記號に鶴し又楯形の左右側に軍服を著したる各〻一人の人物が各々槍を持ち後手を揃の一端に掛け置き正面に向けて立ち又内欄の上部の左右に各一羽鳥が稍々兩翼を擴して止れる樣を畫き其中間に兩端曲折せる弧狀の布形を置き又内欄の下部面に掛けて楯形二個を左右に密接せしめて置き其右方の面内に獅子が体を左方に向け鐙を揃きたる楯の形に前面足を掛けて右方に向ひ立上れる獅又左方の面内には馬が左方に向ひ立上れる獅を顯し其下部に接して左右兩端及下部一邊を横長方形の區劃を置き其下の左右に各々二個の賞牌形の一端を重ねたるものを置きたるもの

獨逸國バサセ、アニリン、ウンドソーダ製造社　ハイインリヒ、ブルンク　同　アドルフ、カヘレン

●品名、同上　上下二部に區分し其上方の部分に横長方形狀と爲し下方の部分に細長き區畫と爲し而して上方左方横長方形の面内には左方に數株の樹木樹木の下に種々の草花を畫き右方に一羽の雉子が左下方に向ひて立ちたる圖を顯し又左右の面下隅に各一匹の蝶を顯し上方に兩端折せる一條の布形を横置し下方より左右兩側の上部に各一羽の鳥が止れる樣を顯し横置し下方左右の部分には横長方形の區劃を置き其中央に紅色の布形を横置し其上方に左右の布形に各一羽の鳥が止れる樣を畫き其上方に兩端折せる一條

●品名、洗料、顔料一切　盾形を擡して臥した獅子の圖　神戸居留地獨逸國　バウム、ホルム

●品名、齒磨　角字体片假名にて「カッパッツ」と列記し其上方に右方の手を提りたる兎端を左方に向けて書きたるもの　東京府　大野直吉

●品名、白粉下　隷書「錦水出」の文字　同　井孝輔

●品名、齒磨　縱格圓形間内に梅枝と菖蒲と同形に畫き其内に浜松小判藥齒磨と記したるもの　大坂府　辻彌太郎

●品名、紅　櫻花形の面上に「花王紅」の三字を記したるもの　同　伊藤清右衛門

●品名、香油、梅花油、香袋、香水、煙草「コスメザック」化粧下、炷香　蘭麝香の文字　東京府　村民歳

●品名、香油、香水、髮膏　文の字右傾を環記して單櫻花と畫く中央に井筒形の中に楷書にて「中」と記したる目印を置きたるもの　京都府　中井助

●品名、紅、白粉、顔料其他染料數種　二匹の虎横濱及神戸居留地獨逸國　フリッツ、ロッセル

●品名、白粉下、香水　艶女水と書したるもの　相島安久利

●品名、石鹸、其他藥劑數種　東京府　左右に皿各々一箇を垂下し支柱の内に洋婦人に擬したる樣衝の圖　私立東京衛生試驗所業務部當社員　青柳醇一

●品名、染料、顔料一切　頭の馬が雜草の生したる地上に立ちたる圖　神戸居留地獨逸國　バウム、ホルム

●品名、同上　牡鹿の首を圖したる袋　花を捲き牡鹿の首を圖し同上の袋　同上

●品名、同上　樣のもの、兩側に猿体の小兒が對向せる圖　同上

●品名、同上　木葉輪の内に獨逸國の徽章を圖したるもの　同上

●品名、同上　右向して前足を上げ叢中に立てる虎　同上

●品名、同上　花神フローラ左向右方を顧みる鶯花を採る圖　同上

●品名、同上　左右側に深林を描き其中間に繰を發射せる太陽形の面上に飛行せる獅子を圖したるもの　同上

●品名、同上　同上雄雌二羽の鶏の圖　同上

●品名、同上　右向して前足を上げ叢中に立てる虎　同上

●品名、同上　花神フローラ左向右方を顧みる鶯花を採る圖　同上

●品名、同上　左右側に深林を描き其中間に繰を發射せる太陽形の面上に飛行せる獅子を圖したるもの　同上

●品名、同上　同上雄雌二羽の鶏の圖　同上

●品名、同上　同上圓環内に樹枝を交叉し其上に鷄が蛇を啣へて止りたる圖　同上

●品名、同上　遊べる景色を畫き其後方より國旗及大砲等の一部を顯し又上部の止りたる圖　同上

●品名、同上　隧道と見張を兼ねた船との圖　同上

●品名、石鹸、其他藥劑數種　東京府　唐装の人物が青龍刀を横たへて椅子に見たる圖　同上

●品名、白粉　二人の婦人　東京府　尾澤豊太郎　愛知縣　鈴木正七

●品名、香水　下せるもの　同　片假名にて「キメチンキ」と書

●品名、紅、白粉、其他染料數種　土屋國次郎　入山形の下に上の字を稲にて抱擁せしめたるもの　東京府　増井米太郎

●品名、齒磨　縱長方形欄内に横長形の區劃又彎狀の唐草模樣を顯したるもの　高橋靖之助

●品名、石鹸　處々に開破せる縱狀形狀の間隙より一人の雅兒が面部前手及足の一部を顯したるものに「ペヒー石鹸」と書したるもの　同上

●品名、香油　花王油の文字　寺澤愚兵衛

●品名、水白粉、白粉と列記したるもの　平假名若しくは隷書にて「ばら白粉」と列記したるもの　大阪府　火焔を發せる圖　北田間民藏

●品名、石鹸其他藥劑數種　この實發明の中央に九に三星を畫き其上部に隷書「生」の二字を記したるもの　東京府　羅島勇七

●品名、紅、白粉其他藥料數種　大阪市　旭鶴に龜の圖　横濱居留地獨逸國　ハンス、ヨハヘン、ホルム

●品名、齒磨、洗粉　石花散の文字と鷹の圖　東京府　尾澤豊太郎

●品名、紅、白粉其他顔料藥料一切　栃木縣　金井森作　尾と兩翼とを擡げ體を正面に向け右方を顧みて立てる一羽の孔雀　神戸居留地獨逸國　バウム、ホルム

●品名、顔料藥料一切　一個の最上に止れる鶯の圖　同上

●品名、同上　胸に蔦柏の紋を有する惡比須の圖　同上

●品名、同上　左方に走れる一匹の鹿　同上

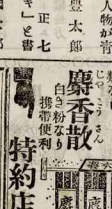
●品名、同上　一羽の怪鳥が左方に向ひて翼焔を吐くの狀を顯し其上下の左右に圓形を配置したるもの　同上

麝香精　大中小各種

麝香水　右二品いずれも本國中に比類なし

麝香散　携帯便利

特約店　東京小間物問屋各店ニアリ



◎麝香の臭は雲南麝香を以て製したる品と等しく上等なり此三品は以て製したる品と等しく上等なり

麝香長く保つこと確實也

衣類に好匂ひうつる

●取次御注文被下候へば本舗同樣相働き申候

●御注文被下候へば各地問物問屋は左の特約店へ御注文被下候へば本舗同樣相働き申候

東京市神田區佐柄木町

山本逸造鑑製

麝香水之元祖

白粉問屋

東京市日本橋區塩町八番地

木津常吉

磨店販賣之諸品は何れも實用的堅固を旨とし就中精巧原料を撰み加ふるに精巧手練の職工を以て確實なる物品を調製し專ら薄利を極め價廉を主と

社會の進歩と共に新形流行品を整製專賣す

勉強品物　親切丁寧　精良毛革　提鞄革靴　煙草入　巾着類　流行新形　實用新案　工學校用　製造器具　撃劍道具

美人相會高評博したる化粧品大王

西洋各國にて大流行の實に奇妙なる「無毒せる御化粧水」別嬢おあろい一名透明水白粉

定價　大瓶二十錢　中瓶十四錢　小瓶七錢　別製　五十錢　三十錢

原品直輸入元

獨乙イスキング會社

理淡化明学水白粉標

一名商

◎此別嬢おあろいの一目見れば只の清水の如くなれども不思議にいろを白くする事雪の如く玉の如く水揚がりかゝみを用ひずして其場ですぐに用ふるとも決してひらにならず○あせ不○ふきでの物は立所にとめるがゆゑにこれを用ひ玉はゞ人一倍の光彩を放つ

化粧品小間物齒磨問屋

東京市日本橋區横山町三丁目一番地

白光散本店

東京市日本橋區横山町一番地

三橋兎喜次郎製

特約代理店

東京本橋區横山町一丁目　源七

同通旅籠町四丁目　天野

同通旅籠町一丁目　丸屋善兵衛

同神田區須田町　尾崎

同喰違三番町　武井龍三

同神田區三河町　大木口哲

全國至る所の小間物店及び藥店に販賣所あり

獨逸最上特製石鹼

美人の美しくも変りなければ何足らぬ心地はすれども婦人心細の花の無いと思はるる時は延命散を持へられれば管に恐あるも花なく無しかの匂ひ感ずるとは此れに尤無き特効品なり日々朝夕に用ひ恐るる者に非ず延命散は其の効能あるを知れば常に携帯せざるべからず

延命散

東京日本橋通本町三丁目　電話四百三番
發賣所　どら屋　國城商會
東京市日本橋区本石町三丁目拾八番地
特約販賣屋　日本橋区馬喰町一丁目　大坂屋　井上太兵衛
大販賣所　同区二柯町一丁目　田中善兵衛
○請賣ご注文は君ハ有ノ特約店及大販賣所より傳聞求ヲ乞

改良有功新化粧劑

是ニキビ水い第一色をあせも白粉やけにきびには尤も効白くしつやを能くしに特にして其他

ニキビ水

商標　特効　無比

東京日本橋区本石町三丁目拾八番地
特約販賣屋　日本橋区馬喰町一丁目　大坂屋　井上太兵衛
大販賣所　同区二柯町一丁目　田中善兵衛
○請賣ご注文は君ハ有ノ特約店及大販賣所より傳聞求ヲ乞

獨逸石鹼特約期限

是揺の駒の逸早く下段案告の獨逸石鹼特約期も既に半過し今や二旬余を以て盡きひとす小間物商各位にして本品に愛顧を垂れ將來御勉賣被下候御思召の方は此際御注文願上候

下記の規則は元来極安なり故に八月一日より斷然規則に回復して些少共割引するとなし逸早品も期月後は相當の代價を請求す是れ薄利の品故到底無代價逸早をるの儀希なし

本月より新聞紙上廣告可致に付本品請賣者にして便利店より御取次の向へ御通知相願候

本舗は本品廣告取次欄へ貴名拝借可仕候本舗直接取引の向は仰せ無之其旨諸捕入可致候

本舗は賣揚めし後の御注文干打より宜敷の際の御注文一打の方が難有き深く肝に銘ず

左の便利店は本舗と特約有之候に付請賣御趣の向は御便宜多少共各家へ御申込被下度候

故めて便利店の特約を結び度御希望に後は下大本口哲又は大木合名會社へ御相談相願候

●東京市内之部

同区神田花房町萬世橋東角由崎雀國堂
同区日本橋区馬喰町壹丁目中尾貴平
同区同区横山町四丁目田中北平堂
同区同区浅草田町宝善地丸善商店
同区同区鍛冶町四丁目藤本商店
同区同区麹町区三丁目十九番地部重兵衛
同区同区銀座一丁目二番地佐々木商店
同区日本橋区本石町三丁目佐々木榊愛堂

●各地方之部

大坂市心斎橋通八幡筋　三友商會
同大坂市中野町三丁目　森玉林堂
名古屋市京町二丁目　大坂市久寶寺町三丁目　柏木秋本商會
上野國高崎町三丁目　同上野國高崎町三丁目　秋本秋岩屋
豊前中津町三丁目　肥後熊本河原町　三山上本商店
周防國三田尻町　北海道函館新川町　橋本伊平
横濱市尾上町六丁目　越中富山新町　國領伊平
同横濱山下町二丁目　寺田二郎
同横濱山下町三丁目　溶強丸本舗

賣揚御賣捌會社

獨逸石鹼便利店

東京小間物商報

六七月中注文の利益

獨逸石鹼

世界無比

小形フラフ看板
ポール看板
引札看板
柱掛美麗ベ看板
箱ベンキ塗木看板
同仕掛美麗看板
前記石版摺挿入
同屋根掛美麗看板
同看板
同柱掛
同看板
同看板
同看板

（十）

●同業組合聯合の方法　府下各同業組合は聯合會を組織せんとて運動中の者もあれども斯ては多分の經費を要し維持の見込入分ならざるを以て寧ろ五二會を利用し聯絡の目的を達するに如かずと云ふ者あり有力なる組合は大抵此説に同意せらるなど傳ふるのあれども如何や

●葉烟草買上價格　明年一月より實施せらるべく若し又現時の相場を以て買上るとせば耕作人の利益大なるべし蓋し今日其不利益を感ずる事大なる迄總て廣貴せし今日の如き不景氣の時に於ては買上ぐる時に耕作者が小作人夫の賃銀肥料價等に至る迄總て廣貴せし今日其不利益を感ずる事大なるべく若し又現時の相場を以て買上るとせば耕作人の利益大なるべし蓋し

⑩貿易衰弱の病源

我邦海外貿易の事情衰弱の原因は徒らに我商人の者として鑑識道に徙せて其振興策を講ずる最近の目英貿業の病源とし即ち我商界の脅威として内地に地位勢望を有せる今の所謂紳士豪商の内情なりとす是等紳士の資業営業なるもの其官廳業務の為に其一身を暴富せんとの心入りして曾て一國生産興業發達の順序若くは全國交通輸運開發の程度など毫も顧みず所謂事業に附し其成算の未だ立たざる事業に向て事業の林勢（政）等が方寸中に屈伸自在なるを以て何を若んぞ現に此等商業中に、銀行頭取として其金銭を預かる為に最も便利と堅固の方法を以て廣く公衆の求めに應せんとする所なり

貯蓄預け金心得

一初めて貯金を御預けの方は金子と印形とを御持参あれば當銀行は御預りの手續をなすべし

但如年に印形なき向は父兄又は後見人の御印形を持参なさるべし

一御預け金は拾錢以上なれば何程にても預るべし

一御預け金の證據として姓名金高を明細に記したる通帳を差上可申に付預け入の節は必ず持参なすべし

一預け金引出の節は通帳と印所とを持参なさるべし當銀行は營業時間中は何時にても拂戻すべし

一御預け金の利子は年六分（即ち百圓に付一ヶ年六圓一ヶ月五拾錢となる）と定め毎年五月及十一月の末まで区切りて計算し元金へ組入すべし但利子の割合を變更する時は新聞紙にて廣告すべし

一預け金は其月五日迄の分は全月分の利子を附し十五日迄は半月分十六日以後の分は翌月より利子を附すべし

一拂戻し金は十五日以前は其月の利子を附せず十五日以後は半月分の利子を附すべし

一壹圓未滿の金高には利子を附せず又利子の計算上毛以下の端數は之を切り捨つべし

一貯蓄奬勵の爲め滿三ヶ年絶へず預け入一度も引出さざる御預け金は翌年より特別の利子を附し滿五ヶ年以上に及ぶ時は更に特別の利子を附すべし

一御預け金は一口拾錢以上の定めなれども預け主の御請求により拾錢以下の金高は切符を以て預るべし其切符は壹錢五錢の二種とす

一通帳紛失又は水火盜難に罹りたる時は速に通知なさるべし當銀行にては相當の手續をなし更に通帳を御渡し申すべし

一印形の紛失又は改刻の場合も前に準じ通知なさるべし當銀行にては相當の手續相濟までは預け金の拂戻を見合すべし

但住所姓名の變更も同じく通知なさるべし

一御預け主より右等の通知なき時は他人に於て其通帳と印形とを以て預け金を引出す事あるも當銀行は其責を受けざるべし

一御預け主は元帳の突合及び利子記入のため毎年一月と七月とに通帳を持参なさるべし

一當銀行は預け主の御姓名又は金高等決して他に漏さざるに付御心置なく預け入れらるべし

一當銀行の營業時間は午前九時より午後四時迄とし毎日曜及大祭祝日の外休業せざるべし

此心得書は當銀行の都合により更正する事あるべし

東京日本橋區横山町二丁目十一番地
株式會社　東西銀行
頭取　辻金五郎
取締役　辻金五郎吉
同　長瀬清富
同　山口輪善兵衛
同　三杉谷庄兵衛

日本橋區横山町二丁目
株式會社　東西銀行
（電話浪花二八四番）

貯蓄預金

利子一ヶ年六分ノ月割
明治三十年七月一日ヨリ開始

動儉貯蓄の必要なるは貴人の知る所にして愛に多言を要せずして今の世は金の世の中なれば各々身に金銭の貯へあくして世に立て事を爲し人に交ひは事能はず左れば少しの金銭にても無益に費さずして平生収入の幾分を積み貯ふれば知らず識らず多額の金圓となりて商業の資本子女の教育養老の手當其他不慮の病災難に逢ふも人の厄介なるを免れ其他不時の病災難に逢ふも人の厄介なるを免れ其他不時の病災難に逢ふも人の厄介なるを免れ其他不時

反古志トベ

（天保十三年五月十一日）

▲天保年間觸書の寫し（承前）

諸色高直にては四民困窮の基に付今度十組上金を始め總じて物價に不拘節約の上金類幷に冥加を以渉用相勤候向々へ貸付人足等迄不幾渉免之上渉世話も有之候處諸色直段の儀日用の品ハ追々引下げ候趣に付候得共品柄により一向直下げ等不致分も有之或ハ品を劣らせ悪目付有等を減じ如何の實方致候ハ、右の有之哉に相聞不球の至に候有名人間の通相違も無之に於てハ渉世話の儀ハ悪の渉慮意不行屆直下げの詮も無之候間銘々城下安住いたし渉國恩を以て無異に家業を營候冥加の程を相弊へ實意に立戻り正路に渡世可致候高一利徳に泥み心得違の者も有之候ハヽ密々役人相廻し買上置品嚴重の咎申付るにて可有之候年去元方直段引下げ方の撫合行屆兼無據直下げ難成譯抔も有之候ハヽ元方掛合の書面を以て無埒の節早々月番の奉行所へ可訴出候左候ハヽ遂吟味元方不埒の筋を糺す夫々直下げ荷元等の悪合可致候

寅五月

右之通從町御奉行所被仰渡候條早々町中端々迄不洩樣可相觸候

但番屋々以太筆に相認め可張出置候

寅五月十二日　町年役寄

（同年同月十五日）

一湯錢の儀此節一人八文に引下げ有之候得共諸色直段御世話被爲在追々引下げ候釣り合に不相當に候間大人小人供一統六文に引下させ可申旨今日南番所掛方被仰渡候湯錢一人六文の湯屋共表へ張出し置候樣御組合限り早々行屆候樣御取斗可被成候以上

寅五月十五日　市中取締掛月番

●近世奇跡考（抄錄）

◎夢市郎兵衛明石志賀之助の事

市郎兵衛に强氣の男達、志賀之助に大力の相撲取にて、ともに寛永中をさかりに經たる者なり、かなに時仁王仁太夫といふ者あり、凡人ならぬ大力にて、其力はかり知りがたし、其頃京都の相撲に、志賀之助と仁太夫両人をめさる、志賀之助兼て市郎兵衛と友たるゆゑ、其相撲の後見をたのみ、連だち下て京に上る、東の大關に仁王仁太夫、西の大關は明石志賀之助なり、已に其日にいたり、両人土俵のうちにすゝむ時、市郎兵衛志賀之助に對していはく、今日の汝ぢ一代のはれの勝負なり、もしまけなば、直に汝を殺し、我は腹さきて死ぬべし、よく〳〵心得べしといふ、さて行事贈扇をとりければ、両人たちむかひ、しばし位を見合せて、やと一聲さけび、たがいに組てもみあふに、市郎兵衛ハしばらくも、目をはなさずしてつけまゝ、時に仁太夫やまさりけん、志賀之助を引ひすび、つとさしあげてなぐると見ゆ、見物の諸人手にあせをにぎり、あはやとかゝる處に、志賀之助早業の達人なれば、空中にてひるがへり、ちさまに仁太夫が胸を蹴て、土俵のまん中にうちたふす、これより志賀之助、日の下相撲開山と名告る事をもるさる、しかるに、仁太夫かたの惡輩等、これを意恨におもひ、志賀之助を打殺さんとはかるよし、市郎兵衛聞きつけて、志賀之助をバしのびやかに江戸に下らせ、おのれハ黒繻子の羽織の脊に、明石志賀之助と、金糸を以て大文字にぬはせたるを着し、鳥籠笠をまゝかにさして、長き刀をくわんの木におび唯獨京都を發足す、仁太夫かたの者等、此あるさまを見て氣よくれし、手をむなしくしていまりけるとか、市郎兵衛老後更にをして相州田村の邊に隱遁しけるが、兄放駒の四郎兵衛身まかりしと聞き、今は世におもひ殘す事なしとて佛間にこもり居て食をたち、念佛のみ唱て死しけるとなん「古今俠客傳」に見たり（未完）

帝國唯一人躰垢落し廣告

第一はだをやわらかに色を白く
飽を出し眞のやまとはだに
そむかざる無垢の垢落しなり

定價
小袋六十包入ぬぬ袋包金十五錢
同仕入紙代同金五錢
販賣淳望ノ方ハ淳通知次第割引法申進候

製造元第一工場　尾崎氣樂堂
同第二工場　高木新助
發賣代理店　江川支店
關西特約店　京都市松原通高倉西エ入　海津與兵衛
大坂南久寶寺町三丁目　小山由藏
日本橋區馬喰町二丁目　平尾贊平
同區横山町二丁目　田中花王堂
同區蠣殼町四丁目　丸見屋善兵衛
京橋區銀坐一丁目　佐々木玄兵衛
名古屋鐵砲町三丁目　大橋博愛堂
同區十軒店角　森本善七
其他販賣店ハ東京小間物卸商組合各店又ハ賣藥店ニ賣捌仕候

特約販賣店

全世界無比
またはだなし

登錄商標　匂袋兼用玉の肌石鹸（郵券代用紙幣）切手に限る

玉の肌ハ薫香御郁四方へ拂ひ匂ひ袋の代用を爲す日常に必携の高等石鹸なり
玉の肌ハいきめを潤に色を白くし皮膚に宜しき衛生唯一の石鹸なり
玉の肌ハ純良の藥品を以て製造し皮膚に宜しき衛生唯一の石鹸なり
玉の肌ハ美麗び精製す故為に水に溶解する者為に水に溶解する者
玉の肌ハ美麗び精製す故為に水に溶解する者
玉の肌ハ美麗び精製す故為に水に溶解する者
玉の肌ハ美麗び精製す故

●女中庸（承前）　作者不詳

若夫にすてられ果なば相を絶たる船の如くよる方もなく浮岩ぬべし心を慎み て高事につさ私なく縋る妻貌い生賢なれば美も醜も力ばすに恵まれ善もなり悪くもなるものなれば高慢みて大事にかくべきあり縋ひ夫死しての後も貞心をやぶるべからず二夫に見へんことあるまじき事なり間の体を見るに女の夫に別るゝの時ハこしあたり歎きの餘り髪をきり衣を染るのたぐひ多けれども日数やう〳〵つもりぬれば遠ざかり其心に疎く慕ふ遠ざかり哀みも早晩しか失ハて、近づく恋慕かかれて浮名を流し恥を蒙はすこと心憂かるべし存生たるとき貞心潔すして死する何の怨みによりて志しを誼るべきや縋ひ又存生たる時ハ恨みありし間なりとも我身の恥を知らざらむや此心を能思ひて身をあらぬ人に寄もるべからず

一新古今集不邪延孤の意を謳る

さらぬだに重きがうへの小夜衣
我つまならぬ妻なかさねそ

男にてだにいろに耽るに増て女の邪淫たらんか佛も踏みたまひ神も憑み果たまふべくなかゝ云ふ方なき仕形なるべし都て女の道ハ我夫ならぬ夫を重ぬることハ叔置きて真女二夫を綾すと史記と云ふ書にも見へ侍り昔し唐に姚玉燕といひし女子十六歳にて夫失ければ父母はそれを他夫に配せんと云ひけれ ども女は真女の道を失はんと親の言葉にも従はずたゞ寡ぬ少婦なる家に年来邪馴たる燕の一偶わりけるが雄失て雌だ孤異雄にも偶はで飛あるさけも姚玉燕その雌に云やう汝心あらバ異雄に配偶ことなかれ自から食を啄ひ自ら同じ清き心ハ云てあれかしと云合ひ鶏を もて其思につけて印をして念頃に同ならんけり

（まだある）

●話稿　鹿の子餅　作者不詳

◎桃太郎

桃太郎は、鬼ヶ島へ渡り、もとで入ひかし〳〵の桃太郎は、鬼ヶ島へ渡り、もとで入す に多くの寶を取て来たげな、これほど手みじかな仕事ハない、しかし犬と猿と雉子が供をしたとある、おれもやつらをこまつけるがよいと、かの日本一のきび団子をこしらへ腰につけて行く、向よの岩ばなに猿が出て居る、まづしてやつたりとうれしく、件の団子ぶらつかせ行過るを、猿よびかけ、おまへへこさるの、おれかおれハ鬼ケ嶋へたからを取にゆく「腰につけた何でござる「是ハ日本一のきびだんご、猿うかぬ顔にて「こいつうまくないやつだ

◎牛と馬

總ひ山けだものゝ中で、爪の割たものゝ道が早いゝ、犀などゝいふやつ、爪が割て居るによつて波をはしるとゝいふやつ、爪がわれて居るによつて波をはしるとゝ飛んだこつた「ハテナしかし馬ハ爪がわれてなければ道が早い、あれはどうしたものだ「あれハ爪が割た居るから、まだ人が乗られる、あれが爪がわれて見やれ、不断飛ぶやつで、中々人が乗られる物ぢゃない「牛ハどうした物だ、あいつハ爪がわれて居れど道がおそい「あれかあれハ爪が割て居るから道をおそい、あいつが爪が割ぬと、だらなし動くとつちやない

◎煙草入

古代の翌にてたばこ入を数ゝこしらへ、眼鏡をあげる者あり、望んで見れバいかにもおもしろう翌あり、まづ此錦ハいかう結搏なきれさうにござります、これハいつ頃のきれでござります「それハ實盛が錦のひたいれの翌さ「いかさまさうもござりませう、又この蝶のちゝ〳〵見へます「それこそ曾我の五郎がはん切のきれでござる「して又てハ白地のきれに、赤い處の見へます「とや牛若の大口のきれ、その赤い處ハいがきの模樣のきれたのでござる「扨よくおあつめなされました、どうしてかうい樣まりました「みんな人形屋で貰つて来ました

（未完）

第四回内國勧業博覽會
有功賞牌受領
最良香油　八千代
積撰香油　あらい油
改良法製造明
あらい油
東京日本橋區
田所町四十番地
井筒屋香油店

弊店製香油并煉油之廣く世上の好評を得品質の精良香氣の可愛販賣の夥しき既に諸君の御信認を辱する處也釜々勉強御愛顧の厚きに酬ひ本んとす伏而御用の程奉願候

陸海軍御用●近頃非常に名高さはみがき
米國シカゴ府……グレード會社製

登録商標
SANITARE DENTIFRICE
Trade Mark
GRADE & Co CHICAGO
米國シカゴ府グレード会社製造博士
日本醫科學士……益田廣信先生御信認
英京倫敦地獄谷……マクドナルド先生御証明

巣印歯磨粉ハ彼の米國に世界に其名聲なる歯科學博士「ダイヤハム」氏の方劑にして當時シカゴ府に於て非常の名聲を博し紳士貴婦人社會に賞賛せられた良品なるを以て遥国弊店日本一手特約を結び洛く販賣す其の衛生上有効なる以上なるも左の諸大家の信認と証明により敢て喋々を要せず

シカゴ府やぐら西洋象印はみがき　定價　三錢　六錢　十五錢

名古屋簿馬町六丁目　水谷仁三郎
函館末廣町二丁目　太平堂
會津若松町　河内屋
神戸四丁目　村屋
横山町二丁目　樂浪館
原町　棒屋
撫川町　株式會社
通柳町　齊藤
山下町　竹内
小林　富久
佐野　小兵衛
宗兵衛
三橋　晃
南一條柳町
西三丁目
草野部
幸太郎
佐藤
田立
藤太郎
降旗
要太郎
大阪横堀　大遠
甲州　飯田
東京日本橋區道修町　傳一
信州　横川
福島　横山
秋本町
秋田　佐々木玄兵衛
仙台　花王堂
山形　富久
福井　宗兵衛
金沢　小兵衛
京都四條柳馬場
京都　通柳
京都　原町
京都　撥川
京都　山下
京都　小林
京都　佐野
京都　三橋
京都　南一條
京都　草野
京都　幸太郎
京都　佐藤
京都　田立
京都　藤太郎
京都　降旗
京都　要太郎
横浜市西横町
廣島市
廣島縣府中
廣島縣後町
廣島縣横川
其他至所ノ小間物店賣藥店アリ

日本一手販賣
安藤井筒堂
井筒販賣店
東京東京麹町水天宮前

特約店賣販

花王石鹸

花王石鹸ハ品質最も善良にして特に皮膚の美艶をまし且衛生上に特効あるハ畏くも

宮内省陸海軍帝國醫科大學御用

を命せられ或ハ博士大家の實驗證明を與へられ洽く内外需用諸君の高評を博したるを以て推知せられんとを希ム

●賣捌所ハ全國至る處にあり

近來粗製品類似の躰裁を附し販賣する者有之に付本品の正圖印登錄商標及長瀨富郎名義に御注意の上御求被下度候

東京馬喰町貳丁目　電話浪花九二二　**長瀨富郎**

鹿印煉齒磨

ハ

良質佳味ニシテ衛生上最効能アリ使用後精神ノ爽快ナルハ本品ノ特色ナリ

發賣元　東京馬喰町二丁目（電話浪花九二二）　花王石鹸本舗　**長瀨富郎**

元祖水おろし　若ざくら

一等化粧品

元祖水おろし　若ざくら

東京水市神田明神下　大和屋鹿治郎商門製

販賣　各化粧品　小間物店

元祖　祇やおろし　津や櫛

錫器入

同御懷中用

天下敵

婦人社會に信用を博せり

髮の潤粉ハ店專一品なり

登錄　**雪の艶**　商標

定價

壹錢賣袋入五十個　壹錢貳錢賣袋入五十個　三錢貳錢賣袋入五十個　五錢賣袋入五十個　五錢賣袋入五十個　十錢賣袋入五十個

注文の方ハ見本品一袋宛看板一枚

注文の方ハ見本品百袋宛引札千枚

注文の方ハ見本品貳百袋宛引札千枚

注文の方ハ見本品貳百袋宛引札千枚

注文の方ハ見本品貳

元祖　おなじみ……あせらず……**本舗**　東京鐘橋　**德田多助**

釋師商標

東京鐘橋角德田多助製造

一個　三錢五厘

●あせせうの御かた
●總てあせもを直し
●御湯あがりのとき
●客扱の御婦人に必要
●諸がい御つとめの人
●匂袋の代用に最も妙

此あせらず……は正眞の麝香と最も高尚の匂ひある優美の御打粉なり

偽物御用心

○休裁及能書等本品に摸僞一たる類澤山有之候間御注意を乞

賣捌全國到處小間物店貴藥店等に有り

德田のあせしらずと申て御求願……

卸賣特約　小間物問屋貴藥問屋にて勉強販賣仕候

東京德田多助氏製造に係る元祖改良御打粉（登録商標）あせしらずの義自今下店に於ても特約の上大に擴賣致候間全國御同業の各位樣多少に不限御注文奉希上候

大阪三久堂製造に係る一名天瓜粉あせしらずの義は本日限り製造及び一般發賣を廢止致候間此段廣告仕候也

明治三十年六月十日

大阪南久寶寺町三丁目　**三久堂商店**

懷別嬪印中百日香水

定價十五錢の物全形六分の一圖形

此一瓶を携帶する時は一百日の間を放つ

此一瓶の香水は眞に非ず一種の新案の箱子器にして一個の鈴を添あれば是を襟裏懐中袂等適宜の場所へ掛置時は其上方針程の微細目より能く百日之間、美妙の奇香を發し風和に從ひ身体、襟部として高尚優美に至り、都人士の愛賞する所なり知所に有の新意匠品にして完備の珍品なれば江湖の諸婦士一トタビ御賞顧あらん事を乞

發賣元　東京麹町區内田化粧品問屋　**田中花王堂**

廣告眞麝香入製造定價五拾錢　普通瓶小瓶定價拾五錢　遠國は送料二錢共小瓶に郵券代用一錢を要す

發賣　●御賣成数一打以上一圓二十錢●三十打以上一圓十錢●御姓名いろは順

當分の内五打に付色布看板二枚（宛の割を以て無代價差上げ候）

●井筒堂●石田●博愛堂●莊富岡●大野●大木●尾德●脇田●龜忠●柏善●岳善●大丸●武井●玉置●都築●長瀬●村藤●丸善●萬金●政本●江川●秋田屋●佐々木●三善●近源●汐見●平尾●森本●炭善●杉谷●鈴木留吉

特約店　馬喰町一平尾賛平　長瀬富郎

夏季賞用
優美清涼
燈心特製

意匠風流
裏更紗粧
夏季適應

小間物問屋
東京市神田明神下
大和屋惣右衛門

東京桜山町二丁目
田中花王堂廣告

最上等匂袋定價

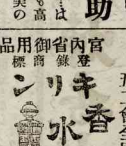
ウ　百花園　麝香入製紙珍品桐箱一個入七十五錢
ハ　國の華　桐箱一個入五十錢
ロ　君の薫　麝香入製紙珍品桐箱一個入五十錢
ホ　梅の風　桐箱一個入廿錢
ヘ　牡丹　特製錦織唐草桐箱一個入十五錢
ト　萬里香　麝香入製紙珍品桐箱一個入五十錢
チ　麝香入製紙珍品桐箱一個入廿錢
リ　麝香入製紙珍品桐箱一個入十錢
ヌ　麝香入製紙珍品桐箱一個入十錢
ル　麝香入製紙珍品桐箱一個入十錢
ヲ　麝香入製紙珍品桐箱一個入十錢

發行販形之内

登録商標

特約店　馬喰町二丁目二番地　東京馬喰町二丁目二番地　通旅町三　**佐野小兵衛**　**篠崎又兵衛謹製**　名古屋　**水谷商店**　**都築辨吉**　**田部重兵衛**

宮内省御用品標　**登録**　**キリン香水**　**五一會全國品評會**



キリン香水ハ品質佳良ニシテ舶來香水ニ優ル

ホツケツト瓶ハ懐中用トシテ特ニ便利ナリ

京都紀念博覽會ニ於テ**有功賞牌**ヲ受領ス

氷ク腐敗タル勞苦ヲ保ツヲ以テ專一トナセリ

伏テ乞フ實際御試用ノ上御引立アランコヲ

特約店及本社各御取引各店ヘ御注文被成下度奉願上候

雲南麝香入
式部石鹸
壹個美艶箱入　代金三十錢

麝香入
歌姫石鹸
壹個美艶箱入　代金廿五錢

麝香入
梅ケ枝
壹個代金拾五錢

麝香入
花の露
壹個箱入　代金拾八錢

理化應用衛生化粧
大日本
壹個代金拾貳錢

今回弊社發賣ノ右五種ノ石鹸ハ品質優美善良高尚優美ニシテ其原料及ヒ製造法ハ數年間高國未曾有ノ如キ精製セント欲シ大ニ奮發シ螺鈿辛者チ當ク石鹸ノ今回精製ヲ企テタルナレハ時勢ノ然ラシムル所ト云ヘハ恰モ一流行品ナリ弊社ハ此度ノ麝香ノ純明ナル証明ヲ得タルヲ以テ愛顧ヲ願ヒ御効ヲ論セス原料及製造法ノ異ナルヲ知リタル諸君ハ御品評アランコトヲ賜ハレ

諸石鹸發賣元　東京堀江町既丁目
平谷合資會社

平尾贊平夏期發賣品廣告

元祖

大日本帝國農商務省御指定特許
東京馬喰町壹丁目
小町水
岳陽堂平尾贊平製

創設廿五年紀念博覽會有功銅牌拜受

第四回内國勸業博覽會評議員賞　第五回内國勸業博覽會評議員賞

本品ハ明治廿四年創業以來内外各地ニ非常なる好評を博し從て販賣高ノ多キ事日本全國中第一とす且品質ノ良ト價格ノ瓦廉ナルトハ博ク識者ノ認ムル處也

定價（袋入二錢小箱三錢大箱五錢五錢同形鏡付増入八錢鏡入入付増入五錢鏡等等各木箱入廿五錢）

貴重品
ダイヤモンド粉
商標登録
製造元東京平尾贊平
効能　歯磨ノ製法十餘年ニ亘リ研究ヲ重ネ本品ハ世上ノ歯磨ニ比シ共ニ大ニ優ル所アリ

本品ハ世上歯磨品ト異ナリ我國ニ於テ合剤セラレタル効驗藥品ヲ以テ製造シ身體ヲ害スル事ナク第一ひやかすべからず　はたむし　田虫　外吹出物　あせも　あれ　ひび　たこ　わかもの　はしり　ひる　ひとしく　ひとしく　ひとしく

○地方制度の擴張

戰後の經營急なるべき方り目下の國情を見れバ頗る多事多端にして內治の整理は財政の整理と相待て急要なること今更言ふ迄もなく政府に於ても既に口に言ふ易くして之を實行するの一段に至るまで鋭意行政整理又は條約實施の準備等に力むる由なれども行政整理は其容易なるべからざるは勿論地方行政の簡略化は過般の地方官會議に於て現今の地方制度は數年來の實驗に依り往々欠點あることを發見したるを刷新して實來の弊政を一掃するの止む可らざる當局者に於ても既に之を認め現に樺山內務大臣は過般の地方官會議に於て現今の地方制度は數年來の實驗に依り往々欠點あることを發見したるを刷新して實來の弊政を一掃するの止む可らざる依り早晩改正を加へんと云へども云へども未だ實行を為したり而も目下引續き警部長會議幷に目下開會中の典獄會議に於ても同樣地方制度の改良發達を謀るべき旨を陳べたるに依り考へんれば遲し若し今日直ちに之を實行するとせば如何なる成算あるも尚ほ脆弱の性質ある新事業は到底庸政の許さざるよしの所なるを以て差當り弊害の改正より着手するよしにて明年度の豫算百餘萬圓は全く之を生ずる經費の增加に充つる目的なるよし而して樺山大臣の意見の制度の利否は運用の功拙如何に依るを以て之が物の適用は尤も要なりと云ふにある算あるも尚ほ脆弱の性質ある新事業は到底庸政の許さざるよしの所なるを以て差當り弊害の改正より着手するよしにて明年度の豫算百餘萬圓は全く之を生ずる經費の增加に充つる目的なるよし而して樺山大臣の意見の制度の利否は運用の功拙如何に依らんと言ふ物の適用は尤も要なりと云ふにある

○地方官會議に於ては現今の地方制度は數年來の實驗に依り往々欠點あることを發見したるを以て之を加へんと云へども云へども未だ實行を為したり而も目下引續き警部長會議幷に目下開會中の典獄會議に於ても同樣地方制度の改良發達を謀るべき旨を陳べたるに依り考へんれば遲し若し今日直ちに之を實行するとせば如何なる成

販賣品廣告

學校用品及小荒物雜貨　卸商　萬屋源藏
神田區橋本町三丁目四番地

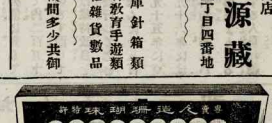
注文御請
學校用具一式　各種帶揚類
和洋鉛筆類　各種石鹸類
和洋手帖類　流行教育手遊類
新形糸瓜細工　文庫針箱類
其他雜貨數品
品質ハ吟味シ價ハ最モ廉ニ勉强可仕候間多少共御用向ヲ希フ

めやさし齒磨本舗萬金出店

三橋ねはりはみがき
定價　三十錢。廿五錢。十五錢。十錢。六錢
東京横山町二丁目
白光散本舗
三橋兎喜次郎製
TOKYO. MIHASHI
TOOTH.PASTE.
賣捌ハ全國到る處にあり

三橋ねはりはみがき

醫學士稻生悌先生新方
登錄商標
さらら石鹸
定價　櫻石鹸　一個十錢郵稅二錢
蜂蜜石鹸　一個十五錢郵稅同
○肌を濃にし色を白くし皮膚の荒を防ぎ艶を出しくしびはたけ、しもやけ、あせも、水むし、できもの其他皮膚病一切に大功ありゆ注意近來類似の粗品を販賣する者有之い間商標下名寫と違改の上冷求被下度候
磨香入里設石鹸　東京市芝區金杉川町廿二番地
殺虫防疫洗濯石鹸　製造元
本舗　鈴木保五郎



專賣特許　人造珊瑚珠
横掛飾
甲號六十六錢　乙號三十五錢　丙號廿五錢　丁號十五錢
甲號六十六錢　乙號三十五錢　丙號廿五錢　丁號十五錢
甲號六十六錢　乙號三十五錢　丙號廿五錢　丁號十五錢
甲號一圓廿錢　乙號六十錢　丙號三十五錢
甲號一圓廿錢　乙號六十錢　丙號三十五錢
甲號四十錢　乙號九十錢　丙號四十錢
甲號一圓八錢　乙號九十錢　丙號四十錢
甲號廿錢　乙號六十錢　丙號三十錢
甲號廿錢　乙號六十錢　丙號三十錢
甲號一圓廿錢　乙號六十錢　丙號三十錢
甲號一圓廿錢　乙號六十錢　丙號三十錢
甲號一圓

◉關稅定率并ニ協定稅則（某經濟家の談話）

我國民ガ多年希望セル條約改正ノ事業ハ一昨年來幾々多々ノ困難ヲ冒シテ漸ク其目的ニ非ザル可ラズ改正條約ノ實施期限ハ明治三十二年七月以後ナレドモ稅權ノ實施ニ就テハ議定書ニ特例ヲ設ケ全ク國ノ改正條約成ルマデ右ノ年限以前ニ於テモ現行ノ關稅則ニ變更ヲ加ヘ新稅則ヲ施行シ得ル權利ハ無効ニ歸シテ普通關稅則ヲ適用スルヲ得ルノ定約ヲ締結セル改正條約書ノ運上目錄ニ基ヅクモノニシテ既約書ニ我稅權ハ甚タシク束縛セラレ課稅ノ率ハ從價稅五分以内ニ限ラレタルノみならず微弱ナル其他ノ現在ニ於テ既ニ一種ノ不偏ノ點ヲ以テ我國ノ貿易ガ開國以來非常ノ增加ヲ呈シタルガ關稅收入ノ割合ニ增加セザルモ結局關稅ノ欠點ノ多キニ因るものなれば改正條約ニ於テ稅權ヲ恢復したる以上ハ一日モ速ニ完全ナル普通關稅則ヲ制定シ其實施ヲ期せざるべからず過般政府ガ第十議會ノ協賛ヲ經テ登壇セラルル關稅定率法ハ則チ我國ノ普通關則ニシテ今後協定稅則ト相俟ツ實施せらるるべきものなり想ふに世ノ通稅則ヲ制定せんとならば外國貿易ノ消長長産業ノ盛衰內外需給ノ關係を精査して輸入稅率ノ高低を緩ク敢ヘ之ヲ輕くし既に內國貿易ノ消長長産業ノ盛衰ハ政府ガ稅率ノ高低ニ因テ生ずる結果ニ過ギザルガ故ニ稅率ノ高低ハ國ノ產業ノ保護ノ意ノ如ク明ナリ從量稅ハ輸入品ノ價ノ如何ニ拘らず其數量等ニ標準として課するものなれば從價稅ニ比すれバ不公平なりとの攻擊もあらんなれども是は未だ實際に通ぜざる議論にして從價稅を課する場合には稅ノ評定に於て一ヶ輸入品ノ價格ノ評定ハ到底困難の事實を望む能はず少しく檢査を忍ばず輸入商ハ故意に低價の申立を爲して稅關吏の眼を偷むなどの不都合を免れざる可し

此方針に依て進ム內國ノ資力ノ許ス限リハ輸入品に相當ノ稅を課し國稅收入ノ增加を課スル可シ酒煙草ノ稅率ノ如キ四割以下に限りたれども實際今ノ消費力ノ推察すれば猶此上に課稅すれバ之ニ依て決ル收入を失ふ憂ひあり可らず斯く方に於て內國ノ保護の策を排し關稅の收入を增加するノ稅增加の爲めに貿易の自由を妨げ國產業の發達を遲延するが如きは我輩の本意に非ラザル如き小總に無稅爲も可しかれども從目ハ自から簡單となるべく賀易の發達に妨害しき便利ある疑なき所なり英國が僅々二十種內外の物品に輸入稅を課し為ち年々二千萬磅以上の收入あるに全く稅目ハ選擇セラルる得たる結果ハ外ならず收入主義ノ關稅に制定せんとならば英國の例に倣ふて稅目を簡單にせざる可らず定率法に輸入額の些少なる物品に課稅したるハ從前の行掛りもある事なれども此が決して策の得たるものに非ざるなり普通稅則ハ出大名右の方針に依て制定する事として其微稅法ハ如何ト可きや即チ從價稅にて徵收す可きや此ハ關稅の可ラざる所なれども從量稅にて徵收す可きや此ハ關稅ノ賦課に伴ふて生ずる結果ハ定率法の問題にして稅表に於ては稅率は總て從價稅を以て表示しあるに過ぎず是は大凡ハ標準として第三條に於て從價稅に代ふるに從量稅を以て便宜とするものは勅令を以て其稅率を定め可しと日英條約の協定稅則に倣ひ又細別を定め可しと日英條約の協定稅則に倣ひ又細別を定め可しとして稅率は從價稅を以て示したるに從量稅に換算したる實例もあり且獨條例の協定稅則に定めたる從價稅も追加條約に從量稅に換算せらる可き定めなれば政府ガ稅率ノ高低を課するに當て從量稅を主とする意ノ如ク明ナリ從量稅ハ品ノ價ノ如何ニ拘らず其數量等を標準として課するものなれば從價稅に比すれバ不公平なりとの攻擊もあらんなれども是は未だ實際に通ぜざる議論にして從價稅を課する場合には稅ノ評定に於て一ヶ輸入品ノ價格ノ評定ハ到底困難の事實を望む能はず少しく檢査を忍ばず輸入商ハ故意に低價の申立を爲して稅關吏の眼を偷むなどの不都合を免れざる可し

（未完）

改印廣告

小生儀本月十六日於東京市實印彫夫ニ付改印仕候就テハ同日以後ニ於ケル實印ノ使用ニ關係無之候右及廣告候也

明治三十年六月廿五日　伊勢國宇治山田町　中山後平

登錄商標

高 千代田水

正眞磨香入

藥用おしろい下

小瓶五錢五厘　中瓶五錢　十錢以上意匠出願錢瓶入り

此千代田水ハ佛國パリ府ノ合成貴公子ガ美人ヒとなりて世界に誇こりたる化粧品の大王にして今いつれの國にても此一品を使用し美麗を飾ふに至れり此特効いかはとのあれは左の色のあしるも此千代田水を續用すれ可いやに化粧かすに天質なれ如く色を白くしはだのうるはしくなるのみならず此の神劑なりあせもにきびはたけすべてはだをさのひに玉のごとくならしひい歐米各國の諸新聞にても知り驚ふへし依て此原法を應用して新に本に手製造の藥用おしろい下千代田水の非凡なるを弘く世人ひあらんとを祈る

同商標　磨香入特製　水おしろい

千代田菊

謹告

各位益々御盛榮被爲在奉欣賀候隨テ我々司業者中合セ東京金屬石鹼入自今猶一層製品ニ改良ヲ加ヘ目下一般原料ニ銀騰貴ノ折柄ニモ不拘專ラ品質ノ善良ニ意匠ノ新奇ニ價格ノ低廉ヲ旨トシ仕意可仕候間不相變御引立之程伏テ奉希上候敬具

東京京金屬石鹼入組合一同

特約大販賣

化粧品問屋　東京日本橋區通鹽町　大和屋小兵衛

靈藥麝香本舗　全麝町區麝町三丁目　井高櫻心堂

北海道小樽色內町　化粧品問屋　東京淺草區田原町　奥山清左衛門

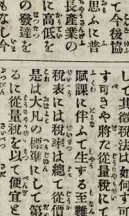
傳來麝香本舗　田部重兵衛

本舗　回陽水本舗　東京淺川西元町一番地　虎谷彌兵衛

製造本舗　箱崎千太郎

便利　大販賣所　東京堂丁目　佐々木玄兵衛

賣捌所　大阪市南區安堂寺橋通　東京小間物商報社



世界の親玉國醫學士オブデンヒ氏ノ方劑齒科專門醫今里先生ノ改セルモノ神氣容儀質ニ化學的能ク齒石ノ除キ齒牙ヲ潔ヨクシテ光澤ヲ雪の友名ハ背ノ白ク美麗ニ具ヘ芳香ヲ放チ口中ヲ爽快ニシテ眞ニ衛生齒磨ノ又ハ黴菌ヲ防ギ口腔ノ病患ヲ除ク其庫價ハ壹圓ニ付拾錢ニ付ル世界親玉ハ陸軍御賜品ニ付ル廣告

世界御用達ノ玉雪の友ハ世間有名ノ歯石ノ粉末ヲ用ヒ以テ歯ノ黴菌ヲ除キ口腔ノ病患ヲ防ク米國ノ醫學士ノ發明ニ係ルナリ

衛生齒磨

トペーパ世人ナ賜着スル者ナリ

定價	壹ヶ二錢	金二錢入	金四錢入
高等	金五錢	高等	金五錢
高等	金十錢	高等	金十五錢
高等	金二十錢	高等	金三錢

東京小間物問屋組合雜誌附錄

●銀行營業開始期　勸業銀行は既に永代橋際元日本銀行跡に引移り諸準備を整へ愈々開業まを支へ無き迄に進捗より申込の一株二株宛の小株主の拂込八十餘円余だ結了せず爲めに規定の登記を經る能はず故を以て未だ看板をさへ掲げ居らず尤も最早一両日中に拂込も結了すべく然る上は直に登記を濟し引續き開業の公告を爲す手順にて實際營業開始は來る十日頃ならんと云ふ各調の配置は左の如し

總裁
主計部　主計課
貸附部　貸附課
券書部　券書課　保管課　發送課　調査課
出納部　出納課　拂戻課　用度課　庶務課

●東京商業會議所の建議二件　同會議所の議決に依り會頭渋澤一氏より去廿九日、大倉、遠信、農商務の三大臣に提出したる建議書二件は左の如し

○株式會社に關する商法の規定中改正の建議

株式會社に關する商法の規定中改正を希望すべき點少からずと雖就中株式登記の時期及當初拂込の株金額を改むるが如きは急務なるを信ず故に本會議所は株式會社に關する商法の規定中左の趣意に依り改正を加へられんことを望む

一創業總會を了りたる時會社は十四日以内に登記を受くべき事

一株金十分一の拂込を終るにあらざれば株券を發行することを得ざる事

一株金十分一の拂込前に於ける株式の徴募は會社に對して無効たる事

前記の如く株式會社に關する商法の規定を改正する以上は私設鐵道株式會社に關する法律も本文の趣意に準ず改正すべきは勿論なり

○商準會社合併法制定に關する建議

商業會議所の合併に關し銀行合併法を除くの外は我國現行法律中特に規定せられたる法文なりと雖も之れ會社の合併せんと欲する者の止を得ず商法規定に依り一旦解散の手續を履行して而る後合併せざる可からず斯の如きは徒に其手數の煩雜なるのみならず解散の一事は會社の名分上事業の進行上共に喜ぶべからざる所たり故を以て眼前合併の利益を認むるものも躊躇して之を決行せざるに入今日の實況なりとも是實に國家經濟上の大患と對はざる可からず本會議所は會に憂ふるあり明治廿九年九月十四日を以て會社合併に關する法律を制定せられん事を閣下に建議せしに鄙見も未だ同法の制定を見るに至らず然るに經濟社會の現狀を査察すれば同法の制定は忽にして合併法を設くるに必要ありとし興論之を認し政府之を是認せられたる以上い鑑商業社會に對して亦合併法を設くるの必要あるは論を待たざる所にあらずや閣下願くは本會議所の微衷を採納せられ速に商事社會合併法を制定して一國經濟機關の發達を謀らんことを

●伯國美術博覽會日本陳列場　博覽會場は公園内に在り日本陳列場は其入口突當りの段高き處にして最も上等の場所を占め英、佛、獨、墨、聞、米等の各國の陳列場は其前面右方に露、伊及び諸國、丁抹等各國の陳列場は其左方に在り我陳列場は大河を背にし最も眺望好き好位地なりと云ふ

●東京及び大坂市の電話　本年度内に架設すべき東京市内電話は明治廿七年中に申込の分千五百名にて内八百名は浪花分局七百名は本局に於て架設することに決し着々工事に取掛りし由なるが右の千五百名分は總て複線と爲す筈にて尚現在來線に千二百五十本も複線に改造する筈なるを以て都合五千二百五十本も複線と本年度に於て新に架設する可らざるが故に工事俄かに膨脹の変ありて繁忙思ひ遣らるゝ如し前年の例に依れば工事は漸期より遅るゝの常なるを以て本年度に於て尤も繁期よりの設計を立て注文の器械だに甚しく遅着せざる限りは來年三月中に必ず架設し終るべしと云ふ又大坂市の電話八百名分も局舎の建築工事の模様次第にて遅くも來年四五月頃迄には竣功すべき見込なりと云ふ

●賀茂鹿廻漕　加奈陀政府に於ては日本・加奈陀間將來の貿易に關し調査を要するものあるとてジョーシ、アンダーソン氏を本邦に派遣する趣き在ロッキー、ヒル、ポスト紙の報告ありたる民の談話如しは將た本國の國の貿易に影響を及ぼすべしと云ふ濱の貿易商は侍受け準備中なり兵い來る八月中發遣濱濱來着は九月上旬ならんと云ふ

○貴孃紳士必需の香料廣告

正真人造麝香　大瓶拾錢　小瓶拾錢

人造麝香水　大瓶二個入　小瓶一個入

人造麝香水　一打入

人造麝香水　一打入

麝香水　一打入

麝香水　一打入

（第六拾四號）　明治卅年七月十五日　遞信省認可　第八卅年一月六日

東京小間物商組合報

謹告

我東京小間物卸商組合各店は孰れも斯業に熱血を濺ぎ其體異なるも其心は一なり是を以て製品確實價格低廉殊に天下の流行に先ち又頗る意匠を凝せり今や全國到る處滊車滊船郵車の便あり輸送爲めに自由自在焉ゞ土地の遠近に因て利否を說んや冀くは全國同業者諸君益々氣脈を通し交情を厚ふし以て相互の幸福を計り給はんことを

東京小間物
御商組合　一同敬白

雜說

●奉公人をして旅籠屋を廻らしむるの利害

骨皮道人（承前）

勿論この商人宿申合の店則たる我が商報が出京者の姓名を記載報告するに當つて俱かに思い付た譯にはあらずして其以前より種々樣々の弊害わり其徹防を計畫しつゝある矢先へ益々大僧小僧の押掛て來ること毎夜毎に多きを加へしが故に是でい堪らぬと云ふ處から爲メ之を發表するに立至たるの事實ゝ即ち我が小間物卸商組合の店員有志數名が店員相談會なるものを設けて以て彼の他組合の店員にして云ふに忍びざる横着を働く輩と同一視せられざるやう朋に一定の徽章を附し頭に提燈を携帶せしと云はゞ先から目ら泥中の蓮たるを表示せし一事を以て明かなりとす夫れ然り而して彼の宿屋仲間が常に顏を出しかゝる處の店員に如何なる品行であるか又如何なる有樣であるかと云ふに素より惡く爾と云ふ譯には行かずと雖も既に多年の功勞を經て面の皮厚く相當に至つては濫に旅客を咬晩して料理店に一杯ど酒落込み或ひは北里南廓に一興を極込み猶は甚だ愈に至つては客の交際を名として己れ一人でテクノ出掛る事あり或ひは公事の尻纏りにや袂に商品を忍ばせて特別現金の大安賣を爲す者等のあるより旅客の坐敷などにて若し暇中物その他物品の紛失せし時の如きは先づ第一斯る不品行者に嫌疑を貰くるの如く左れば之を彼の申合會規則中に「旅客他出中の空室に出入すべからず」との一項を設けたるものゝ存らるゝより豈に亦日借から寄併しながら此等論外の事として姑く措き元來小僧なりが大僧なり旅籠屋を廻るると云ふ事は既に主人よりも公然と命令し小僧大僧も亦公然外に出しするの權を有するが故に又店に居て主人番頭の苦々しい顏と白眼を受るよりは寧ろ外出して香氣ゝ

雜報

（禁轉載）

●商況

●硝子管類

●天神さま、天付、玉付、紋付、鳥、團扇、あさがほ、其他各種流行物賣口よし

●角簪類

●細物白足、玉付、紋付、彫足、向人差物、すかし物、琴柱、蔵國、被裳足の類新形物の向よろし

●鋼足簪類

●蝶貝玉、瑪瑙玉、花付、透し、菊、菱、其他彫足花物向ムさし新形物各種いづれも賣行あり

●銃足簪類

●蝶貝玉各種夏向物賣行あり

●モール根掛類

●菊、牡丹、英、水玉、金魚、鯉鯽の類大流行、同鑢玉物、房付、夫、中、下、其他つまみ物及び生花の類いづれも房付もの相變らずの流行

●硝子玉根掛類

●水晶、淺黄、琥珀、肉、青、及びゴム紛物、上、中、下共賣口よし

●本ゴム根掛類

●白生人最も向宜しけれども併し赤色其他の物も相變らず賣行あり

●針金根掛其他

●針金根だけ、金銀物各種いづれも賣行あり雅兒丸とけ、房付及花付、東結び、繩むすび、同記金花付、結び掛大房物、上、中、下新形流行

紙製、吉原捻、小町結び、新四段、金銀角捻、金花山、露ぎく等向よし

●鰹引、及び本當寶、瀧川、高引、上中下、相變らず賣口よし

内記打、銀物、房付、房なし、上中下、種々新形、縮緬及紬、太、中、細、無地及び紬付など大流行

絹丸くけ物、右同様の流行なり

水引物有平、中捻、先ばち、中結び、千鳥、鶴等、其他無地いつれも夏向物賣口よし

色元結、右同断

●洋銀一文字

●無地、彫付、形付、すかし、石入、縞目の類いづれも白あがり物向よし

●雨天類

●角紬付両天、丹に彫付、ゴム雨天、各彫付物上中下、耳付二徳の類賣行あり、アルミ雨天、無地、彫付各種、上中下、ゴム張、白及び肉、桃色、無地、紬付、張子紬付、自由上中下、是亦相變らずの賣行なり

●象牙類

●政子、お初、鬢櫛、いづれも上中等、櫛ひ物及びはなれ物共賣口よし

●指環

●アルミ、洋銀、木銀、いづれも無地、彫付、石目、縞目、平目打、石入、眞珠玉入、上中下共賣行あり

●匂ひ物

●香水、麝香水、匂ひ袋、腰輪、人造麝香等、いづれも上中下共季節物として中々賣行あり

●石鹸

●各店製造匂ひ入上等物相變らずの賣行あり尤も並物に三四〇より七八〇位まで向よし

●楊枝

●角楊枝、上中、及び鯨、水生、吾とう付、上中等相變らずの賣行あり

●佐野義作氏の名譽

本組合員佐野義作氏の賢妻佐野義作氏に優秀等を以て高等商業學校を卒業以來直ちに擧られて同校の助教授と爲り尚は東京工業學校の講師を兼ねて教授と爲り、ありしが今度文部省より商業學校の米國に留學を命ぜられ本月五日横濱發の米國便船コプチック號にて米國に向け出發の由當に同氏の名譽と謂ふべし

●東西銀行

同行は既記の如く去入日本機械倶樂部に於て通常總會を開き前季營業報告を爲し利益配當等を年七分に議決の後引續き臨時總會を開いて取締役及監査役の滿期改撰を行ひしに滿場一致を以て何れも重任を決議せり

●度種山町二丁目鳥取屋

其堂にて製造發賣せる東京特許の即席蒲焼燒を云へるに極輕便なる金屬製にて且つ上品なれば如何なる堅敷久は珍客の前に用ふるも決して卑しからぬのみならず旅行の際汽車滊船に携帶し或ひは花見遊山になほ一層の興味を添ふるものなり一ツ一ツカバンの中へ入るゝを得て而して湯を沸し物を煮るに普通の五分の一に掛らぬと云ふ實に經濟の新發明器なり

●ダイヤモンド工場

彼の有名なる米国見賀平氏製造販賣の鑽磨ダイヤモンドの工場い從來同店の裏にありしが追々人員の新加するに連れて大いに狹隘を感ずしと云て遂に神田岩井町川岸へ更に廣大なる工場の新築中なりしが昨日落成したれば近日全部を移轉すると同時に猶ほ職工をも增加して益々盛張を計るなると云ふ

●又

同品の功能書に曰はく是まで日本文のみなりしが近來は英語佛語の文那地方よりも續て注文あるに至れば今度更に英文漢文の二種をも新調したる由實盛なりと謂ふべし

●鮭の水と艶の花

神田佐柄木町柳屋敬次郎氏の製造に係る馬喰町加藤盛花堂の發賣に係るつやの水化粧下つやの花（ねり白粉）の二種いづれも品質純良にして佳業に優れ其功能も亦尤も凡品の及ぶ所にわらずとて大いに需用者の喝采を博しつゝあるが殊に夏季に向つては平時に數倍するの注文あると云ふ

●新切換券の印刷

本組合員は共に兎角換券に於て貨の變更と共に兎角換券に關する異動を來すべき當然なるが本邦の法律は以て一に日本銀行に一任したるに依り其換券に關する異動を來すべき當然なるが本邦の法律は以て一に日本銀行に一任したるに依り其換券に關する差あるのみ從つて日本銀行にては從來の換券を變更し目下五圓新貨幣のみを印刷局に依頼して印刷せしめつゝある由

●新金貨鑄造

大阪造幣局にては去月初旬より新金貨の鑄造に着手し居り其種類は五圓十圓五圓日々四百萬圓を鑄造する由其鑄造額僅金塊に目下六千萬餘圓なり

●絹物販路の擴張

本邦より輸出する絹物の多數の北米合衆國にして英獨佛等に至て少からずしになり其最も多き米國は今度重税を課せらるゝに至り爲め當業者は絹物の前途に就て大に憂慮し居る

●横濱居留地

百九十八番館等に逢し通信に依れば歐羅巴に於ける本邦の輕目物は直段の安き所より漸次販路擴り到る處歓迎せられつゝあり就中近來著しく注文あるは瑞西露國、埃及等に於て又南米ブラヂル、智利等へ向國より輸出を爲し前途頗る多望なりと云へり

●車數

其筋の調査によれば府下十五區八郡の人力車へ一人乘三萬二千九百一十五輛二人乘一六千四百六十三輛合計三萬九千三百八十八輛なりと

●新切換券の印刷

本位貨の變更と共に兎角換券に關する異動を來すべき當然なるが本邦の法律は以て一に日本銀行に一任したるに依り其換券に關する差あるのみ從つて日本銀行にては從來の換券を變更し目下五圓新貨幣のみを印刷局に依頼して印刷せしめつゝある由

●絹物販路の擴張

本邦より輸出する絹物の多數の北米合衆國にして英獨佛等へ至て少からずしになり其最も多き米國は今度重税を課せらるゝに至り爲め當業者は絹物の前途に就て大に憂慮し居る

●横濱居留地

百九十八番館等に逢し通信に依れば歐羅巴に於ける本邦の輕目物は直段の安き所より漸次販路擴り到る處歓迎せられつゝあり就中近來著しく注文あるは瑞西露國、埃及等に於て又南米ブラヂル、智利等へ向國より輸出を爲し前途頗る多望なりと云へり

●車數

其筋の調査によれば府下十五區八郡の人力車へ一人乘三萬二千九百一十五輛二人乘一六千四百六十三輛合計三萬九千三百八十八輛なりと

◎謝辞

左に列記する諸氏へ孰れも當時の賀業祭中に於て其名聲最も鋒々たるの人々なるが其盛況の極る處又我商報の同業者を益する尠からざる賀賛せられ加ふるに印刷費補助として容金若干の寄贈を忝ませられ段無量の感謝の而已に過ぎず依て茲に其貴名を列記して聊か其厚意を深謝す

（記名順序不同御海恕）

北海道江差中歌町　杉江藤兵衛君
同小樽港永井町　東條喜太郎君
同小樽港水井町　濱本字平君
加州大聚寺本町　鈴木屋清造君
野州宇都宮

本組合録事

●新加入　左の諸氏は今回本組合へ加盟の旨届出あり たり

日本橋區馬喰町三丁目二番地　西ノ宮悦太郎　君
同　區通三丁目　安田宇三郎　君
小石川區江戸川町十八番地　高橋靖之助　君

●營業稅の新徴收　本年より實施せられたる營業稅法に依り政府の收入すべき總算の五百八十七萬四千百六十八圓四十八錢七厘にして爾來民間の苦情節之さりしが愈々同法に依る徴收は本月を以て第一回の徴收を施せらるゝ事となれり其結果如何は先づ以て大に注目すべき事なり

●臨時博覽會評議員會　美術工藝調査委員會は去九日開會し第一回の決議に基き買上品圖案調査及び美術工藝家指名法文等の件に付特別調査委員を互選するとなり左の諸氏を當選して散會せり

陸奥宗光　前田利嗣　松平定安　松平頼聡　岡倉覺三　三浦安太郎　蜂須賀茂韶　前田利鬼　松平頼孝　前田利嗣　岩倉具視　岡倉覺三　高橋是清　田口卯吉　原敬　田口卯吉　高橋是清　岡倉覺三　三浦安太郎　蜂須賀茂韶　前田利嗣　松平頼孝　前田利鬼　岩倉具視　陸奥宗光

東京府知事　東京府書記官　東京府書記官　東京府書記官

●伊太利奥國美術博覽會の模様に關し在ヴェニス領事より其筋に達したる報告に左の如し

伊太利ヴェニスに於る萬國美術博覽會は四月廿八日を以て開會式を行て當日は皇太子殿下、同妃殿下の行啓及び文部大臣の臨場ありて盛況を極めたり聚る所出品の中伊太利、佛蘭西、白耳義、英吉利、瑞典、獨乙デンマーク、露西亞、亞米利加の本邦は最も有名なる美術考證品を出陳したるものにて同博覽會に之が賞金に充る爲め萬フランを寄意したり而して日本の出品は殊に好評を博し文部大臣の開會式演說中にも日本美術品に對して賛美の辭あるを見る其要領に曰く本會に出品せる各國美術品の意匠は十分に理解せる各國民長文學に熟知し彫刻繪畫の表面に發動せる感等内部の感情を通徹せざる可らず（中略）日本人ダンテの詩を讀み其腦裏に十四世紀の歴史なければ（伊太利のフロレンスなどに云へる如き）其品の意味を解すべからざるが如く今日の歐洲人も亦殊に東洋人種の心髓を研究したる後に非れば日本繪畫の妙味を解する事を得ざるべし然りと雖ども天地高遠にして物人世の活動を宮たる北斎の狂書の眞味を解する能ざるべし自ら老狂と呼たる此天眞爛は樹木、山川、動物、美術の姉妹を求め自ら思らく繪畫は活氣なかるべからずと翁は年既に老て尚宇宙無限の高物即ち學何等の譜線に至る迄も之に生命を與る無形の聯力を發見せんとするの知心を抱きたり

北斎の畫は物の形色最も明確にして驚くに堪たる是北斎が世界最大家の畫人中に列せらるゝ所以なり然れども彼が年の時より滿腔の精神を擧て之を自に注ぐ即ち目を売にし想像を後にしたるが故に彼の畫に就てミケルアンヂュヌワ、レチナンドの如き深遠の意味を求んとするも得べからず要するに彼は北齋の畫に常に無意の裏に成て恰も草木の花を開る爲鳥の鳴吟するが如きものなり

●世界博覽會と美術育英會　佛蘭西に於ける來三十三年の世界博覽會に大奮發を以て美術品の見事なる品々を出さんとの上下一般の計畫なるが既に美術育英會の如きも會員有志をして數百圓宛を寄附せしめ即ち之を株金として積金となし此金圓を美術家に貸與して種々の品を製作しめ若し出品の上其品の賞幾ばたる節は相應の評價を以て寄附者の寄附金高に應じて之を分配する法を定め寄附募集に着手する事となり既に其意書、規則書等も出來し由にて恰も好し大隈農相、該博覽會の爲め府下并に横濱の有力者を集て大に勸誘する所なり是等の人々中に美術育英會の會員も多く旁々玆に一致團結して先づ東京、横濱に於て金十萬圓名古屋及び關西地方、北越地方等にて十萬圓都合三十萬圓の賞金を募集する事に内決し近々之を發表する筈なりと云ふ

此頃各省縣知事が地方官會議を終へ夫々其地に歸着したる頃なれ

●農工銀行資本額の注意

ば獨次農工銀行設立に着手するなんが既に鳥取縣の如きは設立委員の認可を大蔵大臣に申請したりと聞く只此際特に各地方の爲に注意を要する點は銀行資本額の決定なり銀行が濫に政府交付資本額を巨大にすれば法律に特許したる農工債券發行の利益を殺減するなり今一例を示さんに玆に三十萬圓の交付期當を受くる地方に於て農工銀行資本を百萬圓とすれば素より上記交付金全額を請求し得べき筈なれども地農工業者が實際に需要する資金は三百萬圓位に過ぎるときは資本の五倍即ち五百萬圓の債券中三百萬圓の債券發行樣の無駄となるべし此場合に二十萬圓の交付金を受て資本の六十萬圓に止めるに對して三百萬圓以内の債券を發行すれば資金運轉不便を感せず債券發行上にも損失なきを得べし此等の其營業區域を一地方に限られ居る結果止むを得ざる所なれ

●臺灣樟腦の暴騰　臺灣總督府が鑑に樟腦取締規則を厳行し數多の密製造人の盆を破壊したるを以て忽ち香港市場に破竹の勢を以て急騰し本年の政綱著しく減少すべきを見込み俄然百斤に付五弗方暴騰し四十六七弗の珍直を顯はし隨りて臺灣相場も三十二弗に引上げたりとぶ

元祖　あせらす……本舗　東京銀座　德田多助

一個　金三錢五厘

●あせらすの御かた　此あせらすは正眞の麝香と最も高尚の匂ひある優美の御打粉なり

●總てあせもを直し　●御湯あがりのとき　●客扱の御婦人に必要　●諸げい御つとめの人　●匂袋の代用に最も妙

偽物御用心

小間物商店並に貸藥店等に有り

東京德田多助氏製造に係る元祖改良御打粉登録商標あせらすの義自今下店に於て特約の上大に擴張致候間全國御同業の各位樣多少に不限御注文奉希上候

○德田のあせらすと申て御求願……賣捌全國到處

○体裁及能書等本品に摸僞したる類澤山有之候間御注意を乞御賣特約

大阪三久堂製造に係る一名天瓜粉あせらすの義は本日限り製造及び一般發賣を廢止致候間此段廣告仕候也

明治三十年六月十日

大阪南久寶寺町三丁目　三久堂商店

世界一麝香入石鹸（定價一個金卅五錢）

此世界一麝香入石鹸ハ其ノ名ニ背カズ多量ノ麝香ヲ以テ精製シタルモノナレバ一度使用スルトキハ其香氣腦髓ニ滲入シ匂袋ノ代用トナリ且香水ヲ使用スルノ要ナシ

發賣元　東京　小林富次郎

電話深川花四九八番

特約販賣店

村藤　近源　岡崎屋　大孝　平近　孝雄　王堂　花尾　平谷　杉谷　谷鶴　平平　木孝　佐々木田　脇谷　灰谷　木谷　鶴谷　田平　田中　柏善　政次　木谷　鶴谷　田中　大和堂　文次　哲郎　田中定

◎莫大小製造卸賣告◎

小間物屋さん仲間へは特別に働て賣升

肌着　めりやす
靴下　ゆもと
各種　手袋　品々

東京市日本橋區横山町三丁目八番地
莫大小製造卸問屋
鈴木卯兵衛

純花御
良の
精し
製君ろい

東京横山町四十目八番地
莫大小製造卸問屋

花ろ安

大箱　○袋入　○化粧粉製　○一包十個入　○同箱　○一包入　○桐箱　○一廿包入　○同箱　○廿包入　○改良　○改正紙包　○同　○紙箱十包入　○ねりおしろい　○丸一個入　○同箱十二個入　○同箱十五個入　○同箱　○同箱　○同箱

○遠山霞

（第二十回）

一鼻子稿

跡見途りて仲業に稼なる彼のうろたへ様と口の内に咳やきながら扱ひ持つて太刀を遊に杖つる今しも首をうな垂れて眺念の眼を閉ぢ居たる綾衣の傍へ進み寄り　曾綾衣せの〳〵右京で御坐る仲業で御坐ると聲をひそめて呼びたるを夢心地に聞く綾衣ハ右京といひ仲業といひ世を代ふると夢にも忘れがたきいとしの可愛の人の名を二聲まで耳に入りしかハ不審の念ハ晴れやらず静かに閉ぢたる眼を開き聲せし方を見上ぐれば思ひきや右京之進がいと甲斐〻〻しく扮装をなし己が傍へユ寄りすめるより夢かとばかり打喜こび「ヤア貴方ハ右京之進さまと思ハず知らず口に出ずを仲業ハ手もて押とゞめ一層聲を低くして　曾何はしかれ綾衣との先以て御身に恙なく重疾至極と存じ申す拙者是へまゐつたは和田殿昌山殿仁田殿等の御内意に依り御身を救ひ出さう爲密かに忍ひ参つたもの今の源太めに見咎られ事面倒に相成るゆゑ此間に早くお支度なされて大江殿邸まで御一緒にお出なされと聞くより綾衣ハいとゞ嬉しく其身ハ荒縄ユ縛しめられて起つ事ならぬを打忘れ起上らんとして夕ザ〳〵思ひて居に堂となるを　曾まづお待ちなされと手に持てる太刀を床の上に突さして手早く縄を解き捨てつ手を取つて引起せしかと首の夜から此夜まで白粥一滴口にせず身体は緊く縛られて疲は終日夜は終夜唯泣き暮せしのみなれバ気力顔る弱り果て足さへ頓に立ちまかりなれ共力無くも聲ふべき様なかりける仲業ハつく〳〵見て　曾気合でもあるか　綾イエ何とお御坐りませ似ず唯氣に掛るは父上の御身　曾イヤ夫ならバお案じなさるな御父上結城殿に那の夜さも梶原が雑兵を對手に暫し戦かつたれど勢手ハ名もなき鎌武者なれバ傷一ツ負ひ給はず差なく大江殿邸に

おいてお身の行くを待つて御坐る唯不便なハ敷姉と田鶴　敷知ハ肩口に痛手を負ひて今ハ爲谷に手當中、田鶴は例の三平太めに裏庭に於て斬倒され兼なき最期を遂げたるが其欲の三平太めは其場を去らず引括り今大江殿の調べ済んで明日は河原に刑罰さるゝ筈其外申度き事數々あれども今の源

も綾衣を脊に負ひて態と元來し所は通らず前栽の木立の影を彼方此方へ縫ひ〳〵て小高き崖に躍踊される松の木影に身を忍ばし邸の中を見廻せバ内は上を下の騒ぎと見え篝火松明焚き照し身を鎧ひひし數多の武士右に左に走りまどひ曲者を竟ひる様子なれば見咎められと仲業は崖の裏手の方へ

太の郎黨めが取て返さば一大事　早く〳〵と急し立て有合ム短槍吹消して半鐘の外へ連出し夫ユ

廻り雲さへ哺ぶ下闇を手探りつゝ忍び出で以前見定め置かたる馬の摩場の後なる積石の上へ這ひ上り綾衣をバ小馬に抱へ今やこゝりと身を躍らし塀の上へ飛移らんとせし時生憎く厩の馬邸の騒ぎに眼さましけり聲高らかに呼ばるしかた擬手を固めたる數十名の朗黨ともスワ曲者は厩の裏とと一

時にどつと寄せ来ぬ

＊　＊　＊　＊　＊　＊

斯くとは知らぬ源太郎様は唯曲者の入りしとのみ綾衣は奪ひ取らるゝとは露ま思ひ設けざりしが曲者の所在知れぬにつけ綾衣の上心元なく獨り對の屋へ取て返せバコハ如何に今まであり し綾衣は何へ行きしか影も留めず傍へにわりし短槍さへ横さまに倒れて消え居しかば是は計り仰天し四方キョロ〳〵見廻す所へ又もや一人走り来り「唯今裏手の厩場に於て曲者を取囲み所結んで居らまする早々お越下されいといふに源太は又もや周章ふためき一散に裏手に走り行き哨にきらめく刀の光り兵士の叫ぶ方を見遣り　曾曲者は綾衣を盗み し賊ど必らず右京めに相違あるまい綾衣に傷付け す右京之進めを搦め取れ者ども脱落な〳〵と辟溜るまで呼ばはつたり

斯くとは知らぬ源太郎様は唯曲者の入りしとのみ綾衣は奪ひ取らるゝとは露ま思ひ設けざりしが曲者の所在知れぬにつけ綾衣の上心元なく獨り對の屋へ取て返せバコハ如何に今まであり し綾衣は何へ行きしか影も留めず傍へにわりし短槍さへ横さまに倒れて消え居しかば是は計り仰天し四方キョロ〳〵見廻す所へ又もや一人走り来り「唯今裏手の厩場に於て曲者を取囲み所結んで居らまする早々お越下されいといふに源太は又もや周章ふためき一散に裏手に走り行き哨にきらめく刀の光り兵士の叫ぶ方を見遣り　曾曲者は綾衣を盗み し賊ど必らず右京めに相違あるまい綾衣に傷付け す右京之進めを搦め取れ者ども脱落な〳〵と辟溜るまで呼ばはつたり

＊　＊　＊　＊　＊　＊

●各國の人口と生産力

最近各國人口と其農工商上の生産者及び農工用燕窩機關の生産力との割合を推算したるものを開に左の如し但女子は生産者中一り惡くを之を除く

國名	毎一人の産力	毎一人の生産力を以て養ふべき生産力
英國	四、五	一、二二
合衆國	三、四	〇、二九
獨逸	二、三	〇、四二
佛國	一、九	〇、五二
瀛地利	一、一	〇、九一
匈牙利		〇、二
日本		四、三〇

見るべし海外各國に於ては其國民一人の爲め働くべき生産力多きは四人半少きは一人以上なる有國は僅に二分即ち毎五人に付唯一人の生産力を有するのみ畢竟我國は不生産者多く加之外國の燕窩機關甚だ多きに反して一人力に依賴するの多きに由りてなり若し彼等の應用する風力水力電氣諸機關にたへなく我の逆一層甚しきものあるべし我實業家と稱し紳士と稱する士一題て將來の充分學理を應用し正則に機關力を使用にわらざれバ我國富は決して諸外國と同譜の進歩を望む可からざるなりと或實業者は語る

●關稅定率并に値定稅則（承前）

現に米國に於て保護貿易策を施し稅率を增加する時には必ず從價稅を從量稅に改め以て正眞を禦防するを見ても從價稅の下に詐欺の行はるゝ多きを知るべし而して左れば歐米諸國にて從來の經驗に依ゝ可り左れば歐米諸國にて從來の方針なりと雖も之を公平なりとなす則ち從量稅は從價稅と異なり從量稅は微稅なる故に從價稅にすると雖も元來物品の數量を標準として課するものなれば價に種々の數量を標準として課するものなれば價に種々の差等ある物品に課すれば勞力と費用とを節約し得るの利あれども之を公平を免かれず又輸入品の價は爲換相場の變動と共に常に高下し從て輸入稅率に基き算定したる價格に變動する以て輸入稅の從價稅率に基き算定したる價格に變動する以て輸入稅の從價稅率に基き算定したる價格に變動する以て輸入稅の從價

將來の度量衡器

拙稿定期なるを以て主務省へ過般度量衡掛員の會議を開き撿定方法を協議したるが愈々撿定を行ふ曉には當省へ至國を通して撿定に表出の器物もあるなかと雖とも現今度量衡器製作の實況にて其供給へ到底需用を充たすと能はざるべし蓋し第一三十三年に至て供給と充分にせんと欲せば勢ひ外よりドシ〳〵製造して以て之を積置かざるべからず第二縱し三十三年に至れ需用者のあるとい判明なりとも目下格下の需用者なるに影しこれを積置ことハ一個一箇の小商賣にして積置かんとするも之に專ら從事する職工に乏しくして行はれざること等の故障あれば然れども若し現今の策を講ぜざる時ハ三十三年には一般人民市場に至り新器を買入れんとするも之に專ら從事する職工に乏しくして行はれざること等の故障あれば然れども若し現今の策を講ぜざる時ハ三十三年には一般人民市場に至り新器を買入れんとするも販賣品なるを如何せん不得止不知不識舊器を使用し甚しきハ夫れが爲め刑罪に觸れる者を續出する等の恐れなきかと過般本日本度量衡會にて內大に憂慮し主務省に意見を建議し或ハ度量衡製作家に對する百般の事項を調査し以て其方法を講究中なりと云ふ

●日本に對する米人の感情

西南部とは大に事情を異にし相互に誠和投合せざるの事實あり蓋し東部は拓殖早く資本亦豐裕なるを以て工業農業に適す故に其人民は夙に製作工業を勤め西南部の之に反し土地の富饒を利用して主に農業を勉め是を以て保護殖の必要少きを以て一般人民は農業に從事し工業に乏しくして行はれざること等の故障あれば然れども若し現今の策を講ぜざる時ハ三十三年には一般人民市場に至り新器を買入れんとするも販賣品なるを如何せん不得止不知不識舊器を使用し甚しきハ夫れが爲め刑罪に觸れる者を續出する等の恐れなきかと過般本日本度量衡會にて內大に憂慮し主務省に意見を建議し或ハ度量衡製作家に對する百般の事項を調査し以て其方法を講究中なりと云ふ

米國に其東北部と西南部とは大に事情を異にし相互に誠和投合せざるの事實あり蓋し東部は拓殖早く資本亦豐裕なるを以て工業農業に適す故に其人民は夙に製作工業を勤め西南部の之に反し土地の富饒を利用して主に農業を勉め是を以て保護殖の必要少きを以て一般人民は農業に從事し工業に乏しくして行はれざること等の故障あれば然れども若し現今の策を講ぜざる時ハ三十三年には一般人民市場に至り新器を買入れんとするも販賣品なるを如何せん不得止不知不識舊器を使用し甚しきハ夫れが爲め刑罪に觸れる者を續出する等の恐れなきかと過般本日本度量衡會にて內大に憂慮し主務省に意見を建議し或ハ度量衡製作家に對する百般の事項を調査し以て其方法を講究中なりと云ふ

●我邦に於ける影響如何を顧るに西部地方ハ事物悉皆創始に屬し勢働者を要する夥多なれ共東部地方面に多く勢働者の出稼する者ハ近き渡航の便ある東洋諸國人の出稼する者ハ專ら此方面に移る者ハ東部に稀なり故に我邦人に對しても黑感情を惹起し盛に移民排斥を主張する東北、南部に於て現出せる移民排斥の聲あるのみ即ち今回の移民法案の如きも是等地方に基因するレバプリカン黨よりの提出に係る所以にて之を略言せバ西部地方ハ我邦の勢働に反對し東北地方ハ製造物品の排斥に力むるものと云へを得べし是等の感情ハ各々其所由を異にすと雖とも我邦人に對する黑感情ハ我邦人の實況を知らざるに職由する者なれバ能く我國情を了解せしむるハ最も必要なる事なりとす盡し我邦の製作工業は猶米國と爭鋒の位地に達せず又我勢働者は支那人と日本人等の勢働者と殆んど徑庭なく結局當今の需給に甘心せざるものなれバ勢働競爭自然消滅すべきことを物事情を知悉せしめバ現今の斯感情ハ從て霧散消すべきなり彼の我邦勢働者排斥の事に關する東北及び南部人民の人民は彼等自ら我邦人に反對するのみなれて西部人民の所說に雷同し又我邦製品排斥に關して西南部の人民其實否如何を知らずして東北部人民の所說に唱和する等者是れ我邦を反對を了悉せざるの致す所ならざるのみなし今や斯誤想を正すの實に我邦人の務なり左れバ是公使ハ同國巡視の第一着手として本年二月の交先づ南部地方を旅行し次で東部地方を旅行ニウヨルレアンス、ガルヴエストン、セントルイス等の各市に於て親く其國官を訪ひ話せしといふ

●輸入外商の思惑違

本邦在留外國輸入商等ハ帝國が各國と條約を改正し本年下半季に於ハ海關稅を增額する由を傳聞し開港後の際迄に開稅に思惑を立て一ヶ年位の品物を家の倉庫に掛け洋綿物其他一切の利益を收取し來りたるに今ハ當春に掛け洋綿物其他一切の額少なからず横濱居留地內外倉庫に山積しあれども慾張の有外想しと又新關稅は何時より施行するや目的も立ず何れも思惑違となる大に困難し居れりと

株式會社 東西銀行第二期營業報告 自明治二十年一月至同年六月

●貸借對照表

債

當定期座預金	二二一八
仕拂送金手形	九六一五
借入金	九九五九
他店勘定	一五六〇
後拂分	一五八〇
既收割引料	一八二〇
既收利息	三五〇
借入期限預金	三七一〇
未濟利息	九四四〇
當期利益金	二〇〇〇
合計	三五三〇

（四ヶ所）

資産

割引手形	二三五八
當座貸越	二七五一
他店貸付金（七ヶ所）	六三七一
家屋	一四〇〇
什器	一九一〇
躍込手形	一八〇〇
印紙	七五〇〇
預金勘定	一四五〇
濟資本金	一五〇〇
計	三五三〇

付略ス

財產目錄ハ前記資產ノ部ト同一

●損益勘定

一金	六千
一金	百九
一金	百九十
一金	六千
一金	九百
一金	二千
內訳	百九十
一金	二千
內訳	百九十
一金	二千
內訳	百九十

第六號　第四號

◎營業稅法調査の成行　營業稅法調委員會に去九日午前八時より十一時頃まで開會せり出席委員は中野、末延、井上、朝吹の諸氏にして東京淺草會館の代表者たる田中氏も出席して同稅法改正の企望を述べ散會せり又過般會議所より所員を派して府下各區の實情價格標準等を取調しめたる結果稅吏の認定を異にし例へば製造所を販賣所となすが如き相違もあれど標準價格、營業稅法に關して反對の聲高きを以て其後大に改正を加へたる點もあるよし思ひし程の相違はなかりしと云ふ

▲最近登錄商標摘要

◎品名、顏料染料一切　櫻樹の下に婦人が棄に乘り書狀を見るの圖　神戸居留地鴎逸國　パウル、ホルム

扇地紙形の內に菊の折枝を描きたるもの

◎品名、同上　兩翼を張りたる鷲の圖を有せる鞜形を一匹の左向して叢中に臥せる獅子が握れるもの

◎品名、同上　右向して競走する五頭の競馬騎者の圖

◎品名、石鹼其他藥劑數種　獅子が羅馬字「エム、エル、エンド、ビー」の結合字形を顯せる鞜形を押へて臥したる圖

◎品名、同上　花を盛り牡鹿の首を圖したる袋樣のもの、両側に襞體の小兒が對向せる圖

◎品名、染料顏料一切　數多の煙突より各々煙を吐きたる大小數十棟の製造所の前方水面に帆綱を張りたる諸種の船を畫きする圖

◎品名、同上　日除を吹流せる船を載せる洋裝の西洋婦人が馬に乘りて左方を顧み右手に鞭を持ち左手に手綱を操りて右向して走れる樣を畫きたるもの

◎品名、同上　進行中の蒸氣車及左方に向ひて驚き走らんとせる二頭の馬の圖

◎品名、同上　類環を依め前両足を小刄に掛け半身を立てたる一頭の猫の圖

◎品名、同上　一匹の鼠が左向して前両足及後左及尾を居宰子に掛け之を喰はんとする圖

◎品名、同上　一匹の左向せる獅子叢中に坐して前両足を以て「シー、エー、アイ、ビー、ジー」なる五羅馬字の結合せるものを顯せる鞜形を擡せる圖

◎品名、同上　體を左方に向け翼を張り爪を有する右前足を揚げ尾を彎曲して背上に翼し耳を彎て目を開き舌を出したる怪獸を畫きたる圖

◎品名、同上　後方に遠山の景を畫き其周邊に葡萄蔓樣の樹枝を繞し其上に出たる左右の枝に鸚鵡樣の鳥が止り相對向したる圖を畫き下方に該圖形の面に掛けて種々の草花を圖したるもの

◎品名、香水　七輛の齒狀のものを連列したるものの中央に置き其左右に布形狀の物より成る方形內に雜草中に一羽の鷲を顯したるものを畫きたるもの

擔當組合員　米國　ラゾマン、エンド、ゲムブ業務　エドワード、ゲムブ

◎品名、染料顏料一切　唐草模樣の附飾及三角の縁なる圓形內上部に王冠樣のもの、下方に一羽の鷲の兩翼及両足を張り頭を左方に向け胸部に鞜形を附したるものを描きたるもの　ヘンリー、バウル、ホルム

神戸居留地鴎逸國

◎品名、同上　四頭立四輪の郵便馬車が貨物と各々洋裝せる鞜を持てる馭者と他三人とを乘せ左行して進行せる樣を畫きたるもの

◎品名、同上　一歐人が綾章を懸け帶劍し左手に手綱を持ち左向して乘馬せし圖

◎品名、同上　一頭の獅子が左向して臥し其右足を揚げて面内に羅馬字「エム、エル、ビー」の花文字を畫きたる鞜形を擡りたる圖

◎品名、紅、自粉、其他染料顏料　胴に半出太陽を畫きたる太鼓の圖　アクチエンゲゼルシヤフト、フユ、ヒ、アルバイトリカチヨン取締役獨逸國　タブ、ユー、ジー、マーチン　アルバート、ユー、ジー、バート同

◎品名同上、天人王冠及圓形標內高機の圖

◎品名、同上　一個の寶袋の圖　横濱及神戸居留地鴎逸國　ヘンレー、ベヤ

義士傳　忠侯直助傳　第六席

講談師　東玉郎　速記者　今村清

今助廣が鍛へて居るのを見て居た直助は、氣の毒ひく處が一ッだからも、チンカン〳〵と叩く槌の音と一緒に自分も頭を振って居る樣子の側に居た見物の刀鍛冶の方は見ないで直助の顏ばかり見てゐます。其内に仕事が終つたと見へて弟子共は道具を片附ける。見物の彼方此處へ行つて什舞ふ。越前守助廣の風呂へつて直助へ、助廣の後から聲を掛け直助は、旦那少々お願ひがございます。といふ聲に振返つて見れば、モウ九月だといふに肩の抜た單物、草鞋もはかず鏡笈に硯料を持て居る金比羅詣り行なゆゑ、曳茂にやア持合せがないから宅へ行て貰て呉れ、曳茂お手の内でいたございませんが、私しは播州赤穗の者でございますが、ちと分り兼ねまして、刀鍛冶になりたいと存じて遙々ゆく名前を便りに參りました者。何卒弟子にして下さいますやうお願ひします。曳然うかへ夫へ失礼をした。餘まり掛り裝が立派だからツイ乞食と間違た。刀鍛冶になるのりかへ、曳左樣でございます。曳夫へ次第に依たら弟子にもしやうが何處に居なさる人だエ、曳此處に居ますの。曳イヤサ、お前の居なさる所は何處だへ、曳此處に御厨路で居ります。曳分らねへ男だな。お前の疑泊をしたら身分に就て何事も引受やうといふ人の何處の何と云ふ人だね夫と聞のだ。曳私しの赤穗から參りまして、まだ大坂でも泊つた處もございません。曳第一身分を引受る者なんざは此大坂には一人も居ません。曳冗談云つちやア行ねへ人の生身といふ方やアねへ。何時病氣の無とも限らをするものか。曳一ヘ左樣なら好人と分り主とかいふ者が無れば大店に奉公も出來ますまいか。曳大店處じやアねへ。どんな家でも受入がなくつて困る處があるものか。と云れて直助も途方に暮れたが。是は自分が捨子から岡崎氏に拾はれ仲間をして居た男ゆゑ受入人主といふものには、ツイ氣が付て赤穗を立出ました。さういへば知らぬ處へ奉公をするのには身元引受がなければなりまして。と今更思ても仕方がありませんもの。如何とも仕方がありませんもの。に氣が付たら手紙の一本も入を頼んで貰つて來たものをと思へば。先立の涙やら。ポロリ〳〵と男泣に泣て居るのを見て助廣へ、曳チイ〳〵と見える。嘘に涙の出るのは能く因んなすつたと見える。嘘に涙の出るのはなかなかに何しろ今夜は乃公の家へ泊てやるから。此先考へるが宜い。直有難うございます。といふ。曳ハイ〳〵と。乃公へ曳お伴致しませ。曳ハイ〳〵と。乃公へ曳お伴致しませ。曳ハイ〳〵と。乃公へ曳お伴致しませ

第四回内國勧業博覽會受賞

新發明專賣特許

雲井織

一名 改良 葛布

織元　東京都 坂根兄弟商會

花元結手拭
淨半巻地
帯かは帯揚
金入り
金なし

御婦人用

製造元　江州川並 外村新五郎
販賣元　京都烏丸六角下ル 加納作之助

この雲井織と称するは弊店が年の経驗と幾多の苦辛とを積み漸く茲に発明製造せし前代未曾有の織物にして大略を述べんに効能は従来に比べ大に勝れ其器械を以て編むもの故に非ず即ち絞りたるにも非ず即ち一種の新發明に依て頗る叮嚀に之を織成したるものなれば仮令幾度洗ふとも夫が故に油染を虞れず地質を損し又の伸縮變色等の憂ひは決して之なく殊に價格も廉にて經濟の道にも適し且其色合も流行時代に応じ元の美麗に立戻るのみ之に反し原絲染料共に充分其精を撰び幾度洗ふ時は再び清水にて之を洗ふ時は再び元の美麗に立戻るらずして

登録
商標

抑々婦人の歯を染るは我國古代よりの風俗にして只其容器を粧ふのみならず第一口熟を去り口中の患を覺へず故に補家發賣の「かめぶし」は多年品質に心を凝し鍛明せしものにして染つきの速なるに容易兀る事なく其効驗の著しきは實に天下無二の良品にして是れ迄世間に有り触たる及ぶ可き品に之れなし希はくへ世の婦君方神代の教を守り永く皇國の美風を忘れざらん事を願ふ

有之候間冷に最寄にて求の程奉願候

東京発賣元　丸見屋善兵衛

特約大販賣　天野源七

特約東京小間物問屋各店

其他仮賣店ハ東京小間物商組合各店又ハ直接店ニ賣捌仕候

日本橋區横山町二丁目

特約大販賣　森本支店

日本橋區横山町二丁目

特約發賣元　丸見屋善兵衛

日本橋區横山町四丁目

特約發賣元　小間物問屋 浅花電話四四八番　長岡商店

東京神田須田町

警甲珊瑚珠類小間物商

善

特許 人造珊瑚珠

専賣

極樹部	結ノ長	結ノ長
甲號六分	錢五厘	錢七十
乙號六分	錢五厘	錢六十
丙號六分	錢五厘	錢五十
甲號三分	錢三十	錢四十
乙號三分	錢三十	錢四十
丙號三分	錢三十	錢四十
甲號二分	錢二十	錢三十
乙號二分	錢二十	錢三十
丙號二分	錢二十	錢三十
甲號一分	錢十	錢二十
乙號一分	錢十	錢二十
丙號一分	錢十	錢二十
甲號半分	錢七	錢十
乙號半分	錢七	錢十
丙號半分	錢七	錢十
甲號二分	錢五十	錢七十
乙號二分	錢五十	錢七十
丙號二分	錢五十	錢七十
甲號一分	錢四十	錢六十
乙號一分	錢四十	錢六十
丙號一分	錢四十	錢六十
甲號半分	錢三十	錢五十
乙號半分	錢三十	錢五十
丙號半分	錢三十	錢五十

警甲珊瑚御注文書上候

帝國唯一人躰垢落し廣告

第一はだをやわらかに色を白く能を出し眞のやまとはだにそむかざる無垢の垢落しなり

定價
小袋六十包入ぬ袋付 金十五錢
廿入ノ紙ハ同包 金五錢
販賣淨望ノ方ハ淨通知次第割引法
申進候

製造元 第一工場 尾崎氣藥堂
發賣代理店 同第二工場 高木新助
關西特約店 京都市松原通高倉西エ入 江川支店
大坂南久寶寺町三丁目 海津與兵衛
小山由藏

特約

日本橋區横山町二丁目 田中花王堂

同區綿町四丁目 丸見屋善兵衛

京橋區銀座二丁目 佐々木玄兵衛

同

日本橋區馬喰町一丁目 平尾賛平

同區十軍店角 大橋博愛堂

名古屋鐵砲町三丁目 森本善七

渡部二郎
吾妻光
特許商標
賣捌願
專賣特許
新發明

耐水 金雲織紙

筆記帳　懷中手帖　ブックスルーブ　文化はがき類

注意

製造發賣元

日本橋區横山町二丁目　森本支店

日本橋區横山町二丁目　長岡商店

日本橋區横山町二丁目　丸見屋善兵衛

東京下谷御徒町仲通地　鶴凌堂

●電信擴張の經費　遞信事業の不振は一般に認むる所にして殊に電信の如き東京より大坂乃至九州邊に至る電報は早き時四五時間を費やすことあり是れ畢竟電線の不足より來る結果にして全國各地凡そ三十分間位にて達する迄に擴張せんには現在數倍なるべしと雖も巢屋中の會議に附したれど何十分に依て繼續事業となし三十一年度の追加豫算として要求するに至るべしとなり

●王子火藥製造所　其後追々に諸方より寄越せしものを併せ合計一萬零九六十一圓十四錢七厘に達したるもこれに加へ（總計）一萬四千零六十一圓十四錢七厘なりとなり

●電信局の新施設　凡そ事物の新施設ある毎に各自利害を異にする點より自然便不便を感ずるは是非も無き次第なれど夫の日本銀行が從來の慣例を打破し個人取引を開始したるが如き其方法が自家の意に滿たざる者あるより往々之を非難するの士あるも經濟界多數の輿論は兎に角銀行業進歩の一樞機として之を歓迎するもの如し中央銀行既に斯の如く一般銀行者の豐怪へ如何從來の習慣と雖も銀行業の通の金貸付は、年間に必ず得る利益にて銀行業の普通の金貸付は、年間に必ず得る利益にて銀行業の通の金貸付は、年間に必ず得る利益にて銀行業の通の金貸付は、年間に必ず得る利益にて銀行業の

反古志トベ

◎近世奇跡考（抄錄）

●元祖市川團十郎傳

江戸の俳優、初代市川團十郎は、堀越重藏といふ者の子なり、慶安四年卯、江戸に生る、重藏い下總國成田の產（或云、佐倉幡谷村の產、役者大全）に云ふ、市川村）なり、江戸にうつり住む、曾て任侠を好ふ、幡隨院長兵衛、唐犬丈右衛門等と友たり、團十郎生れて、七夜にあたる日、唐犬十右衛門、彼が名を、海老藏となづけたるよし（今の白猿ものがたる）名を段十郎とよび、後に團十郎と更む、曾て俳諧を好み、雲德翁才麿の門人となり、俳名を才牛といふ、延寶のはじめ和泉太夫、金平人形のはたらきを見て、荒事といふことをおもひつきたるよし（俠客傳）に見ゆ、延寶三年五月木挽町山村座、狂歌樂會我といふ狂言に、曾我五郎の役を始めてつとむ（時に年廿五歳、延寶八年、不破伴左衛門の役を始めてつとむ（時に年三十歳）衣裳の摸樣、雲に稻妻のものすごい「稻妻のはしまで見たり不破の關」といふ句に、もとづきたるよし「江戸著聞集」に見ゆ、貞享元年、鳴神上人の役をはじめてつとむ（時に年三十四歳、鳴神上人の役、貞享元年、鳴神を墮落さする女の名を、雲の絶間となづけしゆ、團十郎おもひつきたるよし、これ等を以て、其才の秀たるをはかり知るべし、元祿七年京に上り、同十年江戸に下れり

貞享五年役者評判記、野郎立役二町月」といふ書に左の如くあり（このころの評判記は、多く半紙本なり、位付なし、元祿の末横切本となり、位付あり）

▲市川團十郎　住所ふきや町川岸

此市川とアヤすい、三千世界にならびなき、好色第一のぬれ男にて、御器量なからぶるものなし、丹前の出立とゝに見事なり、せりふ天下道具なり、およそ此人はど出世とさるべき役者、又とあるまじ、實事惡人、その外何事をいたされても、おろかなるいなし、ことに學文の達者にて、仕組の妙をよろしなく、當世丹前役者の元祖なり、お江戸に於てかたをならぶるものなし、威勢天が下にかゞやき、ふそうくは末代の役者の鏡ともなるべき人なり、すゑ〳〵なほ長くはやりたまわん歌に

市川の流れの水もいさぎよく
昏りすまして藝者なりけり

子おもふに、末代の役者の鏡ともなるべきと、貞享の頃よりかきかきしは、役者の未來記ともいふべし

真享辛年印本「解曲扇林」

▲江戸狂言作者

玉井樓八　南瓜與惣兵衛　宮崎傳吉
市川團十郎

かくの如く、作者のうちにもかゞへぬ、按るに、真享元祿中の狂言、團十郎の作おほし

「江戸鹿子」に云ふ、元祿の年、芝二座にて、團十郎荒獨の役、切狂言に、錦旗大臣に成て大當りせしが、その姿をゑがき、鐘馗大臣の頃、ゆゞらしく、その姿をゑがき、おのれの役、ゆゞらしく、天又ゞゝに賣れ、それよりや、外の役者繪はやりいでぬ云〻

元祿十七年、改元寶永二月十九日死、享年五十四、芝二緣山中密照院に葬る、法名、門譽入室覺榮

寶永二年印本「寶永忠信物語」とゝふ草紙、五冊あり、これ團十郎一周忌追善の書なり、その書に云ふ、市村竹之丞之居、八島姫の舘の任組、忠信四番續の狂言に團十郎次信の役をつとめるうち、二月十九日五十四歳にて身まかる、幼名を舛之助といひしよし見へゝ、然れば則ち星合十二段といふ狂言の時死せしと云ふ說は非歟

元祿團十郎實子、二代團十郎柏莚が傳ハ、あまねく人の知れる事なれば、こゝにいやしつ、今已に名跡七代におよぶ、誠に是徘優の名家といふべし

世界の親玉雪の友衛生齒磨ハ世間有觸タル用ヲ兼ネ其効能ハ粉末ニシテ容易ニ使用シ得ルノ利アリ

國醫學士オブデン氏　チハ世人ノ知ル所ナリ

齒科專門醫今里先生　ハ改ク齒牙ヲ磨ク用ヲ專ラトスルノ者ナレハ化學的能ク齒石ヲ除キ光澤ヲ與ヘ齒色ヲ快潔白ニシテ

瑩米　ハ世人ノ知ル所ナリ

眞ニ衛生齒磨ノ具　ハ世人ノ知ル所ナリ

雪の友　ノ名ハ其ノ性質ニ適シ且ツ世間ニ無比ナル

其廉價　ハ世人ノ知ル所ナリ

世界親玉　ハ世間ニ無比ナル

雪の友　ハ世人ノ知ル所ナリ

廣告　ハ世人ノ知ル所ナリ

箱崎千太郎製造本舗　東京銀座一丁目

佐々木玄兵衛　東京銀座一丁目

定價　袋入　金壹錢　瓶入　金壹錢　小瓶入　金壹錢　中瓶入　金三錢　大瓶入　金五錢　高等瓶入　金十錢　高等小瓶入　金十錢

●オハヨーザン齒磨改版廣告

オハヨーザン齒磨ハ發賣日猶浅キモ各位ノ御愛顧ヲ以テ續々御注文ヲ蒙リ難有既ニ數十萬ノ金摺袋紙ヲ出シ盡セリ此際美麗ナル色摺ニ改版致今一層品質香味ヲ改良精撰仕候間倍々御引立ノ御奉願上候

追テ瓶詰定價ヲ金拾五錢ト改正仕候間此義併セテ御承知ノ程願上候敬具

東京市日本橋區久松町四五番地

本舗　川口長春堂

●世界無二藥齒磨玉蘭

東京市京本橋區小網町貳丁目

伊勢屋吉三郎謹製

品質純良ナルヲ以テ廿五年紀念博覽會ニ於テ褒狀拜受

特約大販賣

東京日本橋馬喰町壹丁目　平尾賛平
同通旅町　山田治兵衛
同横山町　三橋次郎三
同同　三橋鬼春
同馬喰町　嶋村新兵衛
同同　河屋善兵衛
同横山町　同横山町
同銀座一　潮丸屋
同通旅町　近江屋平兵衛
同横山町　佐々木玄兵衛
同通旅町　小兵衛

●歌舞伎白粉

商標登録

各石鹼製造元澤井商會

東京市神田區江川町拾貳番地

特約大販賣　東京市日本橋横山町壹丁目　天野源七

栖蝦

▲天保年間觸書寫し（承前）

（天保十三年五月廿一日）

子供手遊の儀近來堺長いたし高直の品買貰いたし候趣に相聞幼年の節より宜敷品を見馴目然奢侈を導候迚て不可然節に付是迄仕入の分ハ當八月限り捌ハ月朔日より銀目は壹匁錢百文を限り右に段より高直の品決して賣出し申間敷候若相背候者之ゐるハ左ハ役人相廻し密々買上げ吟味の上嚴重の咎可申付ハ

右之通從町　惣番行所被仰渡ハ間早々町中論々迄不漏樣可相觸ハ

但番屋へハ大筆に相認可張出置ハ

五月廿二日　町年寄役所

（同年六月三日）

自今新板書物之儀御書佛書神書醫書歌書都て面書物類其筋一通の事ハ格別異教妄說等を取交へ作り出し時の風俗人の批判等を認ハ類好色書本等堅く可爲無用事

一人々家内先祖の事なとを被是相逸の儀共新作の書物に書あらはし世上流布いたしハ儀可爲停止事

一何書物によらす新板の物作者幷に板元の實名與書に爲致可申事

唯今迄發書物に　樣現樣御名出ハ儀相除ハ得共向後發書物に　樣現樣御名出ハ儀相除ハ得共向後たゞ度いたしたる書物の内押立ハ儀ハ御名書入不苦ハ

御身の上の儀且御物語等の類ハ相除

御代々樣御名發書物に出ハ儀も右の樣に相心得可申旨享保度相觸置ハ處都て明白に押出し世上に不傳へ人々存ハ儀ハ假令

御身の上ハ儀ハ相除ハ

右之通町中不洩樣可觸知也

盜人

鹿の子餅（承前）

作者不詳

ぬす人の用心に、親父藏に寢る、それでも盜人來て家所をとられり、さア一人藏の内へ入れば、外の一人は、持出す道具ちけどを手はづで、しやがんで居たり、時にあやぢ目をさまし、壁に穴の明たる合點ゆかずと、仲人の穴よりなりたまをさし出たるに、外に居るぬす人「ムヽやくわんから先かゝ

提灯

夜ばなしの歸り、みち〳〵家來と咄しながら來れば、家來も咄しが盛て、もし旦那、此提灯にハ、なせくさりをつけた物で御坐ります「それハはよつと、理不人ものが切たとき、きれはなれぬ用心じや「シテ其時まだれがもちます

牽牛花

朝とく起て橋杖つかひながら、垣の透間から隣を覗けば、寐みだれ髪の娘さん側にとしかけ、あさがほの花をながめて居る、これハかあいらしいと鳥もせずのかき居たるに、庭にかゝ瑠璃の鳥を見て、手のひらへのせて見る風情、どうもいへず、歌でも樂ずるよと、いよ〳〵ゆかしく見て居たるに、今度ハ藥をひとつちぎりたり、何にする分と見て居たりや、チンと鼻をかんで捨た

鶯

うづらも好せたまふかなあ、うけたまはり傳へ、聞に成いる者へハ珍料理くだされ、甚だ悦ばせたまふよし、ゑ出入の宗匠衆と賴み、私もさつい鶯好きなとゝ入れて、聽ふさしく行た處、さすがゐ大名の珍手の調ったる事、朝のさからいろ〳〵の、うまい香の、酒のふく下されのみならひして居る内、チヽックツイとの一聲、肝をつゞふしてあれい何でござります

（未完）

登錄商標登錄意匠

登錄商標登錄意匠

純良香料

鹿射香薔薇

一名（モスローズ）

定價

高等彩色燒付壜入　金拾錢
高等彩色燒付壜入　金廿錢
高等彩色燒付壜入　金三拾錢
高等彩色燒付壜入　金五拾錢
高等彩色燒付壜入　金壹圓

東京市日本橋區本石町四丁目

日本特約

三宅發賣元　芳香藥種問屋

松澤常吉

化粧品部

大阪市西野町

小栗小三郎

大阪市八寶寺町三

飯田皆治堂

理店

關西代

大阪所全國到る所藥店及小間物店に有

關西各地御得意樣へ謹告

御得意樣へ御厚情ナ忝

御禮旁製造品販路拡張ノ爲ニ張フ

發賣元東京橋町四丁目

改良蠟引紙壽賀本舗

護謨壽賀本舗

小間物問屋

引換

日本橋區橋町四丁目電話浪花四八番

丸見屋善兵衛

○改良蠟引紙壽賀（製法特許）

○本品の販路盛に成て非なる類似品を以て販路を奪ひ本品の聞に成ん事を恐れ本品の名義御注意を乞ひ

○本品は大なるに付

餘興

▲狂歌

寶井其角

枯尾花ふきな散らしそ窓の戸を
叩く鬨の荻のうは風

桃の屋

此人のこのみなにて俳書に
みあしなれ票あり類柑子あり

塵山人

今もなほためしに引かむ三園の
田を潤はし〻寶井の水

天邊雲人

小便のあとを清めて今もなほ
くみてのみきし寶井の水

彌生庵

硯かなゝ乞食の家も絶えし世に
梅り昔の香に匂ひけり

不二の屋

寶井がたから舘て句のなりも
まづ解けにけり雪の曙

錦の家鈴人

金屏風けがせし筆の小便を
あらひ清めつ寶井の水

大朴園千枝

我雪と五文字をかける傘の上
文のには西瀧の下に知られつゝ
萬代かれぬ寶井の水

都一庵

濱の屋眞砂

夕立の句に雷名のとゞろきて
音たから井は世に聞えけり

九梨園

牛島にはくの雲れを殘しけり
垣ひとへ隣に住める書者を見て
物がたしとや笑ふ梅が香

嘘丸

秋の屋

常陸油絲子

よしゆき

●春　春

おしめどもくれ行く春やとゝまらて
風にみたるゝ山さくらかな

●早　夏

夏さぬと見へ渡るらん涼しけに
山もみどりの衣更して

●海　上

いちしるくなき渡りける海原を
漕ゆく舟やいかにゆかしき

●おとし話し

●病氣見舞　京橋喜卯子

オイ熊さん何を考へてゐる「これは差配さんですか、實ハね私ちの出入先の御さんが、此頃弾死とか貧血とか云ふ病症で、第一病院へ入院してるテーンで、出入中の者は皆あの見舞に行るますから私ちも是非顔出しをするにやアあまり手浮雲ッ旅でも行けぬ、顔出しをするにやア高更手浮雲ッ旅でも行て考へて居る處なんで「夫やア感心だ、併しも病氣見舞なら鶏卵か又は干菓子の折でも持て行たら宜かろう」處が鶏卵は病院で毎日六個づゝ出ますから、夫に私ちも御存じの通りの貧乏ですから差配さんの前ですが、實ハ成るたけ安く直にあがる物を買て一夫もさうだ、何も先樣が困りなさる家でハなく、直段の高下ハ拘らず、只ハ人のお前さんの一寸志を持て行くのだから、寧を干物屋の折が宜からう、干鱈や燒蕨の樣な物なら何程も掛るまいから「ヘェかんべうにふ、夫も病院ちやアアッ切ださうです」

●間違ひ　濱の家順風

或旦那が客と二人で芝居の仕組もしろ〳〵あるが就中曾我の對面ハ實に旨いちやアありませんか夫に筋書も宜いと傾に居た早呑込の小僧が一旦那私も蕎麥が好ですが私しハ鰯めんや蕎麥ゆきより其天麩羅が一番旨ふ御坐います蕎麥の事ちやアない芝居の事を云ふのだ今の話しハ蕎麥の事ちやアない芝居のはなしだ小僧ホイ失策た語らうの逢ひか

●東京見物　神田　瓢錦生

成田舍の人が東京見物に出て案内者につれられ彼方此方と頻りに歩行て居る中田舍の人は案内者に向ひ「モシ東京ハ處ゝ綱渡イウ流行と見へて何處へ行ても大層針線が引張てありますだアと云ふから案内者は笑ひながら「ナニあれハ綱渡りの針線ぢやありません彼の極細くて深い山引てあるのが電話と云て各自に自家に居ながら東京中の人と話しが出來る針線、それから其次の取が出來る針線、それから又其次の一番太いのハ元の器械の處で石炭を焚けば夜になつて自然に燈火がつく電燈と云ふ針線だと云へば田舍の人ハ感心し「ハ、ヤアそんなら手品の種だア

品質善良
月頭印
兜月石鹸
定價一個
金拾錢
製賣元
東京通り油町
清水開祀堂

◉驚くべき日用品の賣出廣告

有益の特許
農務商務省
特許專賣
厨燈
ちゝ名一
即席定價
燈ろん
即席定價
座敷用　並製一個
携帯用　金七錢
同　金九錢
同　金十錢
厨燈油一瓶十五錢
金洋燈用眞鍮組立錢
銀組立錢
同　同

天狗の早業の如し但厨燈油は普通の杯に一杯あれば四十分間を保つべし此即席こんろハ右の組立なる事が出來る故道中に自宅は勿論旅行中汽車汽船の中にても物を煮沸す圖の如く高尚にして手軽なる事も自由自在又火加減を清す時は入たの可仕候ひやふにて思製の料理燗酒に大愉快を催す事もひの働なり

●市内御注文の方は無料配達可仕候

製發賣元　東京市日本橋區横山町一番地　電話番號（浪花四十二番）

阿部商會　浅草區浅草橋際
佐々木商會　浅草四郎
日本橋區油町一丁目
梅田仙吉
西村善平
大坂東區西久寶寺町三丁目
東都西洞院竹屋町北へ入
靜岡服町一丁目
仙臺市大町五丁目

脇田盛眞堂

寺澤晃兵衛
安次郎
邑瀬
神谷
美妙堂
八木伊造

此新發明三分間に湯を沸す事が出來又僅かの炭を用ひ火を起す手數なく即席

鳥肉獸肉其他の物を養焚するにも便利

●比丸の良品

百猫石鹸

定價一個二十錢

●見本品浮入用の節は郵券或錢御封入速に淳われ送り可致

東京馬喰町
大野人魚堂精製

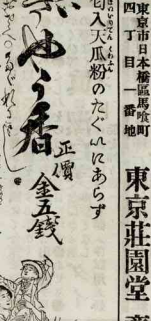
都の花

天下無比衛生的顔料優等化粧品
芳香馥郁白美艶麗顔有効靈妙奇劑

	金六十錢	金三十五錢	金二十錢	水白粉	金十錢	水白粉	價

製造發賣　東京市日本橋區馬喰町四丁目一番地　東京莊園堂　齋藤泰助

●此愛さやう香は匂入天瓜粉のたぐいにあらず



正價金五錢

發賣元　東京銀座二丁目　つぼ屋化粧品

寶語買卷巻　佐々木玄齋

各府縣下小間物店又は藥舗にて賣捌仕候御最寄に取次無之節は郵便にて御注文願上候但郵送賃一個金二錢壓賃替又は郵券代用にてもよろし

●品質善良ナルヲ以テ第四回五一會品評會優賞拜受

東京横山町三丁目　三橋兎喜次郎謹製

袋入	箱入	全大	小大	別製	拾瓶	二十瓶	三十瓶
錢	錢	錢	錢	瓶	錢	錢	錢

水品は化學作用により多年實驗して好成績を得たなれば從來世に行はる、普通齒磨と異質にして且該品を常に使用するときは齒質を傷ましむることなく高評あらんことを乞

化粧品小間物齒磨問屋
白光散本店
東京日本橋區横山町一天野源七
同馬喰町二丁目尾武井
同橋町四丁目贊平太
同通鹽町丸見屋善吉術
山田鶴三

代理店約

同馬喰町三丁目
同品川宿海岸通
其他全國至る所の小間物店及び藥店に販賣所あり

三橋兎喜次郎製

本品は化學作用により多年實驗して好成績を得たなれば從來世に行はる、普通齒磨と異質にして白健全なる世界無比にして且該品を常に使用するときは齒質を傷ましむることなく高評あらんことを乞

化粧品小間物齒磨問屋
白光散本店
東京日本橋區横山町一天野源七
同馬喰町二丁目尾武井
同橋町四丁目贊平太
同通鹽町丸見屋善吉術
山田鶴三

代理店約

同馬喰町三丁目
同品川宿海岸通
其他全國至る所の小間物店及び藥店に販賣所あり

三橋兎喜次郎製

本品は化學作用により多年實驗して好成績を得たなれば從來世に行はる、普通齒磨と異質にして白健全なる世界無比にして且該品を常に使用するときは齒質を傷ましむることなく高評あらんことを乞

製造本舗　東京横山町壹丁目（近江屋號）
小間物問屋　天野源七
全國到る處に取次販賣店あり諸量産にて諸求を乞

無害性白粉

第四回內國勸業博覽會
官中御用海外輸出之榮祖
芳香草綿
天下唯一
白粉之王大
本東京市花王堂田中謹製

齒磨之大元帥

名聲輝四海

水製　大瓶十五錢　中瓶七錢　小瓶五錢
煉製　大瓶十五錢　乙號小瓶七錢　中瓶五錢　小瓶五錢
極上大瓶一十五錢　中瓶十錢　小瓶七錢

奏効峻烈新輸入化粧劑

價定
錢一小錢二十六
錢二二共料送料
川代手切

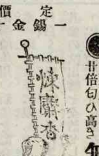
改印廣告

小生儀本月十六日發東京市實印紛失ニ付改印仕候就テハ同日以後ニ於ケル舊印ノ使用ニ關係無之候右及廣告候也

明治三十年六月廿五日　伊勢國宇治山田町　中山後平

●普通線香より甘倍匂ひ高き

無雙新發明



定錢一
價十金錢

御直段

一箱一打入	七十二錢	
十打以上	六十六錢	
卅打以上	六十三錢	

●男女數の往來と對しては特別の御相談可仕候

●煉麝香へ　未だ天下に類なき新發明の佳品まして多くの麝香を配合し麝香の美なること更に光を著しき効驗を有する必要品なり

●煉麝香へ　男女共身体適宜の場所に塗擦すれば佳香馥郁たる金の匂ひ袋にに取分け惡疫流行の際あるを所持するに異なり

●煉麝香へ　惡臭を防ぐ故高位貴人に接近御交際廣き諸君の時々少量宛御用あれば身勿論顧客に對し爽快を感せしむる佳品也

●煉麝香へ　異中汗の臭ひ而已なら寸種々惡臭を除去し故高位貴人に接近あれば身香馥郁たる金の匂ひ袋にに取分け惡疫流行の際あるを

●煉麝香へ　あれば身香馥郁自ら高尚優美なるのみ也も夏季徳生上欠く可からざる良品なり

製造元　日本橋區横山町二丁目　清水清香堂
本文舗
發賣元　同橋區　田中花王堂
關西代理店　大阪佐野屋橋詰谷角　脇田盛眞堂

●其他東京小間物問屋及ビ全國ヘ所ニアリ

平尾賛平夏期売出品広告

●全國御同業諸君に謹告

弊舗製造貴功齒磨ソロモンは一月に月に販額を増加致候段雖有奉深謝候然る處此名聲の追々海外にまで轟き候に吟味の上昨年來歐米諸國及支那地方等よりも續々注文有之候より該品功能書も從來の和文のみにて大に不便と感じ候に付今般更に英文の二種を調製致候就て全國名得産先に於て諸外國へ注文の際其由御申越被下度此段謹告仕候也

元祖 小町水

日本本邦國農商務省御登録商標

東京馬喰町壹丁目

岳陽堂平尾賛平製

貴功白粉

御注文の際は貴功白粉と御申越被下度

ダイヤモンド

登録商標

ダイヤモンド

製造元東京平尾賛平

水白粉　高等玉製　普通製　十錢　共中六錢　共中三錢　共中二錢　煉白粉　共中三錢

●煉香水は當分　帝國那須野新物産　●除蟲粉　一名　●小錢二錢五厘　大錢八錢　●中錢五錢　●定價　大錢二錢

右弊店ノ發賣ハ本邦ニ於テ最モ古キ商品ナリ加フルニ品質ノ優良ナルハ勿論ナリ故ニ之ヲ使用シ失フ事ナシ弊店ノ保証スル處ナリ

ダイヤモンド香水　ダイヤモンドローション　香水ハ船來摸造形ニシテ品質純良價格低廉ナルハ本品ノ特有也

●弊店製造の各種石鹸は創設廿五年紀念博覽會に於て有功銅牌を受領せり

本品ハ世上販賣品と異ル點多シ我國にて合剤せるものは第一ヒゴロ驗者及ビ學者ノ認ムル所ナリ

●そばかす・はたけ・むし・其外吹出物顔手足のかゆく感ずるもの・なでもしわとなるもの・夏なく肌の荒なくなる眞に潔白美艶となるダイヤモンドの命名に背かず請ふ使用上効能を知り賜へ

●煉香水　帝國那須野新物産　●除蟲粉　一名　●小錢二錢五厘　大錢八錢　●中錢五錢　●定價　大錢二錢

右弊店ノ發賣ハ本邦ニ於テ最モ古キ商品ナリ加フルニ品質ノ優良ナルハ勿論ナリ故ニ之ヲ使用シ失フ事ナシ弊店ノ保証スル處ナリ

ダイヤモンド香水　ダイヤモンドローション　香水ハ船來摸造形ニシテ品質純良價格低廉ナルハ本品ノ特有也

●割引　小器十打以上五十打以上五人掛百打以上五十五掛　●定價　大器十錢　●中器六錢　●小器四錢

●煉香水　●定價　大器十錢　●中器六錢　●小器四錢

●煉香水は貴賓及ビ婦人の必要の品にして衛生と美容とを兼ね優良なるが故に御使用上御認定願度候

東京市馬喰町三丁目　武井龍三

一同馬喰町　平尾賛平

製造本舗 一手販賣

商標

芳香　優美

煉香水

製造元 一手販賣

東京市通旅町　山田篤三

東京馬喰町一丁目　平尾賛平

特約大販賣

今回弊舗に於て新製發賣せし前記四品の器に從來世に有名なる新意匠なる薄肉高尚優美なる新意匠の器物と造ひ實に高尚優美なる模様にて缺損の虞なく且つ瓦斯の器物と同様にして取扱ひ便なる故に之を懷中する

巴里萬國博覽會出品聯合協會設立願書及び規則

巴里萬國博覽會出品聯合協會設立願書

巴里萬國博覽會出品聯合協會の發起人前田正名氏外數十名の諸氏より農商務大臣へ差出したる同會設立願書及び同規則を得たれば左に掲げて同會出品者の參考に供す

巴里萬國博覽會出品聯合協會設立願

謹而惟るに明治三十一年佛國巴黎市に開設せらるべき萬國博覽會たるや戦後の日本が海外貿易上に一大飛躍を博する好時機たるのみならず美術工藝農産等百般の事物に於て國光を宣揚するの盛舉たり萬一にも此盛舉を忽らば實に言ふへからさるの難境に陥るや明なり故府大臣見て所あり從來の慣習を一変し驚々聞得る所なり而して吾人等多年苦心同業の圖慮を組織し又聯合を謀りたる亦絶果者々一致共同の實を擧くに至れり今や各種殖産の発達を明なる政

第十二條　會頭、理事長、理事、商議員ハ名譽職とす
但し時宜に依り相當の手當を給するとあるへし

第十三條　事務員ハ有給とす

第十四條　手當、給料、旅費支給規則等は商議員會の決議に據り別に之を定む

第十五條　會頭は會員之を推選す

第十六條　理事長、理事は特別會員中より商議員は會員中より會頭之を推選す

第十七條　渡航委員ハ商議員會に於て候補者を定む會頭之を嘱託す

第十八條　會頭は本會を代表し本會全般の事務を統轄す

第十九條　理事長ハ會頭の指揮を受け商議員會の決議に據り百般の事務を處理し會頭事故あるときハ之を代理す

第二十條　理事は會員の招集に應し本會一切の事務を商議し又は三分の一以上の同意を以て會頭に提議を請求することを得

第二十一條　商議員は會員の中より常議委員五名を互選し緊急の事件を審議決定し及び理事の執務を監視するものとす

第二十二條　渡航委員ハ事務規程ハ別に之を定む

第二十三條　事務員ハ重役の指揮を受け事務を處理す

第四章　事務

第二十四條　本會は會員の出品は勿論一般出品者の出品依頼を受け出品の整頓輸送陳列説明保管販賣荷戻し及び渡航者等に關する一切の事務を處辦するものとす

第二十五條　出品手續及び委托取扱に關する規定は商議員會の決議を以て別に之を定め臨時博覽會事務局の認可を受くへし

第二十六條　本會は臨時博覽會事務局の指揮を受け事務局と各協會組合又は出品人との間に立ち相互の意旨を通し事務をして敏捷ならしむるを勉むへし

第二十七條　本會は出品撰鳳の爲め役員又ハ專門の技術家を各地に派出し出品物若くは出品手續に關し注意をなすものとす

第二十八條　本會は會場地の景況及び該地に於ける各國の準備を視察する爲め役員を渡航せしむるものとす

第二十九條　本會は博覽會開設地に於ける各國の出品に關し精密の攷究を遂け及び本邦重要物に關する品位の良否嗜好の適否需要供求の程度等を調査報告するものとす

第三十條　本會は特に適當の人を選み審査の際出品物説明の任に當らしめ道濫なからしめんことを勉むへし

第三十一條　本會は出品者に對し注文あるときは各協會組合又ハ出品者に對し紹介取次を爲すものとす

第五章　總會

第三十二條　本會は毎年兩度東西兩京に於て隔次に總會を開き諸般の協議を爲し會計上の報告を爲すものとす
但し必要の場合は臨時總會を開くことを得

第三十三條　本會の出納は商議員會の評決を以て豫算を定め處理するものとす

第六章　會計

第七章　雜則

第三十四條　本會事務細則は商議員會の評決を經て之を定め臨時博覽會事務局の認可を受くへし

第三十五條　本會規則は必要あるに際し商議員會の評決を經て之を總會に提出し修正することを得

第三十六條　本會は規則并に事務細則を修正したるときハ臨時博覽會事務局の認可を受くるものとす

右の通り發起人に於て協定す依て各自左に署名捺印するもの也

明治三十年四月

巴里萬國博覽會出品聯合協會
發起人
（記名前に同じ）

○廣告

●髪掛類
記房付……
●内丸金羽木針寒
銀水引形……
●内丸金羽木針寒
銀水引……
●内丸金羽木針寒
銀水引……
●内丸金羽木針寒
銀水引

明治卅年七月廿五日（第六拾五號）（一）

郵便報知新聞第二種郵便物認可

東京小間物商組合報

第五

謹告

我東京小間物卸商組合各店は孰れも斯業に熱血を濺ぎ其體異なるも其心は一なり是を以て製品確實價格低廉殊に天下の流行に先ち又頗る意匠を凝せり今や全國到る處瀛車瀛船郵車の便あり輸送爲めに自由自在焉ぞ土地の遠近に因て利否を說んや冀くは全國同業者諸君益々氣脈を通じ交情を厚ふし以て相互の幸福を計り給はんことを

東京小間物卸商組合　一同敬白

雜報

●教育の振作〔高田三郎氏の講演大要〕

去十七日帝國教育會講堂に於て高等教育會議員島田三郎氏は現時の教育政に關する一場の演說をなせり現時の教育及び將時の改革に對し氏が如何に觀察するかを知るに足るものわれば左に其大要を記述す

教育の大本定らざれば區々小葉の小施設は其に何等の功あるべからず今の人動もすれば小學教員の補充の急なるを說く補充固より急ならざるにあらず然れ共教員既に足らず必ずや其由なくばあるべからず其根本の由來を問ひず唯だ徒らに教員の補充を講ずれば本末を誤るの甚しきや如何に教員を養成するも有爲の人物を得ざるなく而して又献身的に教育に從事するの決心ある者を得ずは是れ寧ろ厄介者を增せるのみ厄介者今の教育社會に何の要かあるや今又教員の待遇もすれば教員の待遇の到らざるを說く然り待遇增進に缺くべからざる教育振作の一因なり去りながら此も亦區々の小刀細工のみ判任に雅じたれはとて將た年功を以て勵位を與へたれはとて悪澤とする所果して幾何ア之を以て滿足せしめ此を以て教育の振作を計らんとも此のみ計て教育の振作を計らんとも失はず教育振作の大本は國家施政の大方針と相關聯する施政の方針先づ教育の振作を計るに在らざれば百年の後教育の隆興を見んこと極めて難し而して今の國家施政の方針の存在する處奈何必ずしも教育を輕侮すべ謂ふべからざるも而も又決して尊重せざる者と言ふ能はず地方官の地方議會に臨む手加減ハいかに内務の指揮と雖するに際して彼等全幅の精神を傾け盡す如きあるハ即ち彼が最も内務省を恐るゝが故に非ず其之を恐るゝ甚しきハ即ち彼が内費に於て失敗の不可を認るの恐あれば然ら教費に於て此如き患なし故に文部省の不認可を受くべき患もなし抑も是の如きは乃ち豈國家の政針内務に重くして而て却て教育に輕き所に非ざるなきを得んや教育果して輕しと雖ども重んずべき事業果して重んずべき事業果して輕しと雖ども重んずべき手夫れ生産物を造り教育は人間を作る人間と品物と孰れが重くして孰れか輕き

教育不振の現象を言へ日も亦足らざるべし而して其特に確なる者實に教育社會の權利と利益とを代表するの機關なきより甚しきは文部省なる者は形式に於て國より教育社會の權利と利益とを代表するの機關な

五二會録事

今般晩香坡帝國領事能勢辰五郎氏より前田五二會監督同伯爵の摸樣被仰聞たる旨の私信を受し以て實業各團体中央本部主幹福島宜三氏より本會の參考として通報あり仍て

奉存候陳者前田正名氏には本月九日エムプレスマヤバン號にて安着相成候處同氏の樣て當地へ一泊不致汽船より即時滬津に乘替次第直に紐育に向け出發可被致御決心に付ては其方儀は御愛然として御愛然として御出馬相成候に付ては其方儀は御出馬相成候に付ては其方儀は御出馬相成候に付ては其方儀は

●農工銀行設立期　農工銀行設立委員は各府縣知事に於て選擇を終り大蔵大臣へ認可を申請し來る府縣叫今多き由なれども本月迄に各府縣より悉皆設立委員の任命を終ることゝ到底六ヶ敷かべし左れば是等の設立委員が定款を作り株主を募集する等一切の設立事務を終るは最も早き府縣に於ても十月頃なるべしと云ふ

●度量衡檢定更　度量衡檢定の件に付ては曩に府縣度量衡掛員及商務省に召集し諮問會を開きたる所同會の決議に依り各府縣も本年より度量衡檢定方法を勤業課員都合及び警察官に練習せしめ檢査の間際に至り檢査吏に缺乏なき樣既に夫々準備に着手したりと

●葉煙草專賣法施行　葉煙草專賣法施行後即ち明年一月一日より葉煙草を製造せしめ政府より拂下げを受けたる葉煙草と共に專賣法施行細則第十六條に依れば葉煙草と同樣者又は需用者に賣渡すことを得るや否やに就ては專賣法及び施行細則等にも規定あらざるも其許否如何は營業者に取りて容易ならざる關係あるを以て既に某省に對し何ぞ出で向もゝ目下詮議中の由なれ共未だ何ぞ出でざる由なれども規定せらるべく又

◎東京大阪間及東京市の電話　東京大阪間及び東京市内の電話事業に付て豫て本紙に記す通り本年一二月頃に於て架設すべき東京市内の電話千五百人分は既に工事に着手したるが之と同時に既設線を悉く複線に改む可き計畫にて架空線は今の倍數となし從て非常に輻輳するを以て差當り本局と浪花分局及び浪花と鐵橋、新橋間に地下線を敷く本局近傍および鐵橋、新橋間には架空ケーブルを用ゐ又鐵管の出來るまで準備として五十間乃至八十間を隔てて各處に地下深さ七尺に七尺四方のホールを造る計畫にて是等の工事へ來る最初の計畫は本局と浪花及び新橋分局間を地下線とし爲て鐵管なりしも鐵管の間に合ざる爲め全く手違のひと生じ新橋局の如きは來年二月頃に至らざれば開くことを能はず又は引受ざることゝなる且つ全線を複線に改むるに前記の工事を起すを以て今後電話交換局の繁忙一方ならざるも成るべく豫定の工事を速功する見込なりといふ

●朝鮮新開港地●　小村外務次官が此程京都に於て或往時者の間に對し左の如く答へられしと朝鮮いま回新に木浦、鎮南浦の二港を開らたり世或は此二開港は朝鮮政府の勅令に開かれしもの條約に據たるものならず故に何時にても勅令を以て廢するを得べけん邦人いま安んじて車に從ふべし得となを杞憂する者ありされども是れ眞に杞憂過ぎざるなり蓋し我が政府は只開港せりの通知を受けたるのみにて勅令にて開らざるを否やは猶通知なきなり縱し勅令にて開らざるに於ては我政府との行掛りありて我政府は改む可き計畫にて是等の工事へ來る最初の計畫は本局と浪花及び新橋分局間を地下線とし爲て鐵管なりしも鐵管の間に合ざる爲め全く手違のひと生じ新橋局の如きは來年二月頃に至らざれば開くことを能はず又は引受ざることゝなる且つ全線を複線に改むるに前記の工事を起すを以て今後電話交換局の繁忙一方ならざるも成るべく豫定の工事を速功する見込なりといふ

●朝鮮新開港地●　小村外務次官が此程京都に於て或往時者の間に對し左の如く答へられしと朝鮮いま回新に木浦、鎮南浦の二港を開らたり世或は此二開港は朝鮮政府の勅令に開かれしもの條約に據たるものならず故に何時にても勅令を以て廢するを得べけん邦人いま安んじて車に從ふべし得となを杞憂する者ありされども是れ眞に杞憂過ぎざるなり蓋し我が政府は只開港せりの通知を受けたるのみにて勅令にて開らざるを否やは猶通知なきなり縱し勅令にて開らざるに於ては我政府との行掛りありて我政府は改む可き計畫にて是等の工事へ來る最初の計畫は本局と浪花及び新橋分局間を地下線とし爲て鐵管なりしも鐵管の間に合ざる爲め全く手違のひと生じ新橋局の如きは來年二月頃に至らざれば開くことを能はず又は引受ざることゝなる且つ全線を複線に改むるに前記の工事を起すを以て今後電話交換局の繁忙一方ならざるも成るべく豫定の工事を速功する見込なりといふ

●朝鮮新開港地●　小村外務次官が此程京都に於て或往時者の間に對し左の如く答へられしと朝鮮いま回新に木浦、鎮南浦の二港を開らたり世或は此二

●陸海軍御用●近頃非常に名高きはみがき
米國シカゴ府……グレード會社製

登錄商標

LANDMARK trade DENTIFRICE mark

GRADE & Co CHICAGO

象印齒磨粉ハ彼の米國にて世界に其名藏たる齒科醫學博士「ウイルハム氏」の方劑にして當時シカゴ府に於て非常の名聲を博し紳士貴婦人社會に賞贊せられたる良品なるを以て這回弊店日本一手特約を結び洽く販賣す其の衛生上有効なる儀は辱くも左の諸大家の證認と証明により敢て喋々を要せず

シカゴ　みがき　西洋象印はみがき　定價　三錢　六錢　十五錢

米國ハーバード大學醫科學博士　武藤委員
日本齒科醫會　益田廣信　先生……御信認
東京築地居留地四番館　英國醫學博士　マクドナルド先生……御証明

日本一手販賣
安藤井筒堂
東京鋼売天水町
井善油販賣店
前宮

特約販賣店

東京縣
全　横山町二丁目
全　石原町四丁目
全　柳原川岸
全　通横山町撫町三丁目
全　佐久木玄兵衛
全　田中花王堂
全　松澤常吉
全　小林富次郎
全　小林喜次郎
全　佐藤宗兵衛
全　三橋七郎
全　井上佐
全　南部幸太郎
全　阜野造
全　田立屋勝
全　降旗要太郎
札幌縣
福島縣
信州松本町
信州松本町
名古屋
函館
會津若松
甲府
近江
橋本
新田
河内屋
濱吉
藤
藤
藤

○達山霞

（第二十回）

一瞬子稿

穢石の上には石京之進綾衣を小脇に抱ゑ右手に血刀より滴し群がる奴原片端より〆リ〳〵と切捨るは寃然梨を刈るが如く魂と迸しる血汐の雨は落ちて頭上へ濺ぐに夕誰とて近寄れもなく唯遠巻に眼開みて待ゐるばかりなり此間に早くも右京之進ヒラリと禁地の屋根へ移り塗塀の上へ飛んとせしを景季は等の火影に透し見て曩ヌ敵は塗塀から逃ぐるを邸の外へ逃がしては町掛りとなつて事倒だ通かさぬ内に搦め取つて縄打つたる者に恩賞みに任す方が壁枯るゝまで呼はれば慾には命も顧みぬ俺慣眼の荒れ武士どもも我こそ搦め取つて手柄にせんと各〻得物をさし付けて右左りより打て掛るを物ともせず右京之進片手なぐりに潮なる男の頭上をさつくと縦割りしに續いて掛る一人の武士が曳と切込む太刀先を此方も太刀にて受留め突落さんとする折柄後に寛が厶人の武士が突出したる鑓棒を右京之進は受損じ石の小鬢を一寸ばかり突破られし傷口より血汐流れて綾衣の頬より顎へ滴りしかは綾衣は身も世もあられず涙家の弓矢を守らせ給ふ南無や八幡大菩薩威徳の功力ゐはしまさは二人の上を悪なく此塀を落させたまへかしと笠原念を凝らすのみ斯くても敵は退ぞかず愈〻四方より群がり来り逃すまじとて取囲びに喧し足場は悪し穢て加へて綾衣に怪我さすまじと氣遣ふゆゑ孟仲兼は數ケ所の傷を受けて其身の進退自由ならず大第〻に勢れの出てしゐろもどろに駆りしを孟仲兼が如く塗塀へ飛び乗り堂と塀外へ落たるにと見すゐこを有京めは塀外へ出た方へ起しもやらず組伏せて綾衣を此方へ奪ひ取れといふより早く非常門颯と押開け數多の武士を後に従がへドッと喊いて脚出づれはコハ如何に塀外は何時の程より冬ゆけむ小手腹巻に身を堅め刀長刀を引提げたる二三人の武士ども舞ふと取竪め今し傳へ塗塀より轉げ落たる二人の者を中に囲みて景季が郎黨を近づけず手に手に得物をさし付て寄し討ゐ身構へする權幕なぞ難けれ誰一人近付く者なく何れも跡へ尻込みす景季は見て氣をいらち自から異へ先に進出で曩ヌ何奴なれば夜中身共の邸を圍み狼藉者をかばひ立致すを是へ出て姓名名乗れ悴が答め立片腹痛い名を聞ち度ば問みに任せ此場で名乗て聞かす程に厚魂の縮まぬ樣用心して承せは我こそ今宵警外警固の役として大江殿の下知に依り市中を見廻る仁田四郎忠常私ならぬ公けの役目を帯し某に對し理不盡の振舞に及ばゝ小

返答辻論なるに於ては何奴なりと用捨はせず片ツ端から踏にしるから吠面かくな罵れバオッと答へて腹巻せし數多の武士の中を掻分け顔は出たる大の男魂きるばかりの大音聲「ちよこざいな小悴は勿論何人なりと用捨なくみな殺すから覚悟ひろゞ虎狼迫て攻て反撃に出たる實にや郷野の狩場にて荒たる猪を手捕になし付る我の十郎祐成の首級を乞ひし當年の勇氣凛〻しとして四方を睨さに横原が郎黨何ぞ荒鷹取拉がれコッ〳〵塀の内へ逃込む中に景季一人恐ずなから震ゐ足を踏ゝて曩ヌ扨は其處許は仁田殿かよし誰殿に譲り立は其意を得ず常に於ては下さるべき言葉を正せば曩ヌイヤならぬ邸の内の事なら之知て邸の外へ出たるものは何事ありと曩ヌ某の掛り申出度き事あらば大江殿館で訴訟致す吃なる曩ヌイヤ左樣でもあらうなれと仁田殿見らゝ通の次第ゆゑ此儀は問分下れて曩ヌエヽ、さてさて厳しく強て爭立申すに於は一挙に取囲むとあれば曩ヌ其儀ならばさんとするは景季は堪ず浮足立て内の内まで逃込む忠常は カラ〻とあざ笑ひ手に弱る仲業と綾衣を介抱し曩ヌ結城殿と石井の殿高山殿なんと何も大江殿命に侍業で御坐るぞ早く那へ越れと數多の武士を付添せ己一人殿に立ち樋原の郎を見返ながら怒くとして立去る景季始自体の者は歯噛をなして唇のれども誰一人進み出で綾衣を取返さ者もなく指をくはへ呆かりなり

◎東京鑑合資會社の新設

同會社は本組合員なる横山町堂目佐野善衛氏の計畫にあり目下登記其他の手積中なるが該社の目的は鑑の原料資買及び鑑製造販賣にして其營業所は同氏家屋一部分に新築中なれと既に其九分通りまで竣功の運びに至らゝへれば是が落成次第直ちに開業の由なも而して同氏は世人も知れるが如く斯業には常に熟心甚しく經驗に富めるの人なれば必らずや製造の確實品位の純正怠ら需用者の喝采を博すは今より豫言の違はざるを信ず

●厚門貿易品陳列所

農商務省は昨年新嘉城、孟買、浦鹽斯德、ナデッサ、墨西哥、沙市の六ケ所へ貿易品標本海外陳列所を開設せし際る好結果を奏したる由は後で聞く所なりしが今度更に清國厚門に埠設の目的にて横濱商業會議所へ貿易品標本買入れ方を嘱託せり

○通貨收縮の方法

方今經濟社會の病源は通貨の膨脹と物價の騰貴に　し此二事にして匡正せらるゝに非ずんば經濟社會は今後如何なる難境に陷るやも知る可らず實為　はいよ〳〵我に逆ひて政府の經費は次第に增加し　金利は昇騰して民間の企業を妨げ經濟社會は非　常の害を被むるに至る可ければ今日に於ては通貨　を收縮して物價を低落せしめ以て金融の緩和を謀　るより急なるなし始め財政當局者の考にては　戰後の經濟社會に要する通貨は大略二億圓内外に　して之を超過する時には通貨膨脹して經濟社會を　紊亂するの恐あれば此場合には政府に於て事業公　債を發行して民間の通貨を吸收し通貨の流通高を　減じて常に適度を得せしむ可しと云ふにありたれど　も其後の實際と見るに膨脹したる通貨は多くは民　間消費者の手に入りて學業家の資本とならず通貨　の增加するに從ひ物價は騰貴して金融は逼迫し今　日に於ては明に通貨膨脹の害を見ながら當局者の　穿想通り公債を募集して通貨を吸收するは到底行　ふ可らざる難事となれるのみならず財政計畫を實　施するに連て公債を外國に賣出て外資を輸入しま　す〳〵通貨膨脹の勢を助長せんとす政府も亦萬策　せりと云へども可し然らば如何にして通貨を收縮す　る或は今日物價が著しく騰貴したる原因い膨脹し　たる通貨が專ら消費力を增加したるにわれば其濫　に洲りて租稅を增徵し人民の消費力を減殺するの　策を施せば自から通貨を收縮し物價も下落せし　ひるの効ゆるゝも租稅を增徵するには夫れ〳〵一種々の　手續あり可て過に賠行する能はず又實際にしたり　とするも人民の消費力に影響を及ぼす迄は幾多　の年月を要すれば是は永遠の策として目今即時に　施すべき策如何と云へば本銀行が金利の引上を　斷行して通貨を收縮するにあるのみ金利にして昇　騰すれば事業の濫興を制し通貨を吸收して物價を　低落せしめ結局金融の緩慢を見る可し殊に金本位　に於て金貨準備は最も堅固なるを要すれ　ば金利を引上て物價の低落を謀り以て貿易の逆戻　を制する時は金本位を實施するの點より見るも甚だ　急要の策と云へ可けれ要するに通貨の增加を以て　金融の緩慢を敎ひ得べしと云ふが如きは通貨と資　本とを混同するものにして事の眞相を誤れるの甚　だしきものなり往年不換紙幣濫發の當時金融が如　何なる有樣なりしやを回想すれば思ひ半ばに過る　ものあらんと云ふ者あり

最近のメルボーン、シ　ドニー新聞へ論じて曰く（クインスランドの北部に　於る白人と日本人との間の競爭は愈々劇甚なれ　り中ースデー島は今や日本人の殖民地と爲りつゝ　あり政府の調査に據れば目下の增加の割合にして　續けゝんかば該島は全く日本人の有となられん日本人　は現實に於て及び適業に於て漸々に勢力を占め且つ　沿海の商業に於て其大部を領有せりノース、クイ　ンスランド、レヂスター新聞の論ずる所に據れば　今後三ケ年の間には若し制限的方略を施すにわら　ずんば現實收業は全く日本人の專有する所となる　サースデー島は米國のポート、ヂャクソン云へど　而して（タウンスヴイルの新聞は更に其論調を強め　てアウストラリア全國を擧げて日本の屬國となる　の時來らんと警鐘し此勝言の荒漠たるものなれど　も白人が亞細亞的生活と亞細亞的賃錢を以て滿足　する人々と到底爭場裏に立つ能はざる如明白　なる事實なり故に白人の移住を奬勵するに非ざれ　ば遂に至られん殊に日本人の性格の大に競爭して危　險ならしむるものの如き彼等の智慧あり勤勉に長じ　白人の堪ふる能はざる境遇の下に勞働する彼等　の愛國心に富みて而かも濠州の利害に關係せざる　もの丶如くに假裝す嗚呼濠洲人は自由貿易の名稱　の下に自己の安寧を犧牲せんとするか否は決　して濠洲人が此の如き態度を以て滿足すべしと思　考せざるなり云々といへり

●新製粉狀大博士禀告

（煉製）大博士（粉狀）

定價

煉製
三ヶ月用　錦箱入　金貳拾錢
一ヶ月用　同器入　金壹拾錢
半ヶ月用　同器入　金五錢

粉狀
圓圖入大器　金拾錢
圓圖入中器　金五錢
袋入小器　金貳錢

世に後藤の類多しと雖も此大博士齒磨の口中及び鼻の有効樂を以て精製せしゆゑ第一齒の害なく衛生上七つの効を奏す常に之を淨用ひ給へ生涯口中の病を思ふ事なく又胃腸の御方は自然健胃ならしむ江湖の諸君淨試用の上其有益なることを淨吹聽の程奉希望候也

東京横山町壹丁目　鹿印煉齒磨
同　同　同　

東京　小

明治三十年七月廿五日　（八）

國名	里程	所在	郵便局名	郵便局名	郵便局名	郵便局名	郵便局名	郵便局名	郵便局名	郵便局名	郵便局名	郵便局名	郵便局名	郵便局名	郵便局名	郵便局名
武蔵	百里内	東京	大秋	向原	新宮	小米	小藤	田村	青ノ名	千宮	寺ノ出	宮ノ嶋	飯石	作仙	臺並	臺
武蔵	百里内	東京	郷田	綱町	庄柏	松澤	沼崎	熊森	泉厩	石關	嶋山	川卷	田野	嶋本	嶋郷	濱
武蔵	百里内	東京	黄酒	金鶴	高板	上ノ	田藏	五所	弘馬	毛川	遠花	三鳴本	岩子	浦村	村岩	山針
武蔵	百里内	東京	薮田	向山	岡湯	谷山	子館	前原	内尻	野卷	本子	嶋谷	田沼	口道	田原	山村
武蔵	百里内	東京	大根	湯余	稲白	小山	川碇	八王	中山	蛭戸	高築	石拔	盛盤	福鶴	野掛	荒新
武蔵	百里内	東京	番手	洋目	岡岩	國形	內關	澤子	田岡	宮ノ原	水鎧	川保	窪黛	本良	沢田	宮濱
武蔵	百里内	東京	角大	財宮	符山	荒澤	一小	田釜	川黑	澤	谷松	細若	関大	熱輕	喜二	上四
武蔵	百里内	東京	宮曲	所根	川邊	砥江	屋浦	戸上	湊頃	石井	成山	柳濱	上河	多本	遠ノ	野倉
武蔵	百里内	東京	青山	東岩	藤崎	十金	三嶋本	大大	八前	狼維	麓佐	小增	山久	田飯	鶴福	山久
武蔵	百里内	東京	野港	本山	嶋山	山内	三木	本岡	湯桃	越澤	原濱	沼野	田都	嶋坂	島下	濱川
武蔵	百里内	東京	角増	加東	口左	長三	大七	三電	人輕	郡荻	廣小	登白	富松	川彌	月來	遠富
武蔵	百里内	東京	月田	茂根	澤澤	井厩	戸戸	石首	米山	演濕	濱米	谷嶋	口嶋	館折	五刈	田嶋
武蔵	百里内	東京	能能	温尾	薮谷	高佐	暨五	野大	大沼	沼田	宮高	領仙	小牛	長湖	松者	小植
武蔵	百里内	東京	勾代	海澤	生地	畠井	田戸	地原	道堂	内尻	嶋田	沼田	牛田	沼上	川長	濱田
武蔵	百里内	東京	太大	本沼	田中	赤下	荒水	淚田	小酒	水鬼	津津	中新	百藤	町瑞	庭藤	仲小
武蔵	百里内	東京	比館	海川	山湯	呂川	造岡	老鎌	津津	首川	谷谷	田新	木田	坂代	作高	倉食
武蔵	百里内	東京	浜湯	三瀬	沢天	石田	母板	黒摺	藤澤	澤花	輪波	柳波	吉	鹽飯	本川	川瓜
武蔵	百里内	東京	澤澤	瀬見	戸佐	澤壹	石月	柳石	澤澤	衣輪	治屋	津津	岡	川野	鄉俣	上町
武蔵	十里内	東京	所千	所佐	所壁	所佳	王子	八王子	中野	金杉	大久保	戸塚	新宿	目黒	渋谷	赤坂
相模	百里内	東京	横須賀	横濱	川崎	藤沢	吉ノ原	浦川	鶴ノ岡	川崎	戸塚	鎌倉	藤沢	平塚	小田原	厚木
相模	百里内	東京	館野	中津	松田	横須賀	横須賀	横須賀	横須賀	横須賀	横須賀	横須賀	横須賀	横須賀	横須賀	横須賀
安房	百里内	東京	木更津	天羽	吉ノ原	金谷	鴨川	東條	勝浦	大多喜	大原	茂原	長柄	長生	一宮	上總一宮
上總	百里内	東京	富津	東條	鶴舞	金谷	湊	茂原	大多喜	大原	長柄	長生	一宮	上總一宮	上總一宮	上總一宮
上總	十里内	東京	子見	千葉	津	市原	川	原	幡	根津	田庄	加中野	大小品	川谷	森平川	田中
上總	百里内	東京	太佐	田倉	尻田	須賀	結	船	八大多喜	前上箱藤	町行本	草府	中野	橋	橋	橋
下總	百里内	東京	野太	田倉	尻田	須賀	結	船	橋	幡	原	根津	田庄	加中野	大小品	川谷
下總	百里内	東京	鹿島	久江	鹿島	東條	潮	潮	龍ケ崎	水戸	萬日	萬日	萬日	萬日	萬日	萬日
下總	百里内	東京	柿崎	潮ケ濱	潮ケ濱	潮ケ濱	潮ケ濱	潮ケ濱	潮ケ濱	潮ケ濱	潮ケ濱	潮ケ濱	潮ケ濱	潮ケ濱	潮ケ濱	潮ケ濱
下總	百里内	東京	横瀬	横須賀	横須賀	横須賀	横須賀	横須賀	横須賀	横須賀	横須賀	横須賀	横須賀	横須賀	横須賀	横須賀
上野	百里内	東京	四倉	磯前	鹿島	久江	野太	佐倉	酒井	鬼ケ仁	横須賀	横須賀	横須賀	横須賀	横須賀	横須賀
上野	百里内	東京	高萬	部橋	鹿島	濱崎	尻田	倉	井	賀	須賀	須賀	須賀	須賀	須賀	須賀
上野	百里内	東京	下野	黒石	太田原	谷田原	部原	田原	田原	田原	田原	田原	田原	田原	田原	田原
下野	百里内	東京	蓋野	黒石	太田原	鬼ケ仁	松沼	伊勢崎	堅上田	谷下	須賀	結城	結城	結城	結城	結城
下野	百里内	東京	野	岡原	橋原	田原	田原	崎	部原	部原	田原	城	城	城	城	城
下野	百里内	東京	下野	鹽	高	下	石	桐	關	北	高	下	石	諸	取	松
下野	百里内	東京	宮市	宮	原	沼	井	下	生	本	條	妻	國	川	川	戸
下野	百里内	東京	南北	小山	飯田	中伊	香	玉	布	伊	大	小	矢	多佐	成	流
下野	百里内	東京	中津	川	月	下	濱川	村	施	條	保	中	津	川	古	山
下野	百里内	東京	大永	磯富	眞平	玉	太	安	銚	野	姉	大	保	秦	戸	菅扇
下野	百里内	東京	梁小	眞拆	大永	磯富	眞平	玉太	守安	銚	野	姉大	保	秦	戸	菅扇
下野	百里内	東京	川彌	月來	遠富	三	葛	鹽	喜	鹿	吉	柳	草	桐	關	北
下野	百里内	東京	口嶋	館折	刈	田	嶋春	田金	岡木	胡井	川岡	壁	濕	造	田	谷食
下野	百里内	東京	長湖	松者	小名	植	中	部茂	島佐	澤駒	館新	牛大	鉾湊	神布	木	行
下野	百里内	東京	沼上	川長	濱田	村	屋木	山野	渡形	林町	久子	田	崎川	下	德	貫宮
上野	百里内	東京	百藤	町瑞	庭藤	仲小	佛	佐湯	組足	長太	藤	大木	笠磯	境岩	水海	大和
上野	百里内	東京	木田	坂代	作高	倉食	久	山本	利	原田	岡	村原	間渡	三井	宗道	田和
上野	百里内	東京	浜湯	三瀬	沢天	石田	母板	黒摺	藤澤	澤花	輪波	柳波	吉	天下	管麻	飯宗
上野	百里内	東京	澤澤	瀬見	戸佐	澤壹	石月	柳石	澤澤	衣輪	治屋	津津	岡	宮野	谷生	鶴鶴
上野	百里内	東京	所千	所佐	所壁	所佳	王子	八王子	中野	金杉	大久保	戸塚	新宿	目黒	渋谷	赤坂
武蔵	百里内	東京	大秋	向新	宮小	米小	藤田	青ノ名	千宮	寺ノ出	飯石	作仙	臺並	臺	熊五	所伯
武蔵	百里内	東京	郷田	綱町	庄柏	松澤	沼崎	熊森	泉厩	石關	嶋山	川卷	田野	嶋本	嶋郷	濱

國名	里程	郵便局名	郵便局名	郵便局名	郵便局名	郵便局名	郵便局名	郵便局名	郵便局名	郵便局名	郵便局名	郵便局名	郵便局名	郵便局名	郵便局名	郵便局名
越中	百里内	魚	氷井	伏	魚	津	來	見	波	水	津	富	泊	局	町	町
越中	百里外	魚津	氷津	津津	鳥尾	來	津津	見	波	水	津	富	泊	局	町	町
加賀	百里外	中七	鳴金	福	尾	長	島	高	羽	美	小	福	上富	泊	局	町
加賀	百里外	中七	鳴金	福	尾	長	島	高	羽	美	小	福	上富	泊	局	町
能登	百里外	金	福	中	大	中	水	高	入	三日市	四八	尾津	飯	三日市	方尼	田屋幡
能登	百里外	金	福	中	大	中	水	高	入	三日市	四八	尾津	飯	三日市	方尼	田屋幡
越前	百里外	越	鯖	鳥	岡	生	福	田	國	善	川	谷	森	平	川	橋
越前	百里外	越	鯖	鳥	岡	生	福	田	國	善	川	谷	森	平	川	橋
若狭	百里内	若	長	長	島	上	阿下	齋	津	羽	野	喜	大	宮	島	濱
若狭	百里内	若	長	長	島	上	阿下	齋	津	羽	野	喜	大	宮	島	濱
志摩	百里外	志	鳴	相	四	桑	三	今	波	相	四	名	方	庄	賀	宮
志摩	百里外	志	鳴	相	四	桑	三	今	波	相	四	名	方	庄	賀	宮
伊賀	百里外	伊	弼	相	上一	松	早	松	武	輪	山	大	中	水	高	入
伊賀	百里外	伊	弼	相	上一	松	早	松	武	輪	山	大	中	水	高	入
伊勢	百里外	伊	弼	神	外	久	鳥	岡	生	島	代	聖	田	橋	岡	善
伊勢	百里外	伊	弼	神	外	久	鳥	岡	生	島	代	聖	田	橋	岡	善
若狭	百里内	長	小	金	福	中	七	鶴	金	氷	井	伏	魚	津	來	見
若狭	百里内	長	小	金	福	中	七	鶴	金	氷	井	伏	魚	津	來	見
越前	百里外	越	鯖	鳥	岡	生	福	田	國	善	川	谷	森	平	川	橋
越前	百里外	越	鯖	鳥	岡	生	福	田	國	善	川	谷	森	平	川	橋
能登	百里外	能	鯖	鳥	岡	生	福	田	國	善	川	谷	森	平	川	橋
能登	百里外	能	鯖	鳥	岡	生	福	田	國	善	川	谷	森	平	川	橋
加賀	百里外	加	鳴	福	尾	長	島	高	羽	美	小	福	上富	泊	局	町
加賀	百里外	加	鳴	福	尾	長	島	高	羽	美	小	福	上富	泊	局	町
越中	百里内	魚	氷井	伏	魚	津	來	見	波	水	津	富	泊	局	町	町
越中	百里外	魚	氷井	伏	魚	津	來	見	波	水	津	富	泊	局	町	町

小包取扱局ハ明治一七年七月一日現在（官七月八日報）

佐渡	越後	信濃	飛騨	美濃	尾張	遠江	駿河	三河	伊豆	甲斐	千島	北見	日向	日勝	釧路	天塩	後志	石狩	磯谷	渡島	丹後
百里外	百里内	百里内	百里外	百里外	百里外	百里内	百里外	百里内	百里内	百里内	百里外	百里外	百里外	百里外	百里外	百里外	百里外	百里外	百里外	百里外	百里外
相川	村原	妙見	脇野	稻葉	谷	高	岐	坂下	篠	宮	清水	知多	豊	舞	掛	人	沼津	大	八丈島	梨	熱海	伊豆	甲斐	千島	北見	日向	勝	釧路	室蘭	根室	増毛	留萌	苫前	久遠	奥尻	当別	札幌	檜山	渡島	函館
小木	大川	岡野	草野	曾根	堀ノ内	安藤	塩竈	塩津	上野	稲葉	臼杵	雲仙	直入	麻生	奇兵隊	妻松	東茂	朝倉	神代	北大	付津	武久	熱海	本郷	富岡	家笠	見島	静母	勝浦	白浜	泊	鬱陵	永豊	廣瀬	旭川	岩見沢	西本来	木古内	函館	鶴形
新穂	新潟	中彌	針ヶ	關	柿ヶ	寺水	小柏	鳥ヶ	北大	野上	鵜ヶ	墨ヶ	祥ヶ	苗ヶ	多賀	岩横須	足利	豊西	新潟	濱焼	清水	下切	歌山	上野	質帯	魏	太	鬼	歌島	樂内	市来志内	小樽	松崎	福江	新城	瀬戸	新潟	函館	神宮寺
羽茂	岩本	三潟	松ヶ	海	海ヶ	津	三津	飯	阿池	別田	福ヶ	小	柿崎	太	鵜ヶ	稲鳴	福田	奥大	金谷	鈴藤	大下	市川	狼橋	鬼	厚留	神威恵	砂	瀧	入	森	老	北水
郷	鄙	俣	山	海	板	川	瀬	嶋	島町	所	島	坂	野	洞	田	生	嶋	澤海	岡	原色	山	居谷	川	枝	脇	内	岸	内	川	雲	川	方	浦	澤
平	林口	川	黒ヶ	貝	片ノ	浦	尾	川	五日	新	田	下	東	飯	輕	萩	高	篠ノ	土有	鹿	前	下	御	稲	氣	堀ノ内	菲	保	小笠	石	紋	霧多	古	幌	月	長	萬	部	磯	鶴
			浦	泉	附	澤	潟	中路	高	市	郷	原	富	山	動	原	富	江色	岐	具	油	橋	多	原	原	川	山	原	和	弗	巾	平	向	形	磯	佐	島	内	條	田
加茂	保	名	關	宮	鑑	燕	湯	小	屋	洗	新	茅	湯	小	屋	大	新	望	須	飯	小	大	加	子	谷	井	幡	須	八	加	子	母	村	見	井	幡	須	井	見	川	船
岳	笹	須	野	宮	魚	川	立	川	田	馬	町	野	中	野	代	田	野	谷	田	島	須	府	川	島	作	濱	口	久	須	井	幡	母	村	見	井	幡	須	井	見	川	船
木松	十	能	六日	大	今	長	新	望	手	須	高	飯		中川	關ヶ	高	八	白	津	起	小瀬	横	新	海	堀	靜	汐	松	一	吉	湯	瀬	濱	江	虻	乙	一	稻	船
崎	代	手	生	町	町	岡	村	月	出	坂	蘆	田		邊	原	須	牧	戸		賀	川	老	内	波	尻	崎	田	田	町	別		柳	益	別	田	部	田	庭	川
赤	水	葛	梶	鑪	白	村	新	栗	須	松	松	赤	伊		市	赤	今	大	犬	秕	小	刈	大	池	相	御	褐	七	蟹	魄		野	深	石	千	臼		森	船
塚	澤	塚	敷	澤	根	松	井	野	野	島	代	穂	那		場	坂	尾	井	山	野	島	渡	谷	野	田	長	塙	島	里	原	内		塚	川	狩	蘆	成		岡	越

琉球	對馬	壹岐	薩摩	大隅	日向	肥後	肥前	豐後	豐前	筑後	筑前	土佐	伊豫	讃岐	阿波	隱岐	石見	出雲	伯耆	因幡	但馬	丹後
百里外	百里外	百里外	百里外	百里外	百里外	百里外	百里外	百里外	百里外	百里外	百里外	百里外	百里外	百里外	百里外	百里外	百里外	百里外	百里外	百里外	百里外	百里外
那覇	厳原	郷ノ浦	鹿児島	内ノ浦	加治木	田ノ浦	佐賀	小倉	三池	久留米	福岡	若松	宮崎	高知	高松	松山	徳島	浜田	鳥取	倉吉	豊岡	宮津
首里	佐須奈	勝本	浦ノ内	種子島	代表	佐賀	長崎	中津	出島	久留米	福岡	柳川	高田	高知	丸亀	松山	徳島	鳥取	鳥取	倉吉	豊岡	宮津
名護	鶴ヶ	印通寺	鹿児島	加治木	横浜	鹿島	佐賀	大分	宮崎	久留米	福岡	柳川	高田	高知	丸亀	松山	徳島	鳥取	鳥取	倉吉	豊岡	宮津
八重山	鹿見	西表	伊集院	串木野	横浜	三村	志布志	高松	原田	御所	福岡	宇佐	中津	面白	高知	鹽田	神戸	佐賀	鶴ノ浦	猪熊	長崎	北大牟田
宮古島	方知	知覇	鹿屋	赤江	志布志	鹿屋	鶴ヶ	船津	高田	代	福岡	土佐	高知	代	保	津	佐賀	川	平	熊	諫	野
久米島	手石	阿久根	久根	重富	分	國分	飯田	福岡	高田	高田	江	鹿屋	小倉	呼子	大島	福ヶ	小倉	重原	坂田	野	龍ノ原	四日市	大瀬
本部	打山	山	野江	江	島	田	佐賀	川	高田	高田	高田	佐賀	小倉	子島	村	浦	岡	市	原	玉	市	田
讃谷山	永	伊	宮ノ江	福	内	清	都	都	御	木	隈	岐	宿ノ浦	有	早	武	中	鶴	佐	張	八	吉
	野	作	城	澤	御	武	農	城	山	橋	府	久	奈良尾	浦	川	岐	玉	江	崎	伯	屋	井
	川	加	知	世	覽	津	高	神	美	々	取	本	新	民	山	津	熱	宮	高	島	屋	福
	邊	脇	指	枕	高	高	原	門	津	二	民	山	津	熱	高	宮	高	鹿	野	原	橋	島
	本	宿	谷	崎	高	泊	浦	瀬	地	伏	城	下	瀬	戸	内	江	見	田	宇	久	角	家
	讃	大	有	大	根	大	大	大	吉	新	町	植	多	小	湖	諸	平	豊	椎	黒	木	古
	谷	姫	古	村	古	村	牛	河	浦	浦	陽	佐	久	田	戸	富	戸	代	岡	田	木	賀

●鹽業調査建議　大日本鹽業協會長より農商務省へ提出したる意見鹽業調査に關する建議の大要左の如しなり

鹽は人生の必要品にして其生産の多寡價格の高低人生の經濟に影響するや極めて大なり故に鹽業の發展は國利の多少に關すと雖も國家進運に關係すること少しとせず而して比年天候の不順及價格の騰貴に隨て內國鹽の價非常に騰貴したるを以て外人の竊逸鹽及び支那鹽を輸入するものあり是れ決して輕忽に附すべからざるの現象なりとす故に鹽業者は製鹽の方法を改良し製產費を減じて外鹽の輸入を禁防せざるべからず而して專制の我版圖には入りしより該地方に天日製鹽を行ふべき地少からざるを以て其情況を調査し其產鹽を本州に輸入の策を講じ又政府より適當の技術官を派遣せられ且其地方鹽業に充分經驗ある實業家を勸誘し技術官と共に該地に於ける精細の調査を爲し將來我國鹽業の方針を定めらるゝの目下の急務たるべきなり云々

●特許局審判例

第二百四十四號

審決書

愛媛縣宇麻郡上分村二十八番戶平民煙草製造業　平井定次郎　特許人

大坂市西區船南通二丁目百二十七番邸平民煙草仲買業　渡邊九兵衛　被請求人

傳馬縣三好郡井川村二百二十八番邸平民煙草製造業　伊勢源藏　被請求人

右平井定次郎より渡邊九兵衛外一名に對し第三六一七號商標登錄を無效とする爲め審判を請求したるに依り審理を遂ぐる處

請求人申立の要領は商標に使用する商標、草書國の藁の三字を書したるものにして其全形を草書部と称せり而して請求人は明治二十年十一月十四日登錄を受け同一商品に使用する第一七五四號商標の花と葉とを有する煙草の折枝を交叉したる所を布片に結束、左右より各士方に向ひ豎稍圓形の商標を對比するとき一見頗る多少の差異なきにあらずと雖も其要部とする書体相違似するのみならず普通需要者に於ては商標を識別するに當り專ら冒頭の文字のみに注意するものなるを以て相記二商標に於ては「藁」と「藁」との差異の如きは容易に之を區別するに足らざるなり且被請求人は本件商標登錄を受けて以來第一七五四號商標に類似せしめたるを以て難隔的觀察上二者甚同誤認の憂なきを免れず隨て本件商標の登錄第二條第三號に該當し同第十條に依り無效なりと云ふにあり而して其申立を確ぐるが爲め甲第一號乃至第四號を提出せり

被請求人答辨の要領は請求は本件商標か請求人の所有に係る第一七五四號商標に類似せるを以て其登錄無效なりと云ふと雖も請求人は第一七五四號商標の登錄以後に於て適宜に商標付記の文字を變更したるものにして其登錄は舊商標條例第十二條現行商標條例第十三條第二項に依り無效たるべきものなり如此無效の商標登錄を無效とすることを得へきものにあらず隨て請求人の主張する其他の理由に付ても若辨の必要なしと云ふにあり而して其答辨を確ぐるか爲め乙第一號乃至第四號証を提出せり

依て本件に關する一切の書類及証據を閲し審決の理由を説明すること左の如し

被請求人か明治二十四年三月十七日登錄を受けたる第三六一七號商標は草書「國の藁」なる三字にして請求人か明治二十年十一月十四日登錄を受けたる第一七五四號商標の要部へ草書「國の藁」なる三字なりとす今右二商標を比較するに何れも其冒頭に「國の」二字を有して而かも同一書体に書下せるを以て其形狀相酷似し「藁」と「藁」との區別あるを認めず故に此商標に於ける文字上の價値なしとするに第三六一七號登錄商標は第一七五四號登錄商標に類似し商標條例第二條第三號に該當するの理由より彼此商標を區別し得る價値なしと認むべき請求人は請求第一七五四號商標の登錄を無效とすべきものなりとの理由を以て請求人の主張は後述宜に附記の文字を變更したるに依り商標條例第十二條第二項に基き其登錄無效たるべきを以て審判請求の權利なしと云ふ論は難も第二十三條に該當する否とは全く異別の問題に屬し本件審判の審理上乃至等の關係なきを以て茲に審明を與ふるの限りにあらず

審判の理由に依り審決すること左の如し

第三六一七號商標登錄は無效とす

但審判入費は被請求人の負擔とす

明治三十年七月五日農商務省特許局審判課に於て審決する者也

農商務省特許局審判長　柳谷謹太郎

農商務省特許局審判官　機部正春

農商務省特許局審判官　中松盛雄

見られよ……此廣告を前回の廣告には大に脫字の箇處あり

創設二十五年紀念博覽會

有功銅牌受領

和歌山市橋向丁
髮油製造巡業紀伊國
小間物商

髮油廣田伊助

弊舗髮油ハ曩ニ第四回內國勸業博覽會及ビ奈良縣博覽協會ニ於テ受賞ノ榮ヲ得今回又創設二十五年紀念博覽會ニ於テ有功銅牌ノ榮ヲ擅タヘ畢竟江湖諸君ノ御愛顧ニ外ナラズ深ク謝ニ耐シ候從來猶ホ厚原質純ニ精品ヲ以テ御春顧ニ酬ントス江湖ノ諸君幸ニ此意ヲ洞シ曾ニ倍シテ御贔屓アラン事ヲ奉懇願候也

明治三十年七月

髮油

最上米國製本目入あつま玉新荷着謹告

今回荷着發賣致し候本本入あつま玉は米國本會社に於て多年苦心の末好結果を奏したる精功の奇品にして本目鮮明一見眞珊瑚と識別に難からむる程高尚優美の品に候得ば從來無地東玉同樣陸續御用向きの程偏に奉願候

發賣元謹白

江川商廛賣品廣告

●鼈甲珊瑚珠蒔繪物推朱彫各種
●船來最上黑茶本ゴム櫛各種
●船來最上人造ゴム無地鼈甲ばらふ各種
●船來最上人造ゴム象牙櫛笄簪各種

弊店發賣之ゴム諸種ハ皆ナ米國幷ニ英國ノ確實ナル會社ト特約直輸入致シ居候間物品ハ精々御撰廉價ヲ以テ販賣仕猶一層御愛顧之程奉願上候

東京市日本橋區横山町二丁目六番地

發賣元
上總屋　江川金右衛門
同町十四番地（電話浪花二百十九番）
本舗
小間物問屋　同支店

新發明
特許
東京　EGAWA KINEMON

世界一　一麝香入石鹸

（定價一個金卅五錢）

此世界一麝香入石鹸ハ其ノ名ニ背カズ多量ノ麝香ヲ以テ精製シタルモノナレバ一度使用スルトキハ其香氣馥郁トシテ他用後衣服ニ滿ツ匂袋ノ代用トナリ且香水ヲ他用スルノ要ナシ

發賣元　東京　小林富次郎

電話浅草四九六番

特約販賣店

村井茂平　藤玉堂
佐脇屋　田谷
柏屋　近藤源
善　大谷屋
大和堂　近江屋　杉崎
交　谷屋
田中　平中　大木屋
田中　文木屋

世界一麝香入石鹸

特製　文長　金鶏掛發賣廣告

特製文長金鶏掛製造主任　金坂天隣

浸婦人の粧飾品は總て其品位或ハ模樣本裁等の如何に因て大に其人の品格に關す就中髪掛の如き其品野野に陷り其品位を失ハんとするの虞なきにあらず故に之を製出して婦人の用に供するの精巧なるものハ物品の高下を論せず宜しく高尚を旨とし出し可かし等を始め其他數十種いづれも高尚にして粗雑

反古志ゝべ

▲天保年間觸書の寫し（承前）

（天保十三年六月四日）　繪屋紙掛り　名主　共

綿繪屋に唱歌舞伎役者、遊女、女芸者等を一枚摺に致候儀屋に拘り候筋に付以來開板い勿論是迄仕入置候分は決て面賣致間敷其外近來合巻と唱候繪草紙の類絵柳等格別入組重に役者の似顔狂言の趣向等書其上表紙上包等之彩色を相用ひ無金の手數を懸け高直に賣出し候段如何の儀に付是亦仕置候分共決て面賣致間敷候但似顔又ハ狂言の趣向は相止め忠孝ハ元文に致し男女勧善のため心得相成候樣書綴柳も際立候程省略致し無用の手數相懸候樣急度相改め尤表紙上包等之彩色相用ひ候儀は堅く可致無用候尤新板出來の節々町奉行所並町奴方へ差出改受可申候

（同年六月廿二日）　市中取締掛り　名主　共

百姓町人共金銀の品相用ひ申間敷心得違にて所持致居候分ハ其品早々金銀坐へ差出引替可申旨去戌年相觸候處今以銀ぎせる其外金銀具の品所持致候もの有之哉に相聞不埒の事に候然る風俗をも被禁候上ハ所持致居候も無益の儀にて且主人或は出入屋敷にて賞受候共麗禁候仰出候品に有之上ハ素より所持可致儀無之儀年來持傳へ候共早々其品差出引替可申ハ右の先年取集方懸り名主共之ヲ付置候處當坐の儀に付今般改而其方共之懸り申付候間能々申諭町人ども所持の金銀具爲差出其方共取集め品拵の儀に付目方等得と記置所持主名割別紙不及申上間直に金銀坐へ差遣し引替候代金は所持主共へ相渡坐方へ差出候具數ハ毎月両御役所月番の方之相扇候樣可致候若申渡候趣不相用隠置不差出族有之候ハゝ早々申立候樣可致

（未完）

◉近世奇跡考（抄録）

浅草楊枝店始原

寛永の頃は、店などのまへず、ちいさな長櫃もうのものゝ上に、茶碗など楊枝とならべおきて、賣けるよし、其頃の者十餘人、今に楊枝をあきなひて櫃の親といふ（國云役店）これ櫃の上にて物を賣たる証の、今に殘れるなり、今類看板にさて、造佛をおこなふ時、鬼に扮するハ、彼櫃親等のつとむる古例なりとか（以上淺草庵主人、彼のひゐやをのうち、古老のもの、説なりとてものがたりき）

扨に、むかしハたて茶をのみ、もちひたれば、茶筅をかゝ、今より多かりつらん、これ寛永元年より、文化元年ゝ、一百八十一年のむかしがたりとか

●深見十左衛門傳

深見十左衛門、本姓は深津、名は貞國と云ふ、寛文の頃、江戸に六方男達と云ふものゝ、あまたあり、其徒のかしらなり、強きをとゝき、弱きをたすけ、人の危急を見て、すくはずとしいふことなし曾て俳諧をたしみ、延寶年中、難波の梅翁宗因、江戸に下りし頃、其門に學ぶ、一時の句に名月や來て見よがしの廻縁

身のたけひくゝ男なりしが、頤のひろくぬきわけたれと、此句あり、其頃の小歌に、頤のきはの前から見へぬを、來て見よがしのこと、うたひけるよし、天和の頃ゆゑありて謫せられし、翌年春の句に

梅なれや花橘はかゝねども

此句吉兆となり、廿八年を過て、寶永中歸鄉す、老年におよびても、二尺四五寸の朱鞘の大脇差をはなさず、形容年よりは若く見へて、氣力壯年の者に增りしなり、ひに剃髮して、自休と稱し、菩提所、本郷小片町、龍光寺のうちに、庵をつくりて住ぬ、享保十五年三月十八日歿す、享年九十歳、龍光寺に墓碑あり、一應院心月深自休庵主墓となす、傳へて云ふ、十左衛門若かりしとき、人と打あひ、むかふ歯を、一枚かきけるが、金を以て入歯をつくり入しとか

以上「古今俠客傳」「洞房語園」の説に、予が考へ以上「古今俠客傳」「洞房語園」の説に、予が考へをくはへて、かきつけつ、髭の意休賣の此人の事なり

（未完）

保新吸　驗製薄　附荷パイプ　麝香零雪　麝香南蛮　水仙花

三橋商店製造品目廣告

御紙類はみがき用白光散○麝香散（金龍印）○新日本○美人歯磨○御用達人○美人散○衛生ねりはみがき○虎印ハミガキ（船楽）○熊印ハミガキ（透明）○白粉下キ　膠約一手販賣品各種○別繪ふしろい○用美王水○御博士しろい○御白粉（新意匠紅付白粉）○特製水白粉○美王水○御美王水ふしろい○菊ぱたん○小町さくら○京人形○御共製詰鳥○江戸乡まん其他紛製白粉等各種○御水おけふい共日張詰○御水おけふい共日張詰○御博士しろい○御白粉（新意匠紅付白粉）○特製水白粉○美王水○御美王水ふしろい○菊ぱたん○小町さくら○京人形○御共製詰鳥○江戸乡まん其他紛製白粉等各種○正眼人造麝香○麝香水酢○津ぞの水○美王ふしろい○麝香入り補製透明人造麝香○麝香水酢○津ぞの水○美王ふしろい○銀水ふしろい○御句袋ふしろ各種○船來形香水香油○新意匠真ゆげ形各種○婦人用小間物類

右製造品ハ特別廉價ヲ以テ販賣仕候間陸續御注文被仰付候樣奉希上候

東京日本橋區横山町三番目
御用達麝香化粧品小間物商
三橋兎喜次郎

本舗

白光散

新製麝香煉よわたる石鹸

近來種々樣々の石鹸ありと雖も未だ完全の品に乏し因て弊舗ハ國家の爲めと愛ふる事久しかりしが今回諸學士諸博士諸技師の秘密品を勺併用し遂に此欠下無比純良最佳の石鹸を製造發賣と り勿論理化の作用より成りたれば其功驗の不思議なる事い一ち枚舉に遑あらず委敷ハ一小冊として別紙に添あり殊に芳香の馥郁たる遙かに梅櫻桃李の上にあれば常に之を用ひて皮膚病の豫防となり又之を携にして旬袋を代用す實に近代の痛品なり一度御試用の上多少に拘らず續て御用御付られ下されん事を偏へに願ひ奉る

東京市日本橋區馬喰町二丁目

麝香煉石鹸類製造發賣　淺井支店

◉女中庸（承前）　作者不詳

その秋ハ無かへり去んで翌年の春美雄にも双すして孤、桃玉景が家に來りければいとゝ哀れと思ひて詩を作りていはく

昔時無偶去。今年還獨歸。古人思既重。不忍更双飛。

昔時ハ無偶去。今年還獨歸ハどハ去年のあゝ双なくしてゆきたる燕の今年獨り歸りたるよといへる心なり古人思既重。不忍更双飛。とハ彼の身終りたる男の恩愛深く重ければ改めて他夫に嫁偶とといへど堪へがたしと云ふ心を今頃つゞめになぞらへて双飛に忍ひすといへハ獨に貞女の志しには非情の鳥類も感じ侍りき増て人なるをもつて鳥だに不如べけんや

一妻女の道正しからざれば内乱れ家亡ぶる事昔しより數多し行儀能く婦の四德を備へ慈愛の意深く舅姑に能くつかへ子孫をよく教へ導き門門の教正しきを賢女と云ふべし宋王の夫人に伯姜といへるあり夜御殿に失火ありけるに人々皆にげ散しに一人の臣下疾出でたまへといひけれども女の禮儀侍女二人つれずれば夜ハ歩行せぬ法なりと出たまはず終に焼死たまひけり此外節義の爲めに高行云ふ女ハ爲を列ぶ今女は耳をきき季氏は智をた虚ハ目をくしりて拾しとなり斯樣の賢女ハ名高く未代の鏡なり妻才知なれば夫の鳴ひ少なきものあり夫ハ美を揚げ善を顯し夫親を和合せしめ家の榮へ衰へハ妻の善惡によるものなれば能く慎みて婦の道を守るべし

（未完）

◉講義　鹿の子餅（承前）　作者不詳

◉劍術指南所

諸流劍術指南所と第太なかんばん、人物くさい侍來て、何流なりとも わたくし相馬の流儀御指南下され、御門弟に成りましたいとの口上、「其元様ハ表の看板を見て、お出でなさりますか「左様でなさりますと、なかんばん、あれハ嘘ひ人の用心でなさ、ります

◉蜜柑

分限なる者の息子ハ、照のゝ暮さに中り大煩ひ、なんでも食事ハ、まゐれば、打詩てなにかのみかんないかとの苦勞、アイなんにも喰ひたらない、そのうちひよつと蜜柑なら喰ひたいとの好み、安い事と買にやれど、六月の事なればいかなる事なし、笑に須田町にたつた一ッあり、一ッで千兩、一文ムつかいても賣らず、もとより大身代の事なれば、それでもよいとて千兩に買へ、さアかれと出せば息子うれしがり、枕かろく起上り、皮をひいた處が十袋あり、にこ〳〵七袋ひゝ、いやもう旨ムとでうもないと云へば、これハお袋樣へあげてたもと、殘る三袋手代にわたせば、手代ハこの三袋をうけ取て道から欠落

◉下女

どうだおさんどの久しい、どこへこさる「今日ハ宿おりに出やしたッテこしいどこに居やしやる「アイこしい下谷の餅屋に居やす「ナニ餅屋、そんなら大分もちを喰ムだらうの「なゝに去年湯屋に居たけれども

◉初夢

實婦樣で寐たわした、友達へ人を御しよびあつめ亭主何やら大よろこびの体、神棚へみきをあぐやら、客へハ酒さかなを出すやら、上を下への大さわぎ、なんでも初春早くめでたき事と見へた、どんなこつちや、からもちつとあやりたい、云て聞かしやれ、されば聞いて呉りや、ゆふべめでたい夢をみた「何をみやつた「丸づけを見た「ナニ丸づけを見た、丸漬がなぜめでたい「ハテ「富士二たか、南無三まちがつた

◎御斷

今回ハ紙面の都合により講談筆記を除興とし相休みます

弊店販賣之諸品は何れも實用的堅固を旨とし就中精良なる原料を撰び加ふるに精巧手練の職工を以て確實なる物品を調製し專に清利を極め價額の廉價を主とし他舗に一歩も不讓を確證す

鞄靴類及代攣創資具類其他諸品

社會の進歩と共に新形流行品を整製專賣す

發賣元　東京市馬喰町一丁目　歯磨本舗　大野金城堂
定價　袋入一錢　鑑入一函五十入　鑑入四錢　一函廿本入

●暑中永ク貯ヘ置共少シモ塊ル患ナキハ本品ノ特色ナリ

特約代理販賣店（姓名組合名簿順）

東京日本橋區横山町　天野源七
全區全町　中村喜三郎
全區全町　前柏善藏
全區全町　川忠兵衛
全區全町二丁目　佐野善右衛
全區全町　江川金右衛
全區全町　田中花王堂
全區全町　脇田盛眞
全區全町　森支店
全區全町　浅井碩成
全區橋町三丁目　丸見屋定兵衛
全區橋町四丁目　炭屋善七
全區全町　若松町　岡初太郎
全區全町　富和屋小兵衛
全區通鑑町　尾賛平
全區馬喰町一丁目　平田善七
全區油町　村藤七
全區全町　秋坂屋伊之助
全區全町　汐見儀兵衛
全區全町　岩田屋藏
全區太郎馬二丁目　尾張屋徳太
全區兩國吉川町　尾張屋伊勢松
淺草區材木町

以下全國到ル所無限ノ取次店アリ

巻莨用パイプ
薄荷パイプ材
ライスペーパ
各種製造元
船來パイプ問屋
東京市日本橋區通鑑町四番地
越　菅谷爲吉

製造元　定價　鑑入四錢　袋入壹錢
東京　大野金城堂

●本品の特色●

製造元　遠陽山名町　森川積善堂
本舗　東京日本橋區橋町四丁目小間物問屋　丸見屋善兵衛
電話浪花四四八番

普通品に比し價格低廉にして量多し
光澤頗艶麗にして而かも永く損ずす
わるれもつきにくし
之はひとしなしに

●驚くべき有益の日用品の賣出廣告

厨房用名称　燈　ろんてん

許特賣專省務商農

特約店　東京日本橋區油町大門通　名古屋市鐵砲町　梅田仙吉　西村善平

発賣元　浅草區浅草橋際　東都西洞院竹屋町北へ入　京都静眞服町一丁目　大阪東區南久寶寺町三丁目　阿部齊四郎　佐木玄兵衛

料理燗酒に大愉快を催す事も自由自在又火加減と湯の時は無料配達可仕候

●市内御注文の方は無料配達可仕候

東京日本橋區横山町二丁目　脇田盛眞堂

天狗の早業の組立なれば旅行中汽車汽船の中にても物を煮沸すの如く高尚にして手の掛らざるは時間に即席にて出來る故道中に思ひやるにて思

此新發明の賣用は普通の杯に一杯あれば四十分間を保つべし

三分間にて湯を沸出す事が出來る

炭を用ひ火を起す手數なく

即席

即席

即席

即席

定價　北一製　金七十銭　金九十五銭　金一圓四十銭　一瓶十五銭

携帶用　眞鍮組立　洋鍮組立　同

厨房燈油

鳥肉豚肉其他の物を煮焚するにも

極輕便の組立なれば勿論自宅は勿論

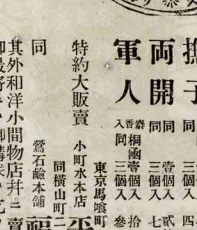
●此愛さやう香は包入天瓜粉のたぐいにあらず

賣元　東京銀座二丁目　つのやつ商會　電話四五番　佐木玄兵衛

各府縣下小間物店又は藥舗にて賣捌仕候御最寄に取次無之節は郵便にて御注文願上候但郵送賃二個金二錢宛賃替又は郵券代用にて宜しく

幹店製造石鹸ハ總テ香氣馥郁

登録　商標



軍人石鹸廣告

勝日光菊　桐函壹個入　同大函三個入　同壹個入　同壹個入　同壹個入　貳個入　同壹個入　同壹個入　同壹

定價
小金五錢中金十錢大金二十錢
特別製金五十錢金壹圓

滿天下男女諸君の大喝采御愛用を博しつゝある艶の水（化粧下）艶の花（艶白粉）の二種は今更物珍らしく申さずとも何れも遠くの昔しから御存知の通り世にも稀なる祖先傳來の製法を元として之に近世歐米各國に流行する化學的作用の新法を配合精製したる品なれば艶の水は敢て女子に限らず男子にして之を用ふるも色を白くし艶を增し又にきび、そばかす、あせびその他の吹出物を全治せしむるの奇効を奏し艶の花は其他世人の知らざる秘密品數種を用ひあれば其効未だ世人の知らざる秘密品數種を用ひあれば其効

香氣馥郁として鼻を衝くのみならず何ほど汗を流しても決して流れず又衣類等を汚す事なく皮膚の毛穴を防ぎおぶら多き人にても決してむらなく生せず素肌と滑らかに黃賣の温泉に浴するの感あり此艶の花の最も特色とする所なり左れば此艶の水、艶の花をまだ御存じなき御方は一度御試用あつて其効能及び製法の奇々妙々賣に不思議なる事を知り給へ

東京神田區佐柄木町
製造本舗　柳屋敬次郎
東京日本橋區馬喰町
發賣元　加藤盛花堂

取次販賣店（イロハ順）
○伊勢屋富岡○尾張屋德太○脇田○龜忠○村藤花王堂○柏善○大小○伊中○喜○形屋○山丸善○丸炭○萬金○森本金○田鶴堂○江川支店○三善○其他全國各地至所小間物店及賣藥店

○改良蠟引紙壽賀（金版大四）
御一報大第本進呈

暑中見舞
暑中御見舞
東京小間物商報　字植
金平三郎

○本品の原料は路盛本品の顧客を瞞着せんとする者往々有之候間御購求の際は本店の名義御注意を乞ふ

○本品は盛大なるに付近頃似て非なる類似品を以て

○改良蠟引紙壽賀　東京橋町四丁目
特製
蠟引製
小間物問屋
丸見屋善兵衛
日本橋區橋町四丁目電話浪花四四八番

（報告廣告第十二號より一期掛入）

大箱　長箱　包入
同改正紙包
同　包
同　包
別器　丸國　個入
小瓶　同　個
大瓶　同　個
別器　個
小瓶　個
大瓶　個
○濃き淺き化粧粉製
○水おしろい
○正味五合入○三合入○一合入○各種
○むれおしろい
錢錢錢

●暑中御伺

暑中とは申ながら日々の炎蒸實に難堪相覺候得共各地御得意樣方時候の御障も無御座愈々御健勝に被爲在候段欣喜不斜奉存候隨而弊店儀も一同無異營業罷在候間乍憚御安心被成下度就ては一々卑書を以て御伺び可申上の處何分多數の御得意樣に充分手廻兼候旁甚だ不本意且失禮ながら爰に當紙上を以て暑中御伺ひ迄如此御座候謹言

東京市馬喰町二丁目一電話浜花六五二番

宮内省御用達　平尾贊平
　　平尾銑也

資生堂化粧品類

御問屋　岳陽堂

會計主任兼會計補助　浅井國太郎
營業補助　勝浦直太郎
店員　山本熊吉
　　伊藤宗吉
　　平尾清治

●ダイヤモンド製造場移轉廣告

弊店製造貴功齒磨ダイヤモンドの儀其創業以來地の内外を問はず人の男女を論せず實ま前代未聞有の大喝采を以て歓迎ひられ進月歩遂に今日の盛業を極め候段固より品位精良有効無比の結果といへながら又偏に大方諸君の御庇蔭厚き賜なりと深く感謝する所に候然る處來の製造場にては大に狹隘を來し不便尠からず候のみならず製品の遅鈍は自然御厚意に背き候處へ有之候旁今般更に神田區岩井河岸第七號地へ製造工場を新築し去る十八日より同所へ移轉の上機械を整備し職工を増員し益々奮勵益々大勉強以て製品の謹强を相計り事に致し間何卒倍前愛顧の程偏に本願い敬白

貴功齒磨ダイヤモンド本店　平尾贊平

●濃厚麝香液は原料幷容器騰貴に付き一打に付從來の原價に金五錢の御直增を相願候也

東京馬喰町一丁目　平尾贊平

製造元　山田篤三

東京市通旅町
東京馬喰町一丁目

一手販賣　平尾贊平

特約大販賣

京橋銀座　佐々木玄兵衛
日本橋通油町　村田藤七郎
橋通四丁目　村田善兵衛
丸見屋小路　松林堂理助
櫻山町一丁目　杉谷治兵衛
横山町二丁目　嶋村新兵衛
日本橋通石町　瀬戸物町
江戸橋袋町　新井庄兵衛
橋通三丁目　玉都武吉
鬼岩町　文堂
同三丁目　大丸
同　同　同　